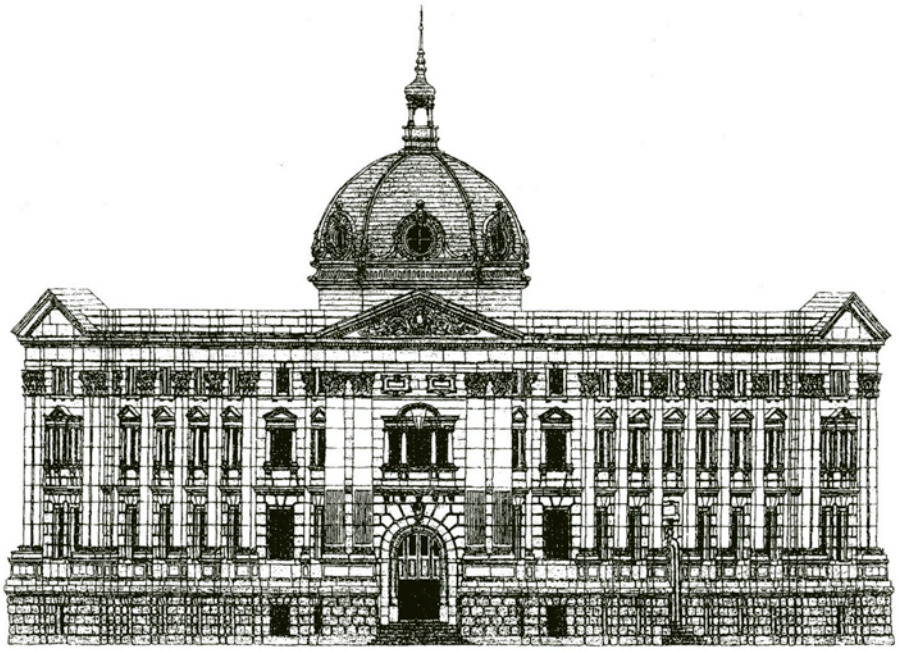
神奈川県立歴史博物館年報

平成 22 年度



神奈川県立歴史博物館

2011 年

はじめに

平成 22 年度、当館は「開かれた博物館」「親しまれる博物館」を目ざし、さまざまな活動を行なってまいりました。

展示活動としては、３回の特別展を開催しました。春には前年度末に開催した「彩色立面図に見る日本の近代建築 ― 銀行・オフィスビルから邸宅まで ―」の「後期 銀行建築編」を開催し、横浜市在住の建築家岡義男氏が制作した彩色立面図と関係資料により、日本全国の銀行建築を紹介しました。秋には「天狗推参！」を開催し、赤い顔に鼻高の天狗のイメージがいつ頃成立したのかを、天狗を主題とする絵巻や天狗面などから探りました。冬にはさまざまな図柄で出版された忠臣蔵の浮世絵を題材に「浮世絵☆忠臣蔵 ― 描かれたヒーローたち!? ―」を開催し、浮世絵の面白さを探りました。

このほかの展示活動は、所蔵資料の中からテーマを選び行なうコレクション展として「奇妙奇天烈!? 明治の版画あれこれ」と「江戸時代の貨幣」を開催しました。また、夏には特別企画「まつり ― 人々のつどい、にぎわい ―」として、夏の風物詩である「まつり」にちなんだ作品を常設展示の中で紹介しました。さらに、県内の発掘調査の成果などを展示する「平成 22 年度かながわの遺跡展 ― 発掘された武家の古都・鎌倉 ―」を、県埋蔵文化財センターと共催のもと開催しました。

また、学芸員の研究活動の成果を『研究報告』などにより公開するとともに、講座の開催や学校連携を中心とした学習支援活動、さらに、子ども博物館教室、夏の恒例行事となりつつある「ミュージアム・クイズラリーよこはま」、３年目を迎えたミュージアムコンサートなど、多彩な教育普及活動に取り組みました。ホームページについても内容の充実につとめ、新たに小学生・中学生向けの「こどものページ」を設けました。

なお、本年度は広聴活動の充実のため「県博フレンズ」会議を開催し、県民の方々から当館の展示や教育普及活動などについて貴重なご意見を頂戴しました。

今後もより一層、ご利用になられる方々の期待に応えられるよう活動いたしますので、御支援の程をお願い申し上げます。

平成 23 年 3 月

神奈川県立歴史博物館

目次

はじめに
目次
1　沿革・理念
(1)　沿革 ―― 3
(2)　神奈川県立歴史博物館の理念 ―― 4
2　管理運営
(1)　組織 ―― 5
ア　組織及び分掌
イ　職員名簿
(2)　歳入・歳出 ―― 6
ア　歳入
イ　歳出
(3)　入館者状況 ―― 6
ア　入館者数
イ　有料入館者内訳
ウ　無料入館者内訳
エ　特別展の入館者状況
(4)　広報・広聴 ―― 8
ア　広報実績
イ　「県博フレンズ」会議の開催
(5)　施設概要 ―― 8
ア　概要
イ　館内施設
ウ　外部協力
エ　平面図
3　調査・研究
(1)　館独自の研究事業費によるもの ―― 12
ア　総合研究
イ　個別研究
ウ　グループ研究
エ　調査研究成果報告会
(2)　日本学術振興会科学研究費助成事業によるもの ―― 14
(3)　個人研究活動 ―― 15
ア　研究報告書
イ　個人研究活動
4　資料収集・修理・保管・利用
(1)　考古資料 ―― 22
(2)　歴史資料 ―― 22
(3)　美術資料 ―― 27
(4)　民俗資料 ―― 32
(5)　写真資料 ―― 33
(6)　資料の燻蒸等 ―― 33
(7)　その他の資料 ―― 33
ア　図書
イ　映像
ウ　写真
エ　情報システム
5　展示・教育普及・学習支援
(1)　常設展 ―― 37
(2)　特別展 ―― 37
(3)　コレクション展 ―― 51
(4)　その他の展示 ―― 54
(5)　学習支援事業 ―― 60
ア　講座
イ　特別展記念講演会等行事
ウ　学芸員による展示解説
エ　ミュージアムトーク
オ　その他の行事
カ　子ども・青少年向け教育普及事業
キ　学校連携事業の状況
(6)　ミュージアムライブラリー ―― 69
(7)　普及印刷物 ―― 70
ア　図録
イ　広報印刷物
ウ　神奈川県立歴史博物館だより
(8)　ボランティアの活動 ―― 70
ア　活動状況及び実績
イ　入門講座
ウ　専門研修
エ　その他の研修
(9)　博物館実習生の受け入れ ―― 72
ア　見学実習
イ　実務実習
6　資料
(1)　条例・規則 ―― 75
ア　神奈川県立の博物館条例
イ　神奈川県立の博物館組織規則
ウ　神奈川県立の博物館の利用等に関する規則
(2)　利用案内 ―― 79

1　沿革・理念

(1)　沿革

昭和38 年 6 月	教育庁に博物館準備事務室を設置
昭和41 年 11 月	神奈川県立博物館条例の制定により、神奈川県立博物館を設置 神奈川県立博物館組織規則の制定により、庶務部、学芸部の 2 部を置く
昭和42 年 3 月	神奈川県立博物館開館
4 月	附属機関の設置に関する条例の一部改正により神奈川県博物館協議会を設置(委員 20 名)
6 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、庶務部に庶務課、経理課の 2 課を置く
昭和43 年 4 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部に学芸課、人文課、自然課の 3 課を置く
昭和44 年 3 月	旧館である旧横浜正金銀行本店が国の重要文化財に指定される
昭和44 年 7 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、庶務部を管理部に、庶務課を管理課に名称変更
昭和47 年 8 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部の各課の名称を廃し、企画調整課、学芸第一課、学芸第二課及び学芸第三課の 4 課を置く
昭和49 年 8 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、管理部に施設保全課を置く
昭和52 年 5 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部の各課を廃止
昭和53 年 9 月	文部省学術研究機関の指定を受ける
昭和55 年 2 月	入館者数 100 万人達成
昭和62 年 4 月	第 2 次新神奈川計画の重点政策「文化施設 21 世紀構想」の一環として、博物館再編整備事業策定
昭和63 年 12 月	神奈川県立博物館整備構想懇談会が「神奈川県立博物館整備構想に関する提言－自然系博物館・人文系博物館の基本的な考え方－」を提出
平成 2 年 3 月	人文系博物館の整備計画・展示計画策定
平成 3 年 3 月	博物館総合情報システム整備計画、資料収集計画を策定
平成 4 年 3 月	展示基本設計
平成 5 年 3 月	改修工事基本・実施設計、展示工事実施設計
4 月	県立博物館休館(～7 年 3 月)
10 月	改修工事及び展示工事開始
平成 6 年 11 月	改修工事終了
平成 7 年 1 月	神奈川県立博物館条例改正に伴い「神奈川県立博物館」は「神奈川県立歴史博物館」と名称変更、神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、企画情報部に企画普及課及び情報資料課の 1 部 2 課を置き、管理部の施設保全課を廃止
3 月	展示工事終了、博物館情報システムの一部稼働開始 神奈川県立歴史博物館開館(18 日)
6 月	国の史跡に指定される
平成 9 年 7 月	博物館ボランティアが活動を開始
平成 11 年 2 月	金銅装笈・椿彫木朱漆笈・清拙正澄墨跡・石室善玖墨跡・源頼朝袖判下文・源頼家袖判下文が県の重要文化財に指定される 神奈川の職人の道具(17 職種 1,982 点)が県の有形民俗文化財に指定される
平成 11 年 4 月	重要文化財の公開承認施設として文化庁から承認される
平成 13 年 1 月	三浦市間口洞窟遺跡出土品(450 点)が県の重要文化財に指定される
平成 13 年 3 月	附属機関の設置に関する条例の一部改正により、神奈川県博物館協議会を廃止
平成 18 年 4 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、管理部管理課と経理課を統合し管理課に改め、企画情報部企画普及課、情報資料課及び学芸部の 2 部 3 課となる
平成 19 年 11 月	旧館である旧横浜正金銀行本店が、経済産業省により近代化産業遺産(横浜港周辺の関連建築物群)に認定される

⑵　神奈川県立歴史博物館の理念

神奈川県立歴史博物館の前身は昭和 42 年開館の神奈川県立博物館である。昭和 62 年から自然系と人文系が分離分館する再編整備の検討が行なわれ、平成 7 年のリニューアル開館に至るまで、3 回にわたって博物館活動の理念やテーマが検討・提案された。

ア　昭和 63 年 12 月、神奈川県立博物館整備構想懇談会から提出された「神奈川県立博物館整備構想に関する提言－自然系博物館・人文系博物館の基本的な考え方－」（以下「提言」という）

イ　平成 2 年 3 月に策定された「神奈川県立人文系博物館（仮称）整備計画（案）」（以下「整備計画」という）

ウ　平成 7 年 3 月の再編整備時に作られた「神奈川県立歴史博物館概要説明」（以下「概要」という）

ア　「提言」における活動理念・テーマ

㈠　人文系博物館の「意義」（「提言」を要約、抜粋）

a　文化の視点からの未来の探求
b　考古、歴史、美術、民俗等を統合化した新しい文化史の創造
c　歴史的、文化的特色による神奈川のアイデンティティーの探求
d　振幅の大きな神奈川の歴史にみる人々の生き方の探求
e　神奈川の文化と内外の文化との交流や相互関係の探求
f　文化史的意義のある資料の集積と後世への継承

㈡　「基本テーマ」等の設定

a　基本テーマ：「文化の交流と変容」

上記の意義を踏まえ、また、神奈川の文化と歴史を専門的かつ学際的な観点から総合的にとらえる唯一の博物館として活動していくため、基本テーマが設定された。

b　サブテーマ：「神奈川の文化と歴史を考える」「日本・世界の神奈川を考える」

空間的、時間的な広がりのある視点や、先人から受け継がれた地域の固有性をとらえる視点に立って２つのサブテーマが設定された。

c　展開の視点

これらの基本テーマ、サブテーマを、展示をはじめとした様々な博物館活動に反映させるため、次のような展開の視点が設けられた。

［継 承］　各時代の文化と時代を超えて継承される文化を歴史の流れの中でとらえる
［交 流］　他の国や他の地域との文化交流を空間的、時間的広がりの中でとらえる
［変 容］　文化の変容をダイナミックにとらえる
［風 土］　文化の特色を地域風土を通してとらえる

イ　「整備計画」における活動理念・テーマ

上記「提言」を受け、平成 2 年に「整備計画」が策定され、再編整備の具体的な内容がまとめられたが、「提言」における博物館の意義、性格、基本テーマなどは、歴史博物館のあるべき姿を示す目標・指針として継承されることとなった。

ウ　「概要」における活動理念・テーマ

平成 7 年のリニューアル開館に際して作成された「概要」では、当館を「かながわの文化と歴史」を総合的に扱う博物館と位置づけ博物館活動の基本テーマとし、展示テーマを「文化の交流と変容」とすることが示された。

2　管理運営

(1)　組織

ア　組織及び分掌　　（平成 22 年 4 月 1 日現在）

- 館　長 ― 副館長
  - 管理課
    - （分掌）公印、文書、個人情報、人事、財産、予算の経理、観覧料の徴収、物品の調達処分、寄贈品の受納、寄託品の受返納及び他部課の主管に属しないこと
  - 企画情報部
    - 企画普及課
      - （分掌）博物館活動の企画調整、教育・普及、広報、講演会・講習会・研究会等の開催、他の博物館やその他教育・学術・文化に関する施設団体との連絡・協力・情報の交換に関すること
    - 情報資料課
      - （分掌）人文科学等に関する図書等の収集、整理、保管、閲覧、博物館情報システムの運用に関すること
  - 学芸部
    - 考古・中世担当
      - （分掌）博物館資料の収集、製作、整理、保管、展示、解説指導、専門技術的な調査研究に関すること
    - 近世・近現代・民俗担当
      - （分掌）博物館資料の収集、製作、整理、保管、展示、解説指導、専門技術的な調査研究に関すること

イ　職員名簿　　（平成 22 年 4 月 1 日現在）

館長（技術）		西川 杏太郎
副館長		佐藤 宏
管理課長		熊谷 淳
管理課	副主幹	布施 こづえ
	主査（事務）	樋渡 功
	〃	海老原 成介
	〃	加後 智佳子
	専門員（事務）	石井 敏夫
	〃	宮川 明代
	技幹（兼務）	諏訪 修平
	非常勤自動車運転員	平本 紀美男
	非常勤事務補助員	品矢 はる美
企画情報部長		石井 真吾
企画普及課長（技術）		鳥居 和郎
企画普及課	副主幹	谷口 美穂
	主任学芸員	中野 雅之
	専門員（事務）	木村 卓司
	〃	長嶋 敏雄
	非常勤学芸員	高橋 秀和
	〃	片柳 圭輔
	非常勤教育普及員	吉田 泰治
	非常勤事務補助員	野島 愛子
	〃	鈴木 由佳
情報資料課長		山森 正實
情報資料課	副主幹	津軽谷 静子
	主査（事務）	秋山 孝之
	主任専門員（技術）	井上 久美子
	専門員（司書）	臼井 和子
	専門員（事務）	高木 義友
	非常勤事務補助員	石井 雅代子
	〃	川口 淳子
	非常勤資料整理員	檜皮 千穂
	〃	三瓶 裕子
学芸部長（技術）		薄井 和男
（考古・中世担当）		
	主任学芸員	古川 元也
	学芸員	梅沢 恵
	〃	小井川 理
	〃	千葉 毅
（近世・近現代・民俗担当）		
	専門学芸員	寺嵜 弘康
	専門学芸員	古宮 雅明
	主任学芸員	嶋村 元宏
	〃	桑山 童奈
	〃	丹治 雄一
	学芸員	角田 拓朗
	専門員（事務）	鈴木 峰夫
	専門員（技術）	長田 平
	〃	鈴木 通大
	非常勤資料整理員	吉澤 智恵子
	〃	祝園 麻起子

(2)　歳入・歳出

ア　歳入

（単位：千円）

科　　目	金　額	内　　訳
行政財産使用料	557	ショップ等建物使用料
歴史博物館使用料	8,949	観覧料収入（常設展　4,837、特別展　4,112）
立替収入	387	ショップ他電気・水道
雑入	3,652	展示解説書等販売、ライブラリー複写料金
教育受講料収入	270	県立機関活用講座受講料
合　　計	13,815	

イ　歳出（人件費含まず）

（単位：千円）

事　業　名	金　額	内　　訳
維持運営費	71,109	維持管理・事業運営
展示事業費	15,984	常設展示維持管理、特別展の開催、総合案内業務
調査研究事業費	473	総合研究・基礎研究、調査研究報告書の作成
資料整備費	3,720	博物館資料収集、資料修繕
学習支援事業費	1,021	講座・講演会の開催、ボランティア活動推進、図書等資料整備、広報用資料作成
情報システム整備費	46,062	システム運用、データ入力等
県立機関活用講座開催事業費	202	講座の開催
緊急雇用創出事業臨時特例基金委託等事業費	12,717	
合　　計	151,288	

(3)　入館者状況

ア　入館者数

（単位：人）

月	展示室入館者			フリーゾーン利用者	合　　計
	有料入館者	無料入館者	小　　計		
4	2,257	2,140	4,397	4,316	8,713
5	2,994	4,007	7,001	10,045	17,046
6	1,469	1,583	3,052	5,078	8,130
7	1,808	1,079	2,887	4,097	6,984
8	2,551	1,070	3,621	3,622	7,243
9	2,222	1,291	3,513	3,564	7,077
10	6,199	4,401	10,600	4,743	15,343
11	2,333	2,027	4,360	3,976	8,336
12	3,468	3,044	6,512	2,946	9,458
1	2,269	1,214	3,483	2,741	6,224
2	1,988	2,174	4,162	4,252	8,414
3	949	697	1,646	3,226	4,872
合　計	30,507	24,727	55,234	52,606	107,840

イ　有料入館者内訳　（単位：人）

月	個人				団体(団体扱い含む)				合計
	20歳以上	20歳未満	高校生	65歳以上	20歳以上	20歳未満	高校生	65歳以上	
4	975	74	20	757	400	31	0	0	2,257
5	1,588	141	40	676	433	36	0	80	2,994
6	765	146	6	318	189	28	0	17	1,469
7	929	122	52	436	236	1	0	32	1,808
8	1,298	162	130	501	429	31	0	0	2,551
9	1,095	202	34	505	200	92	0	94	2,222
10	2,609	282	140	1,838	1,014	119	0	197	6,199
11	982	97	6	838	363	21	0	26	2,333
12	1,279	104	16	1,636	411	22	0	0	3,468
1	1,204	123	27	750	88	2	0	75	2,269
2	1,153	93	13	609	36	0	0	84	1,988
3	577	57	11	271	32	1	0	0	949
合計	14,454	1,603	495	9,135	3,831	384	0	605	30,507

ウ　無料入館者内訳　（単位：人）

月	条例別表備考欄指定の無料入館者　(A)				減免による無料入館者　(B)							合　計
	未就学幼児	小学生	中学生	特別支援学校	高校生	生徒引率者	65歳以上	優待券	招待券	障がい者	その他	
4	17	417	341	0	782	27	0	12	385	76	83	2,140
5	32	232	1,952	0	1,130	88	6	8	418	82	59	4,007
6	15	73	1,014	0	263	26	22	3	1	51	115	1,583
7	19	469	176	0	139	37	0	11	1	94	133	1,079
8	45	398	385	0	6	1	0	6	8	73	148	1,070
9	36	292	306	0	236	29	1	2	194	74	121	1,291
10	43	1,413	225	0	324	95	3	26	1,952	195	125	4,401
11	11	471	844	14	187	56	0	4	266	82	92	2,027
12	18	1,227	263	7	11	56	2	18	1,229	129	84	3,044
1	35	500	327	0	14	46	2	5	10	100	175	1,214
2	24	364	1,330	12	79	62	5	9	10	79	200	2,174
3	17	175	356	0	6	22	1	3	1	40	76	697
合計	312	6,031	7,519	33	3,177	545	42	107	4,475	1,075	1,411	24,727

エ　特別展の入館者状況(前掲表内数)　（単位：人）

特　別　展　名	有料入館者	無料入館者	合　計
彩色立面図に見る日本の近代建築 － 銀行・オフィスビルから邸宅まで －（後期 銀行建築編）	1,975	3,573	5,548
天狗推参！	4,324	4,879	9,203
浮世絵☆忠臣蔵 － 描かれたヒーローたち!? －	2,998	3,615	6,613
合　計	9,297	12,067	21,364

(4)　広報・広聴

ア　広報実績

平成22年度の当館に係る広報実績は下記の通り(館のＰＲ、特別展・テーマ展、催しもの等)。

媒体別	紙媒体				電波媒体		インターネット	計
	新聞	雑誌	単行書	その他	テレビ	ラジオ		
件数	211	125	3	11	10	7	108	475

イ　「県博フレンズ」会議の開催

開かれた博物館づくりをめざし、当館が実施する事業について県民の意見を組織的･継続的に聴くため、公募により委嘱した20代～70代の男女12名を構成員とする「県博フレンズ」会議を新たに開催し、館職員との双方向の話合いを行った。なお、本事業は当館の事業を実施する際の指針である「中長期計画」に位置付けられた事業(博物館モニター会議)として開催したものである。

(ｱ)　開催状況(年６回)

会議	開　催　日	会　議　テ　ー　マ
第１回	７月31日(土)	○当館の概要　○本年度事業計画
第２回	８月22日(日)	○常設展示と夏の特別企画「まつり」　○ミュージアム・ツアー ○ミュージアム・クイズラリー　よこはま2010
第３回	10月　９日(土)	○特別展「天狗推参！」　○県博講座「天狗のふしぎ・テングの魅力」
第４回	11月27日(土)	○特別展「浮世絵☆忠臣蔵」　○県博セミナー「浮世絵の魅力　徹底解剖!!」
第５回	２月19日(土)	○コレクション展「江戸時代の貨幣」　○ボランティア入門講座
第６回	３月27日(日)	○会議に参加しての感想

※第２回～第５回は、構成員に会議テーマの各事業に参加いただいた後、意見交換を行った。

(ｲ)　実施結果

会議で出された意見・感想をもとに、次の柱で取組みの方向性を整理するとともに、翌年度において当館事業への反映等について検討することとした。

○情報発信、○各種の展示、○各種の講座・子ども向け事業、○ボランティア

(5)　施設概要

ア　概要

(ｱ)　施設の規模

敷地面積　4,160.82㎡

構造　石・煉瓦造り(一部鉄筋コンクリート造り)地上３階・地下１階

延床面積　10,565.47㎡

部門別面積　展示部門＝約3,896㎡、学習支援部門＝約386㎡、収蔵部門＝約619㎡
研究部門＝約1,306㎡、サービス部門＝約438㎡、管理部門＝約1,251㎡
その他共用部分＝約2,670㎡

(ｲ)　建物の特徴

旧館部分　旧横浜正金銀行本店本館(明治37年(1904)竣工、設計：妻木頼黄)
ネオ・バロック様式

新館部分　神奈川県立博物館として新築(昭和42年(1967))

指定状況　国指定重要文化財(建物旧館部分・昭和44年(1969)3月12日指定)
国指定史跡(平成7年(1995)6月27日指定)

(ｳ)　施設の状況

１　　階：【展示室、学習支援関係諸室】
特別展示室、コレクション展示室、
ミュージアムライブラリー、ミュージアムショップ、喫茶室、情報処理室　等

２　　階：【展示室、管理課・企画情報部関係諸室】
総合テーマ展示室(近世・近代・現代、民俗)
館長室、管理課、企画情報部、応接室、図書整理室、書庫　等
３　　階：【展示室、学芸部関係諸室】
総合テーマ展示室(古代・中世)
学芸部、資料整理室、展示準備工作室、作業室、収蔵庫　等
地下１階：【講堂、バックヤード諸設備】
講堂、収蔵庫、燻蒸室、防災センター、写場、暗室、フィルム保管室
その他機械室、倉庫　等

イ　館内施設
１階のフリーゾーンには来館者のために次の施設がある。

(ｱ)　ミュージアムショップ
博物館の刊行物(展示解説書、特別展図録、研究報告)をはじめ、神奈川の文化や歴史に関する書籍、所蔵資料の絵はがき、博物館見学の記念になるような品々を販売する。運営は民間の企業が行っている。

(ｲ)　ともしび喫茶室
来館者に休憩してもらえるように喫茶室がある。軽食、喫茶ができ、店内には県内の福祉施設で作られた品々も販売されている。運営は「神奈川県手をつなぐ育成会」が行い、知的障がい者の就業の場ともなっている。

ウ　外部協力
神奈川県立歴史博物館には、県内の博物館の質的向上や文化財に対する普及啓発を行う次の外部団体の事務局が設置されている。

(ｱ)　神奈川県文化財協会
昭和29年(1954)から活動している任意団体である。現在は会員に対しての講演会、見学会など、文化財に関する知識の啓発活動を中心に活動している。協会員数192人(平成23年(2011)3月31日現在)。

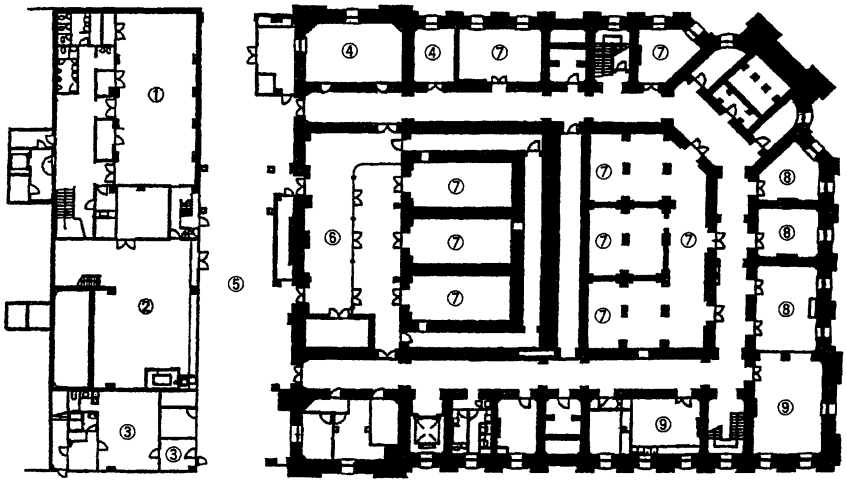
事務局長	副館長	佐藤 宏
事務局次長	学芸部長	薄井 和男
事務局員	主任学芸員	丹治 雄一
〃	学芸員	梅沢 恵
〃	情報資料課長	山森 正實
〃	主査	樋渡 功
〃	主査	加後 智佳子
〃	専門員(事務)	木村 卓司

(ｲ)　神奈川県博物館協会
昭和30年(1955)から活動している県内博物館施設の任意団体で、博物館のＰＲ、職員の研修、会報の発行など各種活動を行っている。加盟館園数99館(平成23年(2011)3月31日現在)。

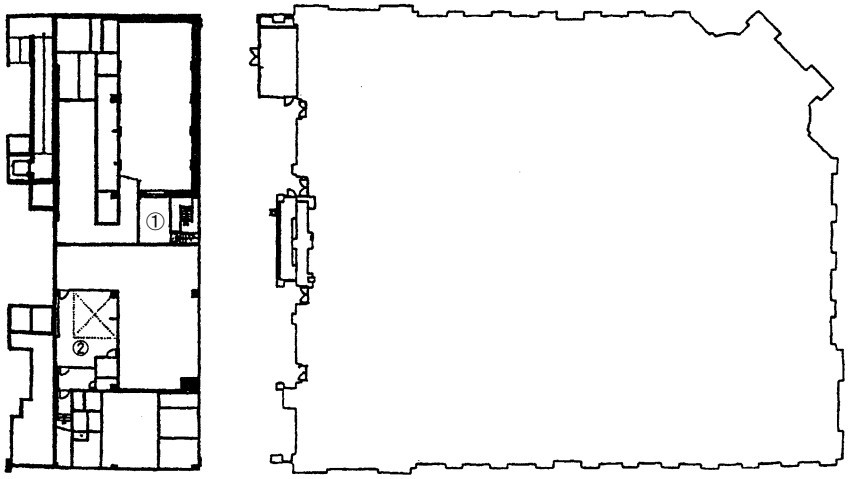
会長	館長	西川 杏太郎
事務局長	副館長	佐藤 宏
事務局次長	学芸部長	薄井 和男
人文科学部会幹事	専門学芸員	古宮 雅明
事務局員	副主幹	布施 こづえ
〃	専門員(事務)	鈴木 峰夫

エ　平面図

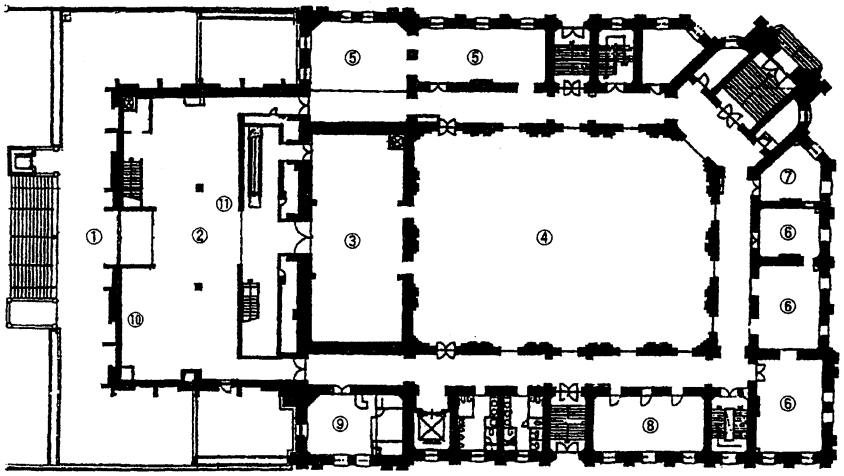
地下平面図
①講堂
②機械室
③防災センター・保安室
④電気室
⑤サービスヤード
⑥荷捌室
⑦収蔵庫
⑧資料整理室
⑨写真室



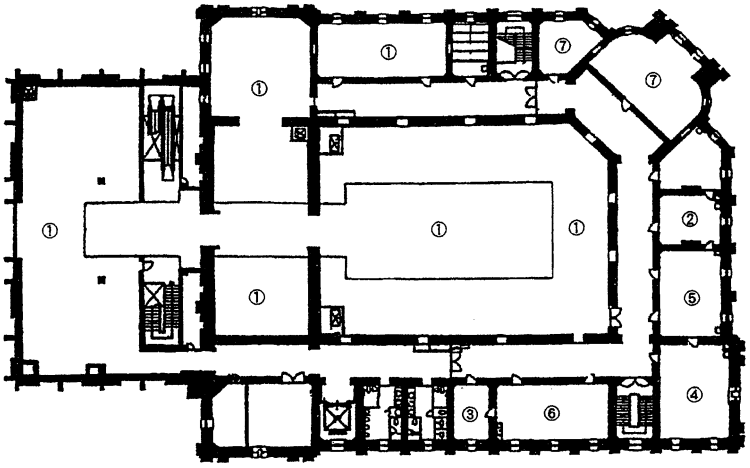
中１階平面図
①放送器機・映写室
②中央監視室



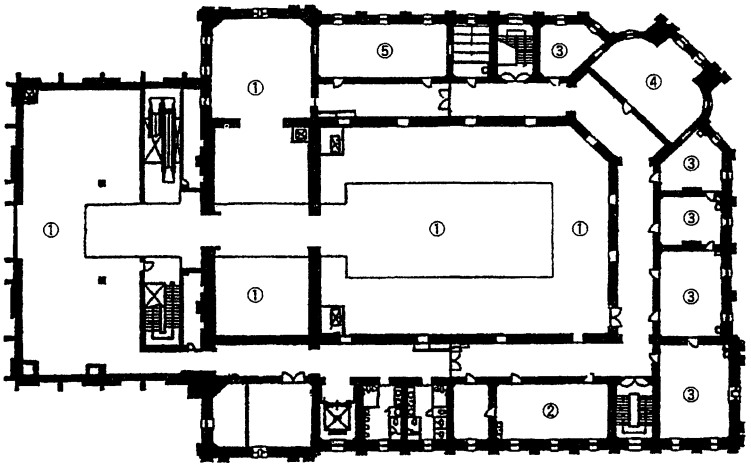
１階平面図
①玄関
②エントランスホール
③導入展示室
④特別展示室
⑤コレクション展示室
⑥ミュージアムライブラリー
⑦情報処理室
⑧会議室
⑨喫茶室
⑩ミュージアムショップ
⑪総合案内



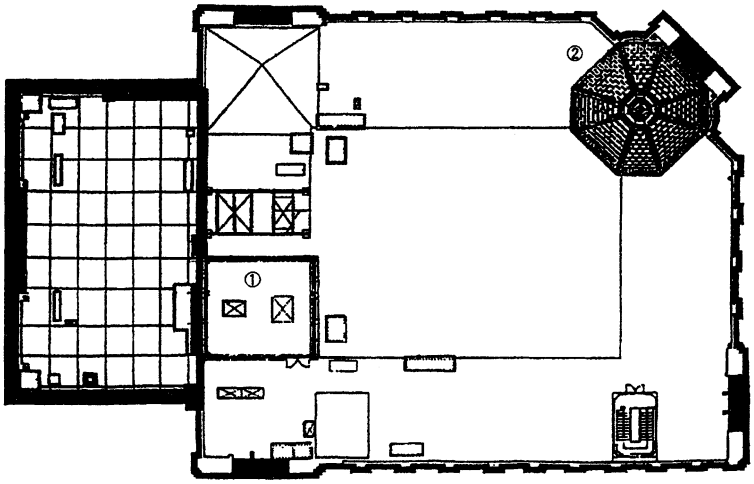
2 階平面図
①展示室
②館長室
③第二応接室
④管理課
⑤応接室
⑥企画情報部
⑦図書室



3 階平面図
①展示室
②学芸部
③資料整理室
④展示機材倉庫
⑤収蔵庫



屋上平面図
①空調機械室
②ドーム



３　調査・研究

(1)　館独自の研究事業費によるもの

ア　総合研究

(ｱ)　テ　ー　マ　：　『道中記』の研究
担　　当　：　研究代表者　主任学芸員　桑山 童奈
共同研究者　：　専門学芸員　古宮 雅明(近世)、鈴木 良明 氏(鎌倉国宝館)
井上 攻 氏(横浜市歴史博物館)、日野原 健司 氏(太田記念美術館)
期　　間　：　平成18～22年度
概　　要　：　江戸期に数多く出版された、参詣や行楽を目的とした旅の案内書『道中記』研究の５年目。本研究は川崎から箱根にいたるまでの東海道の宿駅や金沢八景、鎌倉、江の島、杉田など、現在の神奈川県域を含む道中記について、その書誌データを収集し整理することを目的とする。当館が所蔵する道中記についての撮影および情報収集は終了し、他機関所蔵資料についての情報収集と資料調査を主に行った。当館の桑山と古宮が資料収集と基礎的なデータの整理を行い、館外からの協力者、鈴木 良明氏(鎌倉国宝館)、井上 攻氏(横浜市歴史博物館)、日野原 健司氏(太田記念美術館)にその結果を提供し、それぞれの研究領域に引き寄せた論考を行った。桑山、古宮の論考および、当館道中記資料群の書誌データ、道中記に記された県内９宿の駄賃の変遷についての資料を加え、報告書「神奈川県立歴史博物館総合研究報告 『道中記』の研究」を作成した。

(ｲ)　テ　ー　マ　：　『異形』イメージの形成と展開
― 歴史学・民俗学・美術史学による共同研究 ―
担　　当　：　研究代表者　専門員　鈴木 通大(民俗)
共同研究者　：　学芸員　梅沢 恵(美術)、主任学芸員　古川 元也(中世)、専門学芸員　古宮 雅明(近世)
期　　間　：　平成21～22年度
概　　要　：　歴史学、民俗学、美術史学など異なる専門分野の学芸員から組織された共同研究である。本研究では鬼・天狗・怪異・妖怪など常態ではない「異形」のイメージについて時代や分野を越えて相互に関連させながら「モノ」に即して調査、研究を行った。
今年度は特別展の企画に際し、特に「天狗」に焦点をあてたことで、「異形」イメージが具象化されていく形成過程の問題をより鮮明にすることができた。一般的には「天狗」は鼻が高く、クチバシがある鳥のような姿をしたイメージが定着しているが、そのイメージがいつどのように生み出され、変化し、定着していったのか、その過程や背景などについて考察した。平成21年度から2年間にわたる共同研究の主な実績は次のとおりである。
① 月１回の定例研究会の開催
② 天狗にまつわる史跡、資料の調査
(静岡：秋葉神社・可睡斎、阿波大杉神社、等)
③ 「異形」イメージのうち「天狗」に焦点をしぼり、特別展「天狗推参！」(会期：9月25日～10月31日)を開催。展示および図録、講座等に研究成果の一部を還元した。
④ 「異形」イメージに関連する資料の所在目録を作成した。

イ　個別研究

テ　ー　マ　：　アメリカ人女性の観た明治の日本
― 当館所蔵「ウィリアムス女史日本旅行記念蒐集資料」から ―
担　　当　：　主任学芸員　嶋村 元宏
期　　間　：　平成22年度

概　　要　：　本研究では、明治 30 年(1897)に来日したアメリカ人ウィリアムス女史が、神奈川県下をはじめ日本国内を旅行した際に収集した資料を含む、当館が所蔵する「ウィリアムス女史日本旅行記念蒐集資料」を検討することにより、当時の西洋人が日本に対していかなる印象を持っていたのかを明らかにしようとしたものである。

調査の結果、姉とおぼしき女性と日本人の案内人と共に横浜をはじめ東京、日光、神戸、伊勢、京都など女史が訪れた各地で、多くの工芸品類を購入していたことが判明した。また、伊勢では神楽見物をするなど、日本文化に非常に関心を寄せいていたことも知り得た。

なお、同時期に日本に滞在し、後に米国地理学協会理事となるシドモア夫人や、新婚旅行で来日していたフェノロサ夫妻、およびウィリアムス女史が今回の旅行で利用した定期航路を運営するカナダ太平洋鉄道との関係については、明らかにすることができなかったため、今後の課題とすることとした。

ウ　グループ研究

次のテーマでグループごとに研究を進めている。

考　　古　：　神奈川県内遺跡・遺物調査
中　　世　：　宋風文化の研究
近　　代　：　横浜の木版印刷に関する基礎的研究
現　　代　：　戦後横浜における映画館活動に関する基礎的研究
民　　俗　：　社会における贈答慣行
教育普及　：　小・中学校の見学実習を支援するワークシートの開発

エ　調査研究成果報告会

開催日時：平成 23 年 3 月 4 日(金) 14:30～17:00
内　　容：総合研究及び個別研究の成果・途中経過と、報告書の内容について報告した。

(ｱ)　総合研究

a　発表者　：　主任学芸員　桑山 童奈
テーマ　：　『道中記』の研究
概　要　：　前記「ア　総合研究」を参照。

b　発表者　：　学芸員　梅沢 恵
テーマ　：　『異形』イメージの形成と展開
－ 歴史学・民俗学・美術史学による共同研究 －
概　要　：　前記「ア　総合研究」を参照。

(ｲ)　個別研究

a　発表者　：　学芸員　梅沢 恵
テーマ　：　特殊な毘沙門天図像の受容と辟邪絵制作
概　要　：　兜跋毘沙門天など中国西域由来の図像は、日本では仏画そのものとしては定着しなかったものの、その特殊性、説話性ゆえに絵巻の制作のイメージソースとして受容されたとみられる。本報告では辟邪絵「毘沙門天」の図像を手がかりとして説話性の強い中国仏画がどのようにして日本で受容されたかについて論じた。

b　発表者　：　主任学芸員　古川 元也
テーマ　：　志一上人と中世の荼枳尼(だきに)法
概　要　：　本年度開催した「天狗推参！」展では、天狗具象化の一つの契機として真言密教の修法の一つである六字法や荼枳尼法を取り上げた。これらの修法は平安期以来、独自の発達を遂げて像を形成し、中世を通じて受容されてきたが、その実体はといえば十分に明らかにはなっていない。本報告では14世紀後半以降の修法受容について考え、あわせてその後の影響にも言及した。

c　発表者　：　主任学芸員　嶋村 元宏
テーマ　：　アメリカ人女性の観た明治の日
概　要　：　前期「イ　個別研究」を参照。

d　発表者　：　学芸員　角田 拓朗
テーマ　：　チャールズ・ワーグマンの様式特定に関する試論
概　要　：　チャールズ・ワーグマンの様式については、従来謎が多かった。特に来日前後の様式、作風の差異が甚だしく、そのどちらの作品も数多く所蔵する当館として概要を把握する必要があった。そのため、当館を含め所蔵機関等での調査をおこない、結果、様式の変遷とそれを促した要因についての試論をまとめ発表した。
なお、本調査研究は鹿島美術財団からの調査研究助成の一部である。

(2)　日本学術振興会科学研究費助成事業によるもの

神奈川県立博物館であった昭和53年度から、文部省学術研究機関の指定を受け、科学研究費助成金が交付されるようになった。神奈川県立歴史博物館に機構変更後も継続して指定されている。平成22年度の採択は3件である。

ア　研究種目名　：　基盤研究(C)
課題番号　：　80250231
研究課題　：　川島忠之助資料から見た明治期の横浜正金銀行
研究代表者　：　専門学芸員　寺嵜 弘康
研究分担者　：　主任学芸員　丹治 雄一
研究実績概要　：　前年度に引き続き、川島忠之助資料の書簡で残った第2冊目の後半と、第3冊目全部の筆耕作業を実施した。前者は明治26年7月から同28年3月までの横浜正金銀行リヨン出張所時代のもので、後者は明治31年2月から32年3月までのボンベイ(現ムンバイ)出張所時代の書簡である。いずれも同地から頭取や支配人、支店行員ならびに親族知人などに宛てて発信したコピーレターで、合計で3冊619通を数える。筆耕した書簡からは、①インド綿の為替が主要業務であったボンベイ出張所の資金調達の状況、②海外支店とりわけ欧州におけるロンドン支店の役割について興味深い点が判明した。
また、私的な書簡も多く含まれており、妻の急病のために本店の許可を得る前にリヨンから急遽帰国したことや、ボンベイ勤務が川島にとって望まぬ赴任であったことのほか、日本に残した幼女の養育に気遣いを見せるなどの事実が判明した。
一方、横浜市史資料室からは、アメリカ国立公文書館所蔵横浜正金銀行ニューヨーク支店書類のマイクロフィルムを閲覧し必要箇所を複写することができた。なかでも明治13～22年までの本店からニューヨーク支店に送付した外国貿易為替関係の通信内容を把握することができ、リヨン出張所への通信内容を確認する手立てとなった。また、川島の資料を博物館内横浜正金銀行コーナーへの展示や、創立当初の正金銀行の職制と行員について論文をまとめ、研究成果の一部を紹介した。次年度は研究機関の最終年度にあたり研究成果報告書のとりまとめを実施する。

イ　研究種目名　：　若手研究(B)
課題番号　：　19720037
研究課題　：　近代日本絵画史における鉛筆の意義
研究代表者　：　学芸員　角田 拓朗

研究実績概要　：　本年度は、新たに発見された資料群についての概要を把握することに努めるとともに、その目録を整備し公表した。また、その資料群に含まれる明治前期の画学生と思われる人物たちによるスケッチについて考察を行った。それぞれ報告書等にまとめ、公開した。

ウ　研究種目名　：　若手研究(B)
課題番号　：　21720041
研究課題　：　「中世鎌倉文化圏における絵画制作と外来文化受容に関する研究」
研究代表者　：　学芸員　梅沢 恵
研究実績概要　：　本研究は、鎌倉幕府が開かれてから古河に鎌倉公方が移転するまでの13～14世紀を中心に、鎌倉文化圏における絵画の制作および流通、宋・元時代絵画の受容の諸相を明らかにしようとするものである。本年度は次のような調査、研究を主に行った。

① 作品調査の成果を反映させ、ファイルメーカーで構築したデータベースを増補、拡充。
② 引き続き中世鎌倉文化圏での制作、流通がみとめられる諸作例について、美術全集、報告書や図録等の刊行物や所蔵先の写真資料などから採取できるデータ、画像をデータベースに入力した。
③ 本研究に関連する諸作例について作品調査を行った。
④ 中世の文献史料を中心に東国における絵画制作、流通に関する記事を収集した。
⑤ 中世の鎌倉文化圏において制作された絵巻や掛幅縁起を主たるテーマとした展覧会の開催に向けた準備を進めた。
⑥ 「辟邪絵(国宝・平安～鎌倉時代)」の「毘沙門天」幅に描かれる毘沙門天の図像を手がかりに、中国からもたらされた西域由来の毘沙門天図像の日本における受容の諸相について研究し、その成果を国際シンポジウム(平成23年(2011)3月、於：ハーバード大学)で口頭発表した。また、一部は特別展「天狗推参!」の展示および図録所収の論文で報告した。

(3) 個人研究活動

ア　研究報告書

(ｱ) 『神奈川県立博物館研究報告 －人文科学－ 』第 37 号　平成 23 年(2011)3 月 20 日発行

a　種　別　：　論文
表　題　：　「横浜正金銀行創立当初の職制と行員について」
筆　者　：　専門学芸員　寺嵜 弘康
要　旨　：　横浜正金銀行の正副頭取や取締役の氏名や経歴についてはよく知られている一方で、一般の行員については不明なことが多い。正金銀行開業時の行員の氏名さえもこれまではまったく不明であった。しかし正友会や県立公文書館で所蔵する史料を発見することができ、開業当初の職制や行員などについて新たな知見をうることができた。開業時は慶應義塾の福沢諭吉に連なる人員が多く行員に採用されたのは、福沢諭吉人脈の側面もあるが、当時銀行簿記や英語を習得した人材は限られており、その育成機関として慶應義塾の存在があったことを指摘した。
ｷｰﾜｰﾄﾞ　：　横浜正金銀行・創立期行員・職制

b 種　別　：　研究ノート　作品・資料紹介
表　題　：　「橘忠助氏旧蔵美術資料群について」
筆　者　：　学芸員　角田 拓朗
要　旨　：　科学研究費補助金による調査の過程で見出した一群の資料について、その概要を報告した。その資料群は、橘忠助氏が旧蔵したため、表題のような名称を付している。この資料群は、元来は昭和戦前期に活躍した銅版画家西田武雄が蒐集したものであり、のちに橘氏が譲り受けた。本報告において、同資料群の分類ごとに簡単な説明を付し、同資料群の形成の背景と伝来についても記した。
ｷｰﾜｰﾄﾞ　：　西田武雄・銅版画・岩橋章山・明治初期洋画・五姓田義松

(ｲ)「神奈川県立歴史博物館総合研究報告 『道中記』の研究」　平成 23 年(2011)3 月 31 日発行

内容及び執筆者
Ⅰ　総合研究「『道中記』の研究」の概要　　主任学芸員　桑山 童奈

Ⅱ　論文
「道中記に見る情報の変遷」　　鎌倉国宝館　鈴木 良明 氏
「道中記の在地残存状況と江戸時代人の旅志向 ― 神奈川県下の事例 ― 」
横浜市歴史博物館　井上 攻 氏
「『東海道分間絵図』制作経過についての一考察
― 「作者」「絵師」「版元」の関与をめぐって ― 」　　専門学芸員　古宮 雅明
「十八世紀中期の絵地図式道中記に就いての検討」　　太田記念美術館　日野原 健司 氏
「北斎・広重が描いた東海道と「道中記」の情報
― 現在の神奈川県域を描いた錦絵と名所・旧跡の情報 ― 」　　主任学芸員　桑山 童奈

Ⅲ　資料編
道中記釈文・駄賃変遷表・神奈川県立歴史博物館所蔵「道中記」書誌
主任学芸員　桑山 童奈、専門学芸員　古宮 雅明

イ　個人研究活動

〈凡例〉(※刊行年などは西暦で統一)
1　著作
(1)　単著・共著・学術論文
(2)　書評・余録
(3)　資(史)料紹介
2　学術口頭報告
3　図録執筆・解説書執筆
4　新聞・雑誌等への寄稿
5　各種調査委員会等
6　講座講師等(特に館名などを記さないものは当館での実施。)
7　ここ１年間の課題・研究テーマ

(企画普及課)
鳥居 和郎（企画普及課長・専門学芸員・歴史・中世）
1(1)　「北条氏康文書に見られる竪切紙の使用」
(『日本歴史』746 号、pp90-91、吉川弘文館、2010 年７月)
「異なる視点から見た小田原合戦-作られるイメージ・変えられる史実-」
(『よるの会フォーラムの実験』(共著)、夢工房、2011 年３月)

5　箱根町文化財保護委員会委員
小田原市郷土文化館協議会委員
6　おだわらシルバー大学講師(於：小田原市中央公民館等)
「北条早雲」(2010 年 10 月 5 日)
「北条氏綱・北条氏康」(2010 年 10 月 12 日)
「北条氏政・北条氏直」(2010 年 10 月 26 日)
「北条幻庵」(2010 年 11 月 2 日)
葉山町民大学(大学提携・生涯学習講座)講師(於：関東学院大学葉山セミナーハウス)
「戦国大名北条氏の一向宗『禁令』と三浦半島」(2011 年 2 月 14 日)
7　博物館におけるユニバーサルデザインの導入の検討、及び後北条氏関係の外交史料の再検討を行った。

中野 雅之(主任学芸員・教育普及)
7　博物館と学校教育の連携におけるワークシートの活用について研究している。

(情報資料課)
井上 久美子 (主任専門員・技術)
5　文化財写真技術研究会
6　時宗文化財調査(2010 年 6 月 11 日～14 日)
静岡県教育委員会(2010 年 11 月 11 日)
神奈川県教育局生涯学習課　文化財ポスター撮影(2010 年 10 月 22 日)
神奈川県立金沢文庫　彫刻撮影(2011 年 2 月 14 日、28 日、3 月 19 日)

(学芸部)
薄井 和男 (学芸部長・美術・中世)
1(1)　『時宗文化財調査報告書 －第 3 集－ (彫刻)』(時宗文化財保存専門委員会編、2011 年 3 月)
『もっと知りたい禅の美術』(共著、東京美術、2011 年 2 月)
(3)　「足柄神社の木造男神坐像について」
(『神奈川県立博物館研究報告 －人文科学－ 』第 37 号、pp. 1-12、2011 年 3 月 20 日)
4　「収蔵品は語る〈4〉 仏像彫刻　中世に華咲いた宋風」(『神奈川新聞』、2010 年 10 月 23 日)
5　相模原市文化財保護審議会委員
逗子市文化財保護審議会委員
厚木市文化財保護審議会委員
川崎市文化財保護審議会委員
大磯町文化財保護審議会委員
平塚市文化財保護審議会委員
時宗文化財調査委員
7　県内所在の神社所蔵の神像調査を行なった。

古川 元也 (主任学芸員・歴史・中世)
1(1)　「天狗の記憶と初期足利政権 －高氏、直義の文書から－」
(特別展図録『天狗推参！』所収、神奈川県立歴史博物館、pp. 126-129、2010 年 9 月 24 日)
(2)　「特別展『天狗推参！』の魅力」
(『神奈川県立歴史博物館だより』vol. 16, №1、通巻 184 号、pp. 2-3、2010 年 9 月 14 日)
「美しき!?　近世の貨幣」
(『神奈川県立歴史博物館だより』vol. 16, №3、通巻 186 号、p. 5、2011 年 3 月 10 日)
3　特別展図録『天狗推参！』(総論、解説、コラム)
(pp. 1-168、神奈川県立歴史博物館、2010 年 9 月 24 日)
4　「収蔵品は語る〈2〉 鎌倉絵図　入り乱れた「虚と実」」(『神奈川新聞』、2010 年 10 月 9 日)
「天狗推参！　こっけい味ある異形面」(『朝日新聞』、2010 年 10 月 15 日)

5　国立歴史民俗博物館共同研究員
三田史学会(慶應義塾大学)委員会委員
日本古文書学会大会運営委員・『古文書研究』(吉川弘文館)編集委員
6　鎌倉市自主講座五輪会講師「中世の曼荼羅」(2010年5月14日、於：鎌倉市生涯学習センター)
かながわ遊学セミナー講師「太平洋海運と熊野信仰」(2010年5月26日、於：神奈川地区センター)
[秋季特別展にかかわる講座]
鎌倉研究会講師「特別展　天狗推参！のみどころについて」(2010年9月29日)
県博講座「天狗のふしぎ・テングの魅力」第3回「鼻高天狗の誕生」(2010年10月16日)
7　日本中世宗教文化史の研究。特に本年度は中世の怪異現象を中心に研究を展示に発展させた。また継続的研究として、石造供養等をはじめとする非文献資料を調査・研究し、総体的な歴史復元に資することが出来る部分の検証を試みた。

梅沢 恵　(学芸員・美術・中世)
1(1)　「毘沙門天と有翼鬼神」
(特別展図録『天狗推参!』所収 pp.122-125、神奈川県立歴史博物館、2010年9月24日)
「円覚寺所蔵五百羅漢図に関する研究 ー画中に描かれた人物像を中心にー」
(『鹿島美術財団年報』27、鹿島美術財団、2010年11月)
『狩野一信 五百羅漢図』(共著、作品解説、小学館、2011年3月)
2　国際シンポジウム「中世日本の信仰と造形　Beliefs, Rituals, Stories and Art in Medieval Japan」
(於：ハーバード大学、2011年3月)
口頭発表「中世日本における特殊な毘沙門天図像の受容と辟邪絵の制作について」
On the Reception of Special Bishamon Iconography and the Creation of
“Pictures of the Extermination of Evil” in Medieval Japan .
3　特別展図録『天狗推参!』(解説・コラム)(pp.1-168、神奈川県立歴史博物館、2010年9月24日)
4　「天狗推参！」(1)(2)(『朝日新聞』、2010年10月13～14日)
「収蔵品は語る〈3〉　大山寺縁起絵巻　受け継がれた稚拙味」(『神奈川新聞』、2010年10月16日)
5　横浜市文化財総合調査主任調査員
6　県博講座「天狗のふしぎ・テングの魅力」第2回「仏教美術における鬼神のイメージ」
(2010年10月9日)
神奈川県文化財協会　第4回見学会　講師「天狗推参！」(2010年10月)
7　館蔵の中近世絵画に関する調査研究および平成22年度科学研究費若手研究(B)「中世鎌倉文化圏における絵画制作と外来文化受容に関する研究」に関連した調査研究を中心に行った。

小井川 理　(学芸員・美術・中世)
4　「収蔵品は語る〈5〉　鎌倉彫　柔和な風合いが特徴」(『神奈川新聞』、2010年10月30日)
「すすむ總持寺展準備」
(分担執筆、『神奈川県立歴史博物館だより』vol.16,№3、通巻186号、pp.2-4、2011年3月10日)
「かながわ郷土史展望　学芸員ネットワーク」(『神奈川新聞』、2011年3月23日)
7　館蔵工芸資料に関する調査研究。特別展「曹洞宗大本山總持寺名宝100選」にかかる總持寺収蔵資料の調査研究。

千葉 毅　(学芸員・考古)
1(1)　「阿久型方形柱穴列の再検討」(『山梨県考古学協会誌』第19号、山梨県考古学協会、2010年5月)
「神奈川県立歴史博物館の考古学」(『神奈川県立歴史博物館だより』vol.16,№2、通巻185号、
神奈川県立歴史博物館、2010年11月20日)
(3)　「日本の遺跡　山梨県北杜市板橋遺跡」(『考古学研究』第224号、考古学研究会、2010年3月)
「南麻布三丁目　本村町貝塚確認調査報告」
(『港区文化財調査年報』7(共著)、港区教育委員会、2010年3月)
4　「収蔵品は語る〈11〉　縄文時代の顔　愛らしく端正な表情」(『神奈川新聞』、2010年12月11日)

6　教員のための博物館講座「考古学からどう歴史を描くか　ー考古学入門、そして授業への活用ー」
(2010 年 8 月 11 日)

7　縄文時代の人々の交流や移動、あるいは情報の動きをテーマに研究している。具体的には、南関東地方を中心とした地域をフィールドとして、遺構や遺物に周辺地域からの影響や要素を見出し、それらが流入する背景やその仕方、あるいは時間的な変化について検討している。また、当館が所蔵している考古資料のうち、当館が発掘調査したものを中心に現在的視点から再整理、再検討を進めている。平成 22 年度には、特に間口洞窟遺跡の弥生時代資料と横浜市十王堂免遺跡の縄文時代早期の石器について基礎的な整理を行った。

寺嵜 弘康 (専門学芸員・歴史・現代)

1(1)　「横浜正金銀行創立当初の職制と行員について」
(『神奈川県立博物館研究報告 ー人文科学ー』第 37 号、2011 年 3 月 20 日)

(2)　松尾正人編『中央大学図書館所蔵幕末・明治名家書翰草稿 ー史料と研究ー』
(『中央史学』第 34 号、2011 年 3 月 25 日)

4　「収蔵品は語る〈9〉　交通双六　事故防止へ規則普及」(『神奈川新聞』、2010 年 11 月 27 日)

5　横須賀市史専門委員
首都圏形成史研究会常任委員

6　川崎市歴史的資料等取扱施設連絡会(2010 年 10 月 29 日、於：川崎市市民ミュージアム)
国宝史蹟研究会(2010 年 11 月 7 日)

7　横浜正金銀行頭取及役員の旧蔵資料を収集し、その整理と分析を進めた。

古宮 雅明 (専門学芸員・歴史・近世)

1(1)　「天狗観の変遷と江戸時代の天狗研究」
(特別展図録『天狗推参！』、pp. 130-133、神奈川県立歴史博物館、2010 年 9 月 24 日)
「『東海道分間絵図』制作過程に就いての一考察 ー「作者」「絵師」「版元」の関与をめぐってー」
(『神奈川県立歴史博物館総合研究報告　『道中記』の研究』pp. 53-70、2011 年 3 月 31 日)

3　特別展図録『天狗推参！』(編著、pp. 1-168、神奈川県立歴史博物館、2010 年 9 月 24 日)
「特別展『天狗推参！』の魅力」
(『神奈川県立歴史博物館だより』vol. 16, №1、通巻 184 号、p. 3、2010 年 9 月 14 日)

4　「天狗推参！　様々な姿　庶民楽しむ」(『朝日新聞』、2010 年 10 月 19 日)
「特別展『天狗推参！』この秋、博物館にテングが大集結！」
(『高尾山報』第 560 号、p. 18、高尾山薬王院編、2010 年 9 月)
「特別展『天狗推参！』によせて」
(『ボランティアニュース』第 60 号、pp. 1-2、神奈川県立歴史博物館ボランティア会編、2010 年 11 月)
「収蔵品は語る〈12〉　富士山噴火　県域大部分が被害に」(『神奈川新聞』、2010 年 12 月 18 日)

5　神奈川県博物館協会幹事(人文部会)、同『神奈川県立博物館協会報』編集委員
日本史教材開発委員会委員(神奈川県教育委員会)

6　県博講座「天狗のふしぎ・テングの魅力」第１回「天狗イメージの変遷と江戸時代の天狗」
(2010 年 10 月 2 日)

7　総合研究「『異形』イメージの形成と展開」のメンバーとして「天狗」の歴史的変遷と江戸時代の天狗観を中心に研究し、特別展『天狗推参』に結実させた。また、近世災害史および道中記の研究を進めている。

嶋村 元宏 (主任学芸員・歴史・近代)

1(3)　「ウィルヘルム・ハイネ画「ルビコン川を渡る」」
(資料紹介、『神奈川県立歴史博物館だより』vol. 16, №3、通巻 186 号、pp. 7-8、2011 年 3 月 10 日)

2　「アメリカ人女性の観た明治の日本」
(平成 23 年度神奈川県立歴史博物館調査研究報告会、2011 年 3 月 4 日)

4　「収蔵品は語る〈1〉　観光の源流　外国人に「遊歩区域」」(『神奈川新聞』、2010 年 10 月 2 日)

5　日本学術振興会　特別研究員等審査会専門委員・国際事業委員会書面審査委員
江戸東京博物館　購入資料鑑定委員
6　青山学院大学　青学オープンカレッジ講師
「幕末維新期の他文化認識 －日本人の見た西洋／西洋人の見た日本」
(2010 年 8 月 31 日、於：青山学院大学渋谷キャンパス)
渋谷区教育委員会　渋谷区社会教育館講座講師
「日本の夜明けを創った人々 －幕末～明治－　第 3 回　ペリー来航と明治維新」
(2010 年 11 月 12 日、於：渋谷区上原社会教育館)
7　「19 世紀中葉の国際秩序の変容」について研究を継続した。特に、今年度は、個別研究事業に採択されたことから、館蔵資料を主たる調査研究対象として、アメリカ人女性の観た明治の日本について追究し、その結果を調査研究報告会で報告した。

桑山 童奈（主任学芸員・美術・近世）
3　特別展図録『浮世絵☆忠臣蔵 －描かれたヒーローたち!?－』
(神奈川県立歴史博物館、2010 年 11 月 19 日)
『神奈川県立歴史博物館総合研究報告　『道中記』の研究』(pp. 81-92、2011 年 3 月 31 日)
4　「浮世絵☆忠臣蔵」(1)～(5)(『毎日新聞横浜版』、2010 年 12 月 10、11、14、15、17 日)
「収蔵品は語る〈13〉　浮世絵　家に居ながら旅気分」(『神奈川新聞』、2010 年 12 月 25 日)
5　国際浮世絵学会企画委員
6　「江戸の風俗」(2010 年 7 月 17 日、於：相模原市田名公民館)
「浮世絵で見る横浜・神奈川の忠臣蔵」(2010 年 11 月 18 日、於：横浜キワニスクラブ)
7　館蔵丹波コレクションの浮世絵から江戸時代に絶大な人気を博した「忠臣蔵」を題材とする浮世絵を選び特別展で紹介した。

丹治 雄一（主任学芸員・歴史・近代）
4　「収蔵品は語る〈8〉　旧横浜正金銀行本店　震災や戦災生き抜く」
(『神奈川新聞』、2010 年 11 月 20 日)
5　首都圏形成史研究会常任委員
神奈川県文化財協会事務局員
6　MUFG(三菱 UFJ フィナンシャルグループ)エクステンションカレッジ講師
「旧横浜正金銀行本店本館について」(2010 年 11 月 13 日)
神奈川県立歴史博物館ボランティア入門講座講師
「神奈川県立歴史博物館における調査研究活動について
－横浜正金銀行本店建築関係資料を事例として－」(2011 年 2 月 12 日)
7　特別展「彩色立面図に見る日本の近代建築」後期を担当するとともに、同展の準備過程で調査を進めていた日本銀行本店本館をはじめとする近代日本の銀行建築について、特に創建当時の建具等の残存状況を把握する作業を行った。

角田 拓朗（学芸員・美術・近代）
1(1)　「初代五姓田芳柳事歴考 －横田洋一氏が追求した「横浜美術史」と「リアリズム」」
(『版画史研究会誌』1、2010 年 6 月)
「近代日本絵画史における鉛筆の意義」
(『科学研究費補助金研究成果報告書　若手研究(B)』、2010 年 2 月)
(3)　「コレクション　神奈川県立歴史博物館」(『博物館研究』46、日本博物館協会、2011 年 1 月)
「橘忠助氏旧蔵美術資料群について」
(『神奈川県立博物館研究報告 －人文科学－ 』第 37 号、2011 年 3 月)
「特集幕末・明治横浜の目撃者たち 「チャールズ・ワーグマン」「五姓田芳柳」」
(『横濱』29、神奈川新聞社、2010 年 7 月)
4　「収蔵品は語る〈7〉　ジャパン・パンチ風刺漫画の先駆けに」(『神奈川新聞』、2010 年 11 月 13 日)

6　平成 22 年度第 2 回　神奈川県文化財協会　「夏の特別企画　まつり　ー人々のつどい、にぎわいー」「コレクション展　奇妙奇天烈!?　明治の版画あれこれ」見学会講師(2010 年)
7　チャールズ・ワーグマンに関する研究。特に肉筆作品についての様式変遷について。

長田 平（専門員・民俗）
4　「収蔵品は語る〈6〉　職人の道具　伝統の手仕事を支える」（『神奈川新聞』、2010 年 11 月 6 日）
5　愛川町新郷土資料館運営委員会委員
葉山町文化財保護委員会委員
8　竹製民具、流通民具を通して技術伝承の研究を行い、その成果を特別展に反映した。また、年中行事についての研究を継続している。

鈴木 通大（専門員・民俗）
1(1)　「再考・境川流域の『サバ神社』について」
（『民俗学論叢』第 25 号、pp. 21-30、相模民俗学会、2010 年 5 月）
「天狗の民俗的世界」
（特別展図録『天狗推参！』所収、pp. 134-137、神奈川県立歴史博物館、2010 年 9 月 24 日）
「自治体史〈民俗編〉の編さん動向について ー神奈川県域を中心にー」
（『大和市史研究』第 36 号、pp. 41-62、大和市役所文化スポーツ部文化振興課）
3　特別展図録『天狗推参！』（共編、神奈川県立歴史博物館、2010 年 9 月）
4　「天狗推参！　厄よけ信仰 今もなお」（『朝日新聞』、2010 年 10 月 20 日）
「収蔵品は語る〈10〉　門入道　悪霊を防ぐ『家境』の神」（『神奈川新聞』、2010 年 12 月 4 日）
「天狗とアンバさま ー関東の大杉信仰ー」
（『神奈川県立歴史博物館だより』vol, 16. №1. 通巻 184 号、p. 3、2010 年 9 月 14 日）
5　文化庁文化審議会第五専門調査会委員
大和市文化財保護審議会委員
6　県博講座「天狗のふしぎ・テングの魅力」第 4 回「天狗と民俗信仰」（2010 年 10 月 23 日）
7　天狗信仰や飯縄信仰の調査を行い、特別展「天狗推参！」に反映させ、次年度の特別展のため、竹製民具や信仰民具の調査研究を進めた。また、茶湯寺参りや先祖供養と他界観について継続的に研究を続けている。

4　資料収集・修理・保管・利用

〈凡例〉
ア 購入、　イ 寄贈・寄託・借用、　ウ 修理、　エ 貸出、　オ 特別利用、　カ その他

(1)　考古資料

イ　寄贈・寄託・借用
（借用）

No.	資　料　名	件ー点	当初借用年月日
1	古瀬戸瓶子	1件1点	昭和45年9月1日
2	宗元寺軒瓦 外	1件1,088点	昭和46年1月1日
3	草創期の石器(慶應義塾湘南藤沢キャンパス内遺跡)	1件20点	平成7年2月10日
4	壺(横須賀高校裏山遺跡) 外	1件3点	平成7年2月10日
5	饒益神宝(中原上宿遺跡出土)	1件1点	平成8年3月1日
6	茅ヶ崎市出土板碑関係(梵字板碑、破片)	1件4点	平成20年7月1日
7	藤沢市代官山遺跡出土土器 外	1件283点	平成21年3月1日
	合　　計	7件1,400点	

エ　貸出

No.	申請者・目的	資　料　名	件ー点	利用方法	利用期間
1	横浜市歴史博物館 「大昔の村を掘る ー三殿台遺跡と横浜の考古学」	三殿台出土遺物 縄文土器 縄文時代土製品 縄文時代石器 弥生時代石器 赤星忠直資料	 1件2点 1件5点 1件15点 1件2点 1件1点	展示	平成23年2月10日 ～ 6月9日

オ　特別利用

No.	申請者・目的	資　料　名	件ー点	利用方法	利用期間
1	横浜市歴史博物館 平成23年度特別展の準備	三殿台遺跡出土　縄文土器	1件2点	閲覧・撮影	平成22年 11月19日
		〃　縄文時代土製品	1件5点		
		〃　縄文時代石器	1件14点		
		〃　弥生時代石器	1件2点		
2	個人 骨角器研究	間口洞窟遺跡出土　骨角器	1件56点	閲覧・撮影	平成22年 12月17日
3	個人 漁労具研究	三ツ沢貝塚出土　鹿角製銛頭	1件2点	閲覧・実測	平成22年 12月17日
4	横須賀市役所 『横須賀市史』掲載	横須賀市田戸遺跡出土　縄文土器	1件2点	閲覧・撮影	平成23年 2月25日
5	個人 『横浜市歴史博物館 調査研究報告』掲載	三ツ沢貝塚出土　骨角器	1件2点	閲覧・撮影	平成23年 3月21日

(2)　歴史資料

ア　購入

No.	資　　料　　名	件ー点
1	「大礼記念　掃部山バザー記念写真帖」アルバム	1件1冊

作　　者：大礼記念掃部山バザー協会
出 版 年：昭和３年(1928)
技法・材質：アルバム仕様・紙製
法　　量：16.7 cm×23.2 cm
説　　明：　本資料は昭和３年(1928)７月１日から同月４日まで、横浜市西区の掃部山公園を会場に開催されたバザーの記録写真である。このバザーは名目的には昭和天皇の大礼を記念したが、関東大震災からの復興を示す目的も背景にあった。
　アルバムには13枚の写真が貼られ、競技会の受賞者名、出品者のリストが同綴されていることから、このバザーは参加出品店が競った広告宣伝の発表の場であったこともわかる。
　写真に写された人並みや人々の表情からは、昭和恐慌と呼ばれる不況に飲み込まれる直前の横浜の社会や風俗をうかがわせる貴重な資料である。

No.	資　料　名	件ー点
2	ハイネ画　ルビコン川を渡る	１件１点

原資料名：Passing the Rubicon, Lieut. S. Bent in the “Mississippi’s” First Cutter Forcing his way through a Fleet of Japanese Boats while Surveying in the Bay of Yedo, Japan July 11th 1853.
作　　者：Heine, Wilhelm（ウィルヘルム・ハイネ）
出 版 者：Sarony, New York（ニューヨーク、サロニー社）
出 版 年：1855年
技法・材質：石版彩色・紙
法　　量：70.7 cm×97.3 cm
説　　明：　本資料は、ペリー日本遠征艦隊に随行したドイツ人画家ウィルヘルム・ハイネによる石版画である。これとともに『琉球首里城のペリー』『久里浜上陸』『横浜上陸』『下田上陸』『下田寺院前の軍事演習』の６枚一組が『日本遠征画集』(Illustrations of the Japan Expedition)として発行された。
　資料名の「ルビコン川を渡る」とは、紀元前49年１月10日、ローマ内戦においてユリウス・カエサルが、「賽は投げられた」と檄を発して渡ったことから、運命を決し、不退転の意思を表すたとえとして使われ、本資料名もそれにならったものである。しかし、『ペリー艦隊日本遠征記』によれば、ベント大尉指揮のもと測量船が江戸湾内へ進入したところ、それを制止すべく御用船が出動したが、ベント大尉は、蒸気軍艦ミシッシッピ号を威嚇に使い測量を続行しており、この絵に描かれた状況にはなっていない。
　米国と幕府との一触即発の状況を、歴史的に有名なカエサルの「ルビコン川を渡る」になぞらえ、アメリカ側の不退転の決意を象徴する場面を描くことで、その当時の「歴史」を創り出そうとしたものといえる。アメリカ側の視点に立った日米の接触の状況を示す歴史資料として貴重である。

イ　寄贈・寄託・借用
（寄贈）

No.	寄贈主	資　料　名	件ー点
1	個人(横浜市在住)	特許アンブール式防火弾	１件１点
2	個人(横浜市在住)	真空式防火弾	１件１点
3	個人(横浜市在住)	復興記念横浜大博覧会絵葉書	１件９枚
4	個人(埼玉県在住)	小柴保雄 筆「The Investment Trust」原稿	１件１冊

（寄託）

No.	資　　料　　名	件ー点	当初寄託年月日
1	帝政ロシア製32ポンド砲(旧居留地90番出土の大砲)	1件1点	平成16年2月 1 日
2	長谷川家文書	1件22点	平成23年2月17日
3	大太鼓	1件1点	平成23年2月18日

（借用）

No.	資　　料　　名	件ー点	当初借用年月日
1	烏帽子形兜	1件1点	昭和43年10月22日
2	刀片(三増合戦場出土)	1件1点	昭和47年 6 月10日
3	関山家文書	1件24点	昭和47年 9 月 8 日
4	久崎家文書	1件197点	昭和47年 9 月13日
5	瀬戸 四耳壺 外	1件3点	昭和48年 7 月 1 日
6	渥美 灰釉壺 外	1件5点	昭和48年10月 1 日
7	本多家文書	1件953点	昭和49年 3 月 1 日
8	御用取締りのぼり	1件1点	昭和49年 4 月26日
9	嘆願書	1件1点	昭和52年 3 月23日
10	生麦村新地実測図(神奈川県令中島信行宛)	1件5点	昭和52年12月 1 日
11	舊荻野山中建物之繪図 外	1件19点	昭和53年12月 1 日
12	寺井家文書	1件16点	昭和55年 2 月15日
13	散弾銃	1件1点	昭和55年 4 月 1 日
14	羽柴秀吉知行充行状　天正十一年六月五日付	1件1点	昭和58年 5 月20日
15	平本家文書	1件1,309点	昭和58年10月14日
16	黒船来航絵巻	1件1点	平成 4 年 5 月15日
17	日月鳳凰螺鈿鞍	1件1点	平成 4 年11月 1 日
18	旧小田原城天守閣模型	1件1点	平成 5 年12月15日
19	辰御年貢可納割付之事 外	1件2点	平成 6 年 7 月20日
20	享保十四年九月酉之内検見引楪 外	1件22点	平成 6 年10月 7 日
21	黒地竹矢来に小花模様小袖裂 外	1件11点	平成 8 年 2 月 1 日
22	長禄元年銘板碑　同破片	1件2点	平成13年 5 月 1 日
23	桜井武兵衛覚書 外	1件19点	平成17年 3 月 1 日
24	中国青磁 碗　線描き蓮弁文 外	1件50点	平成18年 6 月 1 日
25	旧横浜正金銀行本店本館改修工事関係資料 一括	1件1点	平成20年 9 月 1 日
26	旧横浜正金銀行本店本館彩色立面図 外	1件119点	平成22年10月15日
27	米国公文書館所蔵 横浜正金銀行関係資料 (16㎜マイクロフィルム)	1件12点	平成23年 1 月16日
	合　　計	27件2,778点	

エ　貸出

No.	申請者・目的	資　料　名	件ー点	利用方法	利用期間
1	横浜都市発展記念館 特別展 「モダン横濱案内」	小田原提灯型ユニオンビール等広告	1件1点	展示	平成22年 9月7日 ～ 平成23年 2月3日
		戦前期洋楽新譜レコード目録の内 コロンビア・ラッキーレコード ①昭和14年9月洋楽新譜 (昭和14年8月15日) ②昭和15年正月洋楽新譜 (昭和14年12月15日)	1件4点		

		③昭和15年2月洋楽新譜 （昭和15年1月20日） ④昭和16年正月洋楽新譜 （昭和15年12月15日）			
		フォード宣伝チラシ	1件1点		
		ハーレーダビッドソン宣伝チラシ	1件1点		
		ライジングサン石油発行シェル潤滑油リスト	1件1点		
		月刊フォード（第7巻第4号）	1件1点		
		クラブ美人クリーム紙箱	1件1点		
		マスタークリーム・バニシング紙箱	1件1点		
		クラブほほ紅紙箱	1件1点		
		クラブビシン石鹸紙箱	1件1点		
2	大阪城天守閣 特別展「秀吉の挑戦」	鉄黒漆塗四十八間筋兜鉢	1件1頭	展示	平成22年 9月30日～ 11月25日
		北条家所有旗指物（狭山北条家伝来）	1件1旒		
3	国立歴史民俗博物館 企画展示 「武士とはなにか」	赤絲威鎧（模造）	1件1領	展示	平成22年 10月8日～ 平成23年 1月7日
		我等はしりめくり之覚	1件1通		
4	小田原市郷土文化館 特別展 「都市おだわらの創生」	北条氏康判物　天文十六年九月廿一日付	1件1点	展示	平成23年 1月28日～ 3月4日
		伊勢家制札　文永四年四月十日付	1件1点		
		小田原陣仕寄陣取図（複製）	1件1点		

オ　特別利用

No.	申請者・目的	資　料　名	件ー点	利用方法	利用期間
1	個人 19世紀後半の広東研究	広東、ホナンに海兵隊上陸（チャールズ・ワーグマン）	1件1点	閲覧・撮影	平成22年 6月8日
		広東の砲撃（チャールズ・ワーグマン）	1件1点		
		広東の東門（チャールズ・ワーグマン）	1件1点		
		広東、旧上陸地点（チャールズ・ワーグマン）	1件1点		
		ホナンからの広東（チャールズ・ワーグマン）	1件1点		
		広東、ヨーロッパ人の地域煙にまかれる（チャールズ・ワーグマン）	1件1点		
2	個人 調査研究	房総相模御備場取調書（川村清兵衛）	1件1点	閲覧・撮影	平成22年 7月13日
3	サッポロビール㈱ エビスビール記念館におけるパネル展示	1900年パリ万国博覧会でのエビスビール展示風景（『千九百年巴里万国博覧会臨時博覧会事務局報告 下』所収）	1件1点	閲覧・撮影	平成22年 7月15日

4	横浜都市発展記念館 特別展「モダン横濱案内」の撮影・図録掲載及びパネル展示	小田原提灯型ユニオンビール等広告	1件1点	閲覧・撮影	平成22年7月15日
		戦前期洋楽新譜レコード目録の内、コロンビア・ラッキーレコード ①昭和14年9月洋楽新譜（昭和14年8月15日） ②昭和15年正月洋楽新譜（昭和14年12月15日） ③昭和15年2月洋楽新譜（昭和15年1月20日） ④昭和16年正月洋楽新譜（昭和15年12月15日）	1件4点		
		フォード宣伝チラシ	1件1点		
		ハーレーダビッドソン宣伝チラシ	1件1点		
		ライジングサン石油発行シェル潤滑油リスト	1件1点		
		月刊フォード(第7巻4号)	1件1点		
		クラブ美人クリーム紙箱	1件1点		
		マスタークリーム・バニシング紙箱	1件1点		
		クラブほほ紅紙箱	1件1点		
		クラブビシン石鹸紙箱	1件1点		
		オデオン座 (高野捨吉ガラス乾板写真No.30)	1件1点		
		伊勢佐木町入口と車 (高野捨吉ガラス乾板写真No.249)	1件1点		
		山下公園の洋装の女性 (高野捨吉ガラス乾板写真No.69)	1件1点		
		水着の女性 (高野捨吉ガラス乾板写真No.87)	1件1点		
5	個人 科研費調査(松浦武四郎関係資料の調査)	浩然随筆	1件50点	閲覧・撮影	平成22年8月19日～8月20日
6	個人 ブログ掲載	中世鎌倉模型	1件1点	撮影	平成22年10月10日
7	個人 博士論文作成	籠城日誌　南京引揚げの顛末 (旧横浜正金銀行調査部資料)	1件1点	閲覧・撮影	平成22年11月23日
		奥漢鉄路概観 (旧横浜正金銀行調査部資料)	1件1点		
		香港海員同盟罷工 (旧横浜正金銀行調査部資料)	1件1点		
		上海金融事情講話 (旧横浜正金銀行調査部資料)	1件1点		
		五三〇事件と排貨運動 (旧横浜正金銀行調査部資料)	1件1点		
		正金週報記事索引・電報索引　昭和2年 (旧横浜正金銀行調査部資料)	1件4点		
		正金週報記事索引・電報索引　昭和3年 (旧横浜正金銀行調査部資料)	1件1点		

		正金週報記事索引・電報索引　昭和４年（旧横浜正金銀行調査部資料）	１件３点		
		正金週報記事索引・電報索引　昭和５年（旧横浜正金銀行調査部資料）	１件１点		
		正金週報　昭和２年　第６号～51 号	１件 46 点		
8	個人 修士論文作成	横浜写真アルバム	１件１点	閲覧・撮影	平成 23 年２月１日
9	霊山歴史館 特別展展示映像に使用	ペリー献上蒸気機関車模型	１件１点	撮影	平成 23 年２月３日
10	個人 12 世紀周辺の紺紙金字経と隠れた墨書に関する研究	紺紙金字一切経	１件１点	閲覧・撮影	平成 23 年２月１日
		紺紙金字一切経	１件１点		
		一切経	１件１点		
11	個人 科研費報告書『松浦武四郎研究序説』掲載	浩然随筆　廿七、三拾四	１件２点	掲載	平成 23 年３月 13 日
12	個人 『北条氏と茶の湯』（仮）作成のための調査	北条氏規書状（北条家文書 A-10）	１件１点	閲覧・撮影	平成 23 年３月 16 日

(3)　美術資料

ア　購入

No.	資　　料　　名	件ー点
1	江戸名所百人美女　大師河原　大判錦絵（三代 歌川豊国）	１件１点
2	「横浜渡来異商住家之図」のうち「南亜墨利加国」大判錦絵（五雲亭貞秀）	１件１点
3	富士山（山本芳翠）	１件１点
4	東海道　小田原（二代 歌川国輝）	１件１点
5	東海道名所之内　梅澤（河鍋暁斎）	１件１点

No.1

名　称：江戸名所百人美女　大師河原　大判錦絵（三代 歌川豊国）
員　数：１枚
法　量：34.9 cm×23.8 cm
説　明：　幕末の美人画の名手、三代 歌川豊国が描いた 100 枚の揃物『江戸名所百人美女』のうち、唯一、現在の神奈川県域を取り上げた作品。駕籠に腰をかけ、煙草を飲んで一服している旅姿の女性を豊国が描き、コマ絵に大師河原にある川崎大師こと金剛山金乗院平間寺の本堂と鐘楼堂を弟子の国久が描く。安政４年（1857）刊。

No.2

名　称：「横浜渡来異商住家之図」のうち「南亜墨利加国」大判錦絵（五雲亭貞秀）
員　数：１枚
法　量：34.9 cm×23.8 cm
説　明：　外国人の住宅と外国人の姿を描いた大判錦絵５枚続「横浜渡来異商住家之図」の右から２枚目にあたる。既に他の４点は当館丹波コレクションに所蔵。描いた五雲亭貞秀は横浜浮世絵を描いた第一人者。文久元年（1861）刊。

No.3

名　称：富士山（山本芳翠）

員　数：１点

法　量：126.7 cm×84.7cm

説　明：　五姓田派の絵師の一人、山本芳翠の作品。制作年代は明治 30 年代ごろと推定。絹に油彩で描かれた本作は、明治期の洋画の様相を具体的に物語る好例である。描かれた富士や船などはその大きさ、角度などから実景とはやや離れているが、その雄大な様は舞台の背景画ないしはパノラマ画など、明治後期の大画面絵画を想像させる点において貴重な作例である。

No.4

名　称：東海道　小田原（二代 歌川国輝）

員　数：１枚

法　量：35.2 cm×24.2 cm

説　明：　小田原にある薬店、外郎の前を大名行列が通り過ぎる様子を二代 歌川国輝が描く。外郎(透頂香)は後北条氏のころに小田原で開業して以来現在も続く。歌舞伎狂言「外郎売」も人気があった。本図は十四代将軍家茂の上洛を題材とし、「東海道名所風景」と呼ばれる 160 点を越える揃物の一点。文久 3 年(1863)刊。

No.5

名　称：東海道名所之内　梅澤（河鍋暁斎）

員　数：１枚

法　量：33.6 cm×22.8 cm

説　明：　梅沢(神奈川県二宮町)は大磯と小田原の間にあった立場。本図も前掲「東海道　小田原」と同じ「東海道名所風景」のうちの一点。海辺の街道を通る大名行列を人々は見送り、遠くには大島が見える。絵師の署名「周麿」は、この頃河鍋暁斎が使用していた号。

イ　寄贈・寄託・借用

（寄贈）

No.	寄贈主	資料名	件ー点
1	個人(鎌倉市在住)	材木座海岸採集　青磁・青白磁・白磁破片	一括

（寄託）

No.	資　料　名	件ー点	当初寄託年月日
1	江の島関係浮世絵コレクション	1 件 88 点	昭和 56 年 4 月 1 日
2	重要文化財　木造他阿真教坐像	1 件 1 点	平成 17 年 5 月 24 日
3	束帯天神像 外	7 件 10 点	平成 21 年 4 月 24 日
4	祖栄筆　柳に鷺図 外	8 件 8 点	平成 21 年 8 月 1 日
5	眞葛焼	13 件 19 点	平成 22 年 3 月 1 日
	合　　計	30 件 126 点	

（借用）

No.	資　料　名	件ー点	当初借用年月日
1	県重要文化財　紙本淡彩　十六羅漢図	1 件 17 点	昭和 44 年 3 月 1 日
2	県重要文化財　絹本著色　熊野権現影向図	1 件 1 点	昭和 44 年 3 月 1 日
3	県重要文化財　絹本著色　両界曼荼羅図 外	1 件 37 点	昭和 44 年 7 月 1 日
4	東山天皇即位図屏風	1 件 1 点	昭和 47 年 6 月 17 日
5	常滑印花文壺 外	1 件 12 点	昭和 48 年 3 月 1 日

6	東海道図屏風	1件1点	昭和49年 7 月 1 日
7	源氏物語図屏風	1件1点	昭和50年 3 月10日
8	絹本著色　七星如意輪曼荼羅図	1件37点	昭和50年 6 月 1 日
9	横浜浮世絵	1件473点	昭和52年 1 月10日
10	張交屏風	1件1点	昭和52年 7 月15日
11	下村観山デスマスク 外	28件414点	昭和53年 4 月 1 日
12	木造薬師如来坐像	1件1点	昭和56年 2 月25日
13	大小暦コレクション(長谷部コレクション)	1件40点	昭和59年 4 月 1 日
14	双六(下村観山)	1件1点	昭和59年 7 月 1 日
15	海岸風景図(司馬江漢)	1件1点	昭和60年12月 1 日
16	鴉図 外(以天宗清)	1件2点	昭和63年 7 月 7 日
17	短刀(チャールズ・ワーグマン所用)	1件1点	平成 2 年 8 月25日
18	江島金沢八景図屏風 外	1件4点	平成 4 年12月 1 日
19	本牧風景 外	1件2点	平成 5 年 6 月15日
20	鶴岡八幡宮境内出土品の内　板草履の芯 外	1件19点	平成 7 年 3 月 1 日
21	梵鐘	1件1点	平成10年 1 月 1 日
22	仁清意鶏形香合 外	1件4点	平成12年 3 月 1 日
23	俵藤太絵巻	1件5点	平成12年 5 月 1 日
24	好色十二候 外(喜多川歌麿)	1件12点	平成12年12月20日
25	箱根権現縁起絵巻　付 納入箱	1件2点	平成13年 8 月 1 日
26	闘鶏下絵 外(下村観山)	1件3点	平成21年 3 月 1日
	合　　計	53件1,093点	

エ　貸出

No.	申請者・目的	資　料　名	件-点	利用方法	利用期間
1	川崎市市民ミュージアム 企画展「絵図でめぐる川崎 ～失われた景観をさぐる」	東海道分間延絵図(複製)	1件1点	展示	平成22年 7月6日 ～ 9月9日
2	兵庫県立美術館 展覧会「水木しげるー妖怪図鑑」	新形三十六怪撰　清盛福原に数百の人頭を見る図(月岡芳年)	5件5点	展示	平成22年 7月21日 ～ 10月12日
		新形三十六怪撰　三井寺頼豪阿闍梨悪念鼠と変ずる図(月岡芳年)			
		新形三十六怪撰　源頼光土蜘蛛ヲ切ル図(月岡芳年)			
		新形三十六怪撰　おもゐつゝら(月岡芳年)			
		新形三十六怪撰　茂林寺の文福茶釜(月岡芳年)			
3	名古屋市博物館 開府400年記念特別展「変革のとき　桃山」	南蛮屏風	1件2点	展示	平成22年 9月7日 ～ 10月30日
4	奈良県立美術館 特別展「海をわたってきた花と鳥～花鳥画を中心に見た中国・朝鮮半島の美術と日本美術～ 」	神奈川県指定文化財 花鳥図(賢江祥啓)	1件1点	展示	平成22年 9月11日 ～ 12月1日

5	財団法人　北斎館 北斎生誕250年記念特別展 「富士と桜展」	江都両国橋夕涼花火之図(葛飾北斎)	1件8点	展示	平成22年 9月30日 ～ 11月27日
		中村のしほの唐美人(葛飾北斎)			
		庭を見る老人(葛飾北斎)			
		錦摺女三十六歌仙口絵(葛飾北斎)			
		女東下り図(葛飾北斎)			
		冨嶽三十六景　山下白雨(葛飾北斎)			
		諸国名橋奇覧　摂州阿治川口天保山応需似浪花之図(葛飾北斎)			
		諸国瀧廻り　東海道坂ノ下清滝くわんおん(葛飾北斎)			
6	品川区立品川歴史館 特別展「中原街道」	相州大山道田村渡の景(歌川国芳)	2件2点	展示	平成22年 10月6日 ～ 11月26日
		東海道五拾三次之内　平塚(初代 歌川広重)			
7	サントリー美術館 「歌麿・写楽の仕掛け人 ーその名は蔦屋重三郎ー」	雛形若菜の初模様　角町大黒屋内三つあやすみの　まつの(磯田湖龍斎)	16件16点	展示	平成22年 10月20日 ～ 12月28日
		雛形若菜の初模様　丁子屋内ひな鶴(磯田湖龍斎)			
		雛形若菜の初模様　角玉屋内みやと(磯田湖龍斎)			
		青楼名君自筆集　序文　蜀山人			
		青楼名君自筆集　瀬川　松人(北尾政演)			
		青楼名君自筆集　あふぎや　滝川　花扇(北尾政演)			
		青楼名君自筆集　まつがねやうち　東家九重(北尾政演)			
		青楼名君自筆集　よつめや　歌川　なな里(北尾政演)			
		青楼名君自筆集　角玉屋　濃紫　花紫(北尾政演)			
		青楼名君自筆集　てうしや　ひなつる　てう山(北尾政演)			
		青楼名君自筆集　大もんしや　ひともとたか袖(北尾政演)			
		青楼名君自筆集　坂文(北尾政演)			
		浮絵東都　新吉原夕暮之景(北尾政美)			
		若那屋内しら玉　かをる　とめき(初代 喜多川歌麿)			
		狐拳三美人(初代 喜多川歌麿)			
		青楼七小町　玉屋内明石　うら次　しま野(初代 喜多川歌麿)			
8	行田市郷土博物館 特別展「石田三成と忍城水攻め」	北条氏政画像(複製)	2件2点	展示	平成23年 1月19日 ～ 3月24日
		北条氏直画像(複製)			
9	安城市歴史博物館 特別展「描かれた農」	四季耕作図屏風（狩野探幽）	2件5点	展示	平成23年 1月26日

		農家畊作之図（歌川貞秀）			～ 3月24日
10	山梨県立博物館 特別展「北斎の冨嶽三十六景」	琉球八景　長虹秋霽(葛飾北斎)	5件5点	展示	平成23年 3月8日 ～ 5月17日
		江ノ島祭礼(葛飾北斎)			
		不二八景図(葛飾北斎)			
		東海道五十三次(折本)(葛飾北斎)			
		東海道五十三次　戸塚(葛飾北斎)			

オ　特別利用

No.	申請者・目的	資　料　名	件ー点	利用方法	利用期間
1	個人 演劇写真研究	写真所　今日う里出し～(豊原国周)	1件1点	閲覧 ・ 撮影	平成22年 6月2日
		俳優写真鏡　尾上菊五郎(落合芳幾)	1件1点		
		俳優写真鏡　坂東三津五郎(落合芳幾)	1件1点		
		俳優写真鏡　中村芸翫(落合芳幾)	1件1点		
2	個人 着物の研究	東京開化名勝京橋石造銀座通り両側煉化石商家盛栄之図(三代 歌川広重)	1件1点	閲覧 ・ 撮影	平成22年 6月30日
		東京名所浅草釣橋鉄道馬車往復之図(三代 歌川広重)	1件1点		
		東京名所之内　上野公園地桜花盛之図(三代 歌川広重)	1件1点		
		東京上野公園地第二内国勧業博覧会開場之図(三代 歌川広重)	1件1点		
		久松町劇場　久松座繁栄図(三代 歌川広重)	1件1点		
		東京名所従吾妻橋水雷火遠望之図(井上探景)	1件1点		
		幻燈写心競　女史演説(楊洲周延)	1件1点		
		自江戸橋新築国立銀行一覧之図(永島孟斎)	1件1点		
		東京日本橋ハウス之遠景(永島孟斎)	1件1点		
		東京銀座要路煉瓦石造真図(二代 歌川国輝)	1件1点		
		内国勧業博覧会　開場御式の図(周延)	1件1点		
		勧業博覧会館内一覧之図(周延)	1件1点		
		憲法発布　御通輦之図(井上探景)	1件1点		
		明治22年2月11日 憲法発布式之図(複版)(応需勝月)	1件1点		
		錦町華族学校学習院開業式図(蜂須賀国明)	1件1点		
		御代春恵の梅園(小林清親)	1件1点		
		青山仮皇居御能ノ図　周延筆(楊洲周延)	1件1点		
		高貴肖像(豊原国周)	1件1点		
		皇国高宦鑑(石斎国直)	1件1点		
		皇后宮御製唱歌(豊原国周)	1件1点		
		高貴演劇遊覧ノ図(楊洲周延)	1件1点		
		薩州鹿児島征討記之内(花) 賊徒之女隊勇戦之図(月岡芳年)	1件1点		
		野戦病院エ行啓之図(清親)	1件1点		
		無題(横濱異人館之図)(芳虎)	1件1点		
		穏補(一光斎芳盛)	1件1点		
		横浜本町イタリヤ役館之図(三代 歌川広重)	1件1点		
		横浜商館並ニ弁天橋図　横浜ステーション蒸	1件1点		

		気入車之図並海岸洋船　燈明台を眺望す(歌川国鶴)			
		横浜繁栄本町通時計台　神奈川県全図　国鶴画(歌川国鶴)	1件1点		
		横浜ステーション花園之図　歌川国鶴画・筆(歌川国鶴)	1件1点		
		横浜名所一覧　時計台　県庁(早川松山)	1件1点		
		英語図解(福田熊次郎)	1件1点		
		大新板極上　唐人船　子ども遊組上とうふの(未詳)	1件1点		

(4)　民俗資料

イ　寄贈・寄託・借用

(寄贈)

No.	寄贈主	資料名	件ー点
1	個人(横浜市在住)	庚申講掛軸	1件1幅
2	個人(横浜市在住)	地神講掛軸	1件1幅

(借用)

No.	資　料　名	件ー点	当初借用年月日
1	階段 外	1件4点	昭和43年 4 月 1 日
2	神楽面 外	1件151点	昭和44年12月11日
3	地神講の用具 外	1件2点	昭和46年 5 月25日
4	お食初め膳 外	1件3点	昭和46年10月23日
5	ダイカイ	1件1点	昭和47年 2 月21日
6	白髭神社大祭の幟	1件2点	昭和47年 2 月23日
7	ポンプ	1件1点	昭和47年 3 月 1 日
8	燭台	1件1点	昭和47年 3 月 6 日
9	長持 外	1件2点	昭和47年 3 月 6 日
10	お歯黒さし 外	1件2点	昭和47年 3 月 8 日
11	お歯黒の道具	1件1点	昭和47年 3 月11日
12	ミノ	1件2点	昭和47年 7 月11日
13	天狗の面 外	1件3点	昭和48年 2 月27日
14	帳場格子 外	1件15点	昭和48年 3 月 2 日
15	武具雛形	1件1点	昭和48年 4 月 1 日
16	結納樽	1件1点	昭和48年 4 月 1 日
17	スエヒロ	1件3点	昭和48年 8 月20日
18	鏡台と鏡 外	1件4点	昭和49年 4 月26日
19	張子面木型	1件7点	昭和51年 6 月19日
20	獅子皿 外	1件9点	昭和54年 3 月 1 日
21	婚礼用具	1件1点	昭和54年 3 月 1 日
22	浄瑠璃本	1件22点	昭和54年10月13日
23	浄瑠璃人形頭 外	1件47点	昭和54年10月13日
24	足踏み脱穀機	1件2点	平成 6 年 4 月15日
	合　　計	24件287点	

エ　貸出

No.	申請者・目的	資　料　名	件ー点	利用方法	利用期間
1	相模原市立博物館 常設展示	鍬	1件4点	展示	平成22年11月1日 ～ 平成23年10月31日

オ　特別利用

No.	申請者・目的	資　料　名	件ー点	利用方法	利用期間
1	個人 神奈川大学経済学会紀要 『商経論叢』45巻4号 (2010.10)掲載	厚木市の鋤	1件1点	撮影・掲載	平成22年 9月14日
		小田原市曽比のエンガ鋤	1件1点		
		開成町の鋤	1件1点		
		南足柄市の鋤	1件1点		
		山北町の鋤	1件1点		
2	個人 パネル作成の参考	農具作業工程図(パネル)	1件1点	撮影	平成23年 1月18日

(5)　写真資料

ア　平成22年度写真撮影資料

(ｱ)　特別展図録用
- 『彩色立面図にみる日本の近代建築　銀行・オフィスビルから邸宅まで』
- 『天狗推参！』
- 『浮世絵☆忠臣蔵 ー描かれたヒーローたち!?ー』
- 『御移転100年記念　能登から鶴見の地へ　曹洞宗大本山總持寺　名宝100選』
- 『チャールズ・ワーグマン来日150周年記念　ワーグマンが見た海　ー 洋の東西を結んだ画家 ー』
- 『竹と民具』

(ｲ)　収蔵資料
- 浮世絵(丹波コレクション)

(6)　資料の燻蒸等

IPM(総合的病害虫管理 Integrated Pest Management)に基づき、薬剤による定期的な薫蒸は行なわず、必要に応じて脱酸素剤や二酸化炭素ガスによる処理を行なっている。

(7)　その他の資料

ア　図書

平成22年度図書資料の状況は次のとおりである。大学等の関係機関からの寄贈も多く、当館の貴重な資料として活用されている。

受 入 数	購 入	寄 贈	計	総 数	ライブラリー公開数
図　　書(冊)	9	558	567	17,280	3,484
逐次刊行物(タイトル)	22	25	47	3,630	76

※逐次刊行物はタイトル数で、寄贈は新規のみの数値。

イ　映像

ライブラリーのおよそ300本のビデオテープやDVDが利用できる。分類は次のとおり。

A 古代、B 中世、C 近世、D 近代、E 現代、F 民俗、G 当館・博物館、H 日本の歴史、I その他

ウ　写真

展示・調査研究資料として、収蔵資料を中心に撮影したフィルム 120,728 枚を保存し、データベース化するとともに、写真の特別利用として貸出しを行っている。

特別利用件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
件　数	35	18	25	27	18	33	28	23	23	22	28	21	301
点　数	93	44	30	87	30	94	37	41	62	73	52	29	672

エ　情報システム

(ｱ)　システム整備の目的と背景

・学習の支援

高度な知的欲求ニーズへの対応

・博物館活動の活性化、効率化

・研究活動の高度化

各種アプリケーションの利用

博物館が所有する情報の活用

・情報公開

博物館の再編整備の方向（「県立博物館整備構想に関する提言」昭和 63 年度）
(1) 高度情報化社会における自然・文化の情報センター (2) 映像資料等、新しい形態の資料の収集・保存と活用の拠点 (3) 内外の博物館、学習文化施設等とのネットワークの拠点

(ｲ)　システム開発と運用

システム基本設計・詳細設計	平成 5 年度
システム運用開始	平成 7 年度
システム更新	平成 13 年度、平成 17～18 年度、平成 22 年度

(ｳ)　現在、稼動しているシステム（「デジタル・ミュージアム」）の内容

a　展示情報システムの内容

ミュージアムライブラリーに設置された 3 台の来館者用パソコンで提供。一部の資料については、高精細の拡大画像も提供。

従来、館内利用に限定されていた展示情報システムは、当館のホームページに掲載され、利用者が自宅や学校で閲覧可能(タイトルのうち、№2 絵馬、№5 水墨画、№11 神奈川の自然～14 図書・雑誌検索は除く)。

№.	タイトル	内容
1	浮世絵	博物館所蔵の約 7,000 点ある浮世絵の中から、浮世絵の歴史、神奈川を描いた浮世絵、横浜浮世絵、著名な浮世絵師たち、一枚の絵から見る江戸時代の風俗など、テーマごとに選択した 230 点の浮世絵を紹介。
2	絵馬	神奈川県でよく見ることが出来る絵馬や珍しい絵馬など 125 点を紹介。
3	関東大震災	震災時の惨状等を伝える写真資料 70 点を紹介。
4	古地図	平成 9 年度に開催した古地図の特別展に出品された作品の中から代表的な作品 85 点を紹介。
5	水墨画	平成 10 年度に開催した水墨画の特別展に出品された作品の中から代表的な作品 85 点を紹介。

6	横浜正金銀行	かつて世界三大為替銀行の一つに数えられた横浜正金銀行の写真資料221点を紹介。
7	眞葛焼	かつて世界に名を知られた横浜の焼き物の中から46点を紹介。
8	後北条関係文書	戦国大名北条氏の多様な文書の世界を人物などとともに118点を紹介。
9	東海道分間絵図	東海道の情景を描いた道中案内記(1件5冊)を紹介。拡大画像により、細部まで見ることが可能。
10	県有形民俗文化財 神奈川の職人の道具	神奈川県指定有形民俗文化財「神奈川の職人の道具コレクション」(17職種 1,982 点)のうち、大山木地師小田原物差職人、下駄職人、傘職人の道具など、338点を紹介。
11	神奈川の自然	神奈川に生息する動植物、神奈川産の鉱物、相模湾の魚について、画像、解説文、分布図等をいろいろな検索方法で提供する。 鳥：218種、植物：2,990種、チョウ：100種 トンボ：79種、相模湾の魚：329種、コケ：66種 鉱物：126種、関東ローム層：1,013点、菌類：164種
12	日本で見られる恐竜	国内の博物館で展示されている恐竜について、画像や解説文を提供する。
13	酒井コレクション細密画	酒井恒博士夫妻が書かれたカニ原色細密画、660種の画像を提供する。
14	図書・雑誌検索	生命の星・地球博物館のライブラリーで所蔵している図書 17,085 冊、雑誌3,240タイトルが検索できる。

※なお、№11～14は、神奈川県立生命の星・地球博物館が作成・提供。

b　業務システムの内容

・収蔵資料管理システム

収蔵品管理機能、画像登録機能、受入管理機能、特別利用管理運用機能、各種帳票ラベル出力機能

・図書文献管理システム

c　ＯＡ関係

・ワープロ、表計算、データベース、ＤＴＰ

・収蔵資料データベースとのデータ連携

(ｴ)　システム構成

a　概要

・サーバＯＳ：Red Hat Enterprise Linux ES v3、Windows　Server　2003及び2008

・クライアントＯＳ：WindowsXP

b　設置機器

(a)　情報処理室・電源室

収蔵システムサーバ　1台、Webサーバ　1台、展示情報用サーバ　1台

アップデートサーバ　1台、図書サーバ　1台、作業用パソコン　7台

(b)　ミュージアムライブラリー

来館者用パソコン　3台

レファレンス用パソコン　2台

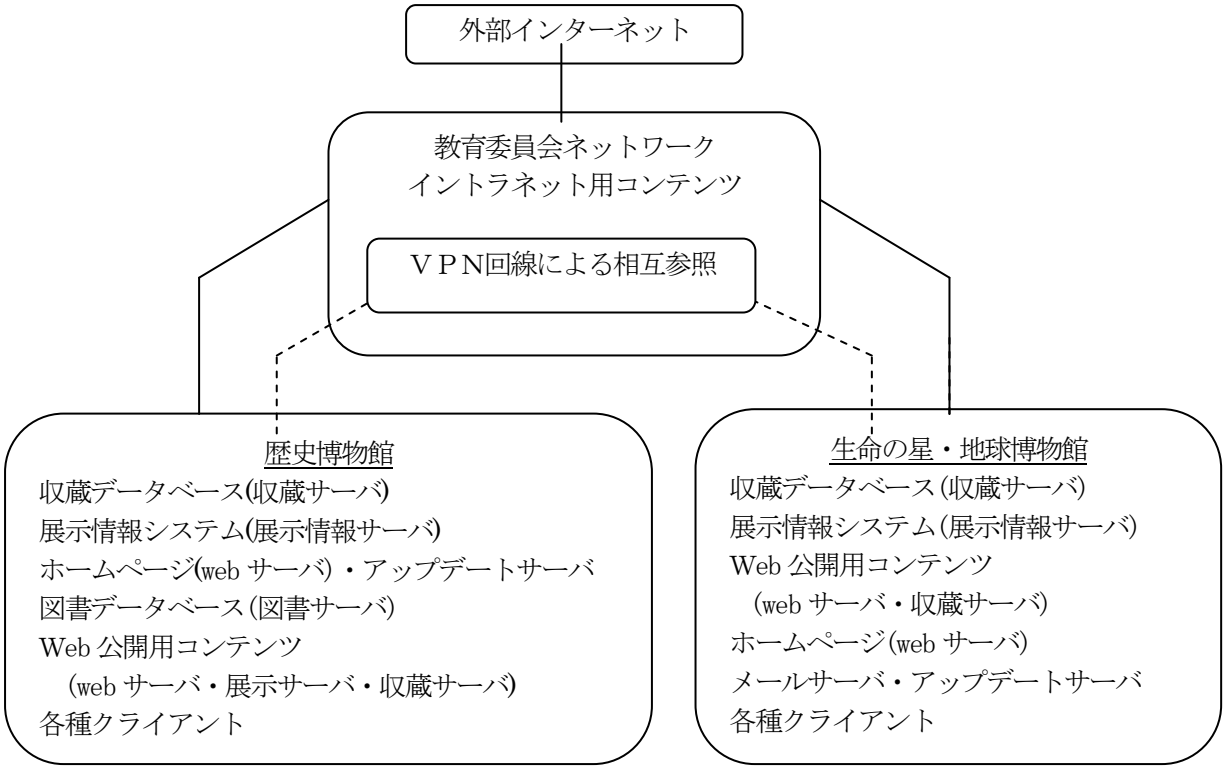
(c)　展示機材倉庫・印刷室

画像入力用パソコン　2台

(d)　学芸部室・学芸部各資料整理室・管理課室・企画情報部室・図書資料整理室・写真室・暗室

各室作業用パソコン　計41台

(ｵ)　歴史博物館システム機器構成図



(ｶ)　歴史博物館ホームページ　アクセス件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
ＨＰ	30, 085	35, 083	32, 153	39, 827	45, 948	45, 317	49, 997	37, 216	32, 695	40, 180	36, 436	31, 557	456, 494
携帯	4, 085	3, 960	3, 119	3, 726	4, 955	3, 508	5, 632	3, 445	3, 887	3, 725	3, 417	3, 349	46, 808
合計	34, 170	39, 043	35, 272	43, 553	50, 903	48, 825	55, 629	40, 661	36, 582	43, 905	39, 853	34, 906	503, 302

参考(内数)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
デジタル ミュージアム	3, 780	4, 132	3, 574	3, 597	3, 920	4, 671	4, 575	3, 694	3, 443	3, 540	3, 134	2, 473	44, 533
子ども向け ページ		23	28	116	1, 142	995	958	865	521	753	795	1, 061	7, 257

5　展示・教育普及・学習支援

(1)　常設展

当館の常設展示は「文化の交流と変容」という基本テーマに基づき、「かながわの文化と歴史」について、五つの時代に分け、それぞれのテーマのもとに、人々の生活や信仰、政治や経済の変化、外来文化の影響などを、さまざまな角度からとらえ、歴史的視点で展開している。

1　さがみの古代に生きた人びと
- 大地に生きる狩人
- 海への進出
- 米づくり、はじまる
- 古墳を築く
- 都とさがみの国(奈良時代)
- 都とさがみの国(平安時代)

2　都市鎌倉と中世びと
- 源頼朝と東国武士団
- 戦国大名後北条氏
- 掘り起こされた鎌倉
- 唐物とその影響
- 民衆と仏教

3　近世の街道と庶民文化
- 宿場と関所
- 庶民信仰と名所めぐり
- 村の支配と生活
- 相武の産物と江戸

4　横浜開港と近代化
- 蒸気船が導いた新たな時代
- 世界へ開かれたみなとＹＯＫＯＨＡＭＡ
- 文明開化の音
- 近代化と神奈川
- 横浜浮世絵に見る神奈川
- 横浜正金銀行

5　現代の神奈川と伝統文化
- 関東大震災を越えて
- 昭和恐慌と社会変化
- 戦時体制と敗戦
- 占領から講和へ
- 高度経済成長と環境の変化
- メディアコミュニケーション
- 変貌する町と村
- イエと暮らし
- くらしの中の祈り
- なりわいと儀礼
- 伝承される技術と芸能

(2)　特別展

ア　「彩色立面図に見る日本の近代建築 －銀行・オフィスビルから邸宅まで－ 後期 銀行建築編」

会　期：平成22年4月3日(土)～5月9日(日)
主　催：神奈川県立歴史博物館
後　援：神奈川新聞社、読売新聞東京本社横浜支局、NHK横浜放送局、tvk(テレビ神奈川)
(社)日本建築学会、(社)横浜銀行協会
展示資料件数：80件
入場者数：5,548名(有料1,975名、無料3,573名)
担　当：主任学芸員　丹治 雄一
概　要：　本展は、横浜市在住の建築家・岡義男氏が描いた彩色立面図により日本の近代建築の魅力を紹介しようとしたものである。
横浜開港と同時に外国文化摂取の窓口となった神奈川県域には、現在も横浜をはじめ各所に多くの近代洋風建築が遺されている。また、全国各地にも明治・大正・昭和戦前期に建てられた歴史的建造物は数多くあり、近年こうした近代建築や近代化遺産(産業遺産)への関心が高ま

りを見せている。岡氏はこうした本県内の近代建築をはじめ、東京さらには全国各地に遺された近代建築の彩色立面図を描き続けている。岡氏が描く彩色立面図とは、建物正面の外観を建築図面の立面図風に極めて精細に描いた水彩画である。図面・写真等の調査を行った上で、それぞれの建物の創建時の姿を描くことを制作にあたっての基本方針としており、精細でありながら下書きまですべてが手描きで温かみを感じることができる画風となっている。

本展の後期展示では、当館旧館建物が明治 37 年(1904)に横浜正金銀行本店として建てられ、重要文化財・史跡に指定されている日本を代表する銀行建築であることにちなみ、全国各地の銀行建築の彩色立面図と関連資料を展示した。

○特別展関連行事

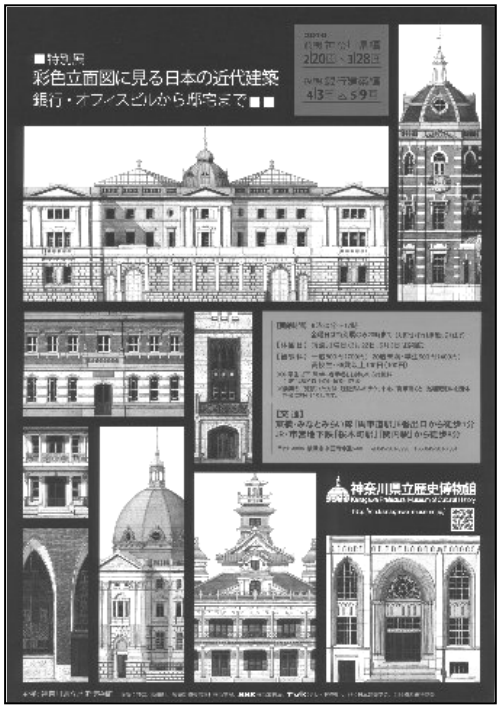
①記念講演会

日　時：4 月 25 日(日) 14:00～16:00
演　題：「明治・大正の銀行建築と保存活用」
講　師：清水建設株式会社技術研究所 上席研究員　松波 秀子 氏
応募者：168 名
受講者：67 名

②特別展記念建物見学会(応募者 159 名)

・第 1 回
日　時：4 月 30 日(金) 14:00～15:30
見学先：日本銀行本店本館
講　師：日本銀行文書局 技師　中村 茂樹 氏
参加者：参加者 28 名

・第 2 回
日　時：5 月 4 日(火・祝) 14:00～15:30
見学先：旧横浜正金銀行本店本館
講　師：当館 主任学芸員　丹治 雄一
参加者：当館参加者 29 名



③展示解説

・第 1 回
日　時：4 月 18 日(日) 13:30～
講　師：主任学芸員　丹治 雄一
参加者：19 名

・第 2 回
日　時：4 月 29 日(木・祝) 13:30～
講　師：主任学芸員　丹治 雄一
参加者：25 名

○出品目録

(凡例)彩色立面図〔親番号〕は、№、資料名、建物創建年、制作年、所蔵
関連資料〔枝番号で表示〕は、№、資料名、年代、所蔵者(特に記載のないものは、全て岡 義男 氏)

1 旧横浜正金銀行本店本館(神奈川県立歴史博物館)　明治 37 年(1904) 7 月　平成 21 年(2009) 9 月
1-1 妻木頼黄像　大正 5(1916)年頃　当館
1-2 横浜正金銀行本支店建築写真アルバム　明治 37 年(1904)　当館
61 日本銀行本店本館　明治 29 年(1896) 2 月　平成 21 年(2009) 3 月
61-1 日本銀行新築場沿革図　明治時代後期　日本銀行金融研究所アーカイブ
61-2 辰野金吾博士作品集成絵図　大正 4 年(1915)　個人
61-3 辰野金吾肖像写真　大正 4 年(1915)4 月 26 日撮影　個人
61-4 大日本帝国政府日本銀行全景　明治 29 年(1896)　日本銀行金融研究所貨幣博物館

61-5 日本銀行落成之図　明治 29 年(1896)　日本銀行金融研究所貨幣博物館
62 三菱一号館(三菱一号館美術館)　明治 27 年(1894) 12 月　平成 19 年(2007) 4 月
63 旧三菱銀行神戸支店(ファミリアホール)　明治 33 年(1900)　平成 20 年(2008) 11 月
64 日本銀行大阪支店　明治 36(1903)年 1 月　平成 21 年(2009) 9 月
65 旧第五十九銀行本店本館(青森銀行記念館)　明治 37 年(1904) 11 月　平成 21 年(2009) 3 月
66 旧香港上海銀行長崎支店(旧香港上海銀行長崎支店記念館)　明治 37 年(1904)　平成 17 年(2005) 11 月
67 旧第一銀行京都支店(みずほ銀行京都中央支店)　明治 39 年(1906) 4 月　平成 16 年(2004) 12 月
68 旧日本銀行京都支店(京都府京都文化博物館別館)　明治 39 年(1906) 6 月　平成 21 年(2009) 2 月
69 旧古賀銀行(佐賀市歴史民俗館)　明治 39 年(1906)　平成 17 年(2005) 7 月
70 旧第一銀行神戸支店(神戸市営地下鉄みなと元町駅)　明治 41 年(1908) 11 月　平成 21 年(2009) 8 月
71 旧百十三銀行小樽支店(二代目、小樽浪漫館)　明治 41 年(1908)　平成 17 年(2005) 9 月
72 旧中越銀行本店(砺波市立砺波郷土資料館)　明治 42 年(1909)　平成 19 年(2007) 12 月
73 旧栃木共立銀行(横山郷土館店舗及び住居・文庫蔵・麻蔵)　明治 42 年(1909)/43 年(1910)　平成 18 年(2006) 12 月
74 旧第九十銀行本店本館(もりおか啄木・賢治青春館)　明治 43 年(1910) 12 月　平成 19 年(2007) 11 月
75 岩手銀行(旧盛岡銀行)旧本店本館(岩手銀行中ノ橋支店)　明治 44 年(1911) 4 月　平成 19 年(2007) 12 月
76 旧唐津銀行本店　明治 45 年(1912) 3 月　平成 17 年(2005) 10 月
77 旧秋田銀行本店本館(秋田市立赤れんが郷土館)　明治 45 年(1912) 7 月　平成 18 年(2006) 3 月
78 旧北海道銀行本店(小樽バイン/北海道中央バス本社ビル)　明治 45 年(1912) 7 月　平成 18 年(2006) 10 月
79 旧日本銀行小樽支店(日本銀行旧小樽支店金融資料館)　明治 45 年(1912) 7 月　平成 17 年(2005) 8 月
80 海運橋三井組為替座御用所(第一国立銀行)　明治 5 年(1872)　平成 19 年(2007) 1 月
80-1 一国立銀行図　昭和 10 年(1935) 12 月　清水建設㈱
80-2 第一国立銀行彩色写真　明治時代前期　当館
80-3 東京名所　海運橋五階造真図　明治 6 年(1873)　当館
81 駿河町三井組為替座御用所(為替バンク三井組)　明治 7 年(1874) 2 月　平成 19 年(2007) 1 月
81-1 為替バンク三井組図　昭和 10 年(1935) 12 月　清水建設㈱
81-2 東京名所　三ッ井ハウスノ図　する賀町　明治 10 年(1877)頃　当館
82 旧二十三銀行本店(大分銀行赤レンガ館)　大正 2 年(1913) 4 月　平成 17 年(2005) 11 月
83 旧川崎銀行佐原支店(三菱銀行佐原支店旧本館、佐原三菱館)　大正 3 年(1914) 12 月　平成 19 年(2007) 7 月
84 旧高岡共立銀行本店(富山銀行本店)　大正 4 年(1915) 12 月　平成 19 年(2007) 6 月
84-1 彩色図　高岡共立銀行　第壱号　大正時代　清水建設㈱
84-2 彩色図　高岡共立銀行　第参号　大正時代　清水建設㈱
85 旧東京銀行集会所(東京銀行協会ビル)　大正 5 年(1916) 9 月　平成 21 年(2009) 6 月
86 旧不動貯金銀行京都支店(SACRA ビル)　大正 5 年(1916)頃　平成 19 年(2007) 3 月
87 旧岡崎銀行本店(岡崎信用金庫資料館)　大正 6 年(1917) 4 月　平成 19 年(2007) 6 月
88 旧八十五銀行本店本館(埼玉りそな銀行川越支店)　大正 7 年(1918) 1 月　平成 20 年(2008) 2 月
89 旧川崎銀行佐倉支店(佐倉市立美術館)　大正 7 年(1918) 10 月　平成 19 年(2007) 9 月
90 旧第一銀行熊本支店(ピーエス熊本センター)　大正 8 年(1919) 5 月　平成 19 年(2007) 2 月
90-1 彩色図　第一銀行熊本支店　第弐号　大正時代　清水建設㈱
91 旧三井銀行下関支店(山口銀行旧本店、やまぎん史料館)　大正 9 年(1920) 5 月　平成 20 年(2008) 8 月
92 旧森田銀行本店　大正 9 年(1920) 10 月　平成 19 年(2007) 8 月
93 旧土居銀行本店(作州民芸館)　大正 9 年(1920)　平成 20 年(2008) 7 月
94 旧大間々銀行(みどり市大間々博物館〔コノドント館〕)　大正 10 年(1921) 6 月　平成 19 年(2007) 10 月
95 旧第一銀行函館支店(函館市文学館)　大正 10 年(1921) 11 月　平成 18 年(2006) 10 月
96 旧日本銀行岡山支店本館(おかやま旧日銀ホール〔ルネスホール〕)　大正 11 年(1922) 3 月　平成 20 年(2008) 6 月
97 旧第一合同銀行倉敷支店(中国銀行倉敷支店倉敷本町出張所)　大正 11 年(1922) 8 月　平成 20 年(2008) 6 月
98 旧名古屋銀行一宮支店(一宮市役所西分庁舎)　大正 13 年(1924)　平成 20 年(2008) 1 月
99 旧六十八銀行奈良支店(南都銀行本店)　大正 15 年(1926) 4 月　平成 20 年(2008) 2 月
100 旧三井銀行神戸支店　大正 5 年(1916)　平成 19 年(2007) 2 月
101 旧名古屋銀行本店(旧東海銀行貨幣資料館)　昭和元年(1926) 12 月　平成 20 年(2008) 11 月
102 旧川崎銀行千葉支店本館(千葉市美術館さや堂ホール)　昭和 2 年(1927) 3 月　平成 18 年(2006) 11 月
103 旧第四銀行住吉町支店　昭和 2 年(1927) 10 月　平成 19 年(2007) 7 月
103-1 第四銀行住吉町支店新築記念絵葉書　昭和 2 年(1927)

新潟市歴史博物館
103-2 旧第四銀行住吉町支店保存部材のうち　外壁腰壁の抜き取り　昭和2年(1927)　新潟市歴史博物館
103-3 旧第四銀行住吉町支店保存部材のうち、シャッターボックスと捲き上げ用ハンドル　昭和2年(1927)　新潟市歴史博物館
104 旧三井銀行小樽支店(石屋製菓多目的ホール)　昭和2年(1927) 12月　平成18年(2006) 8月
105 旧盛岡貯蓄銀行(盛岡信用金庫本店)　昭和2年(1927) 12月　平成19年(2007) 11月
106 旧遠州銀行本店(静岡銀行浜松営業部)　昭和3年(1928) 4月　平成19年(2007) 7月
107 三井本館(旧三井銀行本店)　昭和4年(1929) 3月　平成15年 (2003) 1月
108 旧安田銀行小樽支店(花ごころ小樽店)　昭和5年(1930) 11月　平成17年(2005) 9月
109 旧第四十七銀行小樽支店(北海道紙商事)　昭和初期　平成18年(2006) 8月
110 旧静岡三十五銀行本店(静岡銀行本店)　昭和6年(1931) 平成19年(2007) 10月
111 旧加能合同銀行本店(北國銀行武蔵ヶ辻支店)　昭和7年(1932)　平成19年(2007) 11月
112 旧産業組合中央金庫(DN タワー21)　昭和8年(1933) 10月　平成18年(2006) 11月
113 旧三井銀行名古屋支店(三井住友銀行名古屋支店)　昭和10年(1935) 1月　平成19年(2007) 7月
114 旧横浜正金銀行神戸支店(神戸市立博物館)　昭和10年(1935) 9月　平成20年(2008)5月
115 旧三井銀行大阪支店(三井住友銀行大阪中央支店)　昭和11年(1936) 6月　平成19年(2007) 1月
116 旧日本銀行広島支店　昭和11年(1936) 8月　平成20年(2008)6月
117 旧チャータード銀行神戸支店(チャータードビル)　昭和13年(1938)　平成20年(2008) 4月
118 横浜正金銀行東京支店　昭和2年(1927) 6月　平成19年(2007) 6月
118-1 横浜正金銀行東京支店新築工事関係資料(建築関係四、東京支店建築関係書類)　大正時代～昭和初期　東京大学大学院経済学研究科
119 川崎銀行本店　昭和2年(1927) 6月　平成19年(2007) 9月

イ　「天狗推参！」

会　期：平成22年9月25日(土)～10月31日(日)
主　催：神奈川県立歴史博物館、文化庁
後　援：朝日新聞横浜総局、神奈川新聞社、毎日新聞社横浜支局、読売新聞東京本社横浜支局、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、NHK 横浜放送局、tvk(テレビ神奈川)
協　力：神奈川県民俗芸能保存協会
展示資料件数：208件
入場者数：9,203名(有料4,324名、無料4,879名)
担　当：専門学芸員　古宮 雅明、主任学芸員　古川 元也、学芸員　梅沢 恵、専門員　鈴木 通大
概　要：　「天狗」は歴史のなかで時折姿をあらわす存在である。中国では天狗は流星や彗星と考えられていたが、日本ではこの世と異界を往き来する鬼神の一種として存在をあらわしていく。中世においては仏教修行者を誘惑し魔道に堕とす仏敵とされ、政治の混乱は天皇や為政者が没頭した異教のためであり、天狗の怪しい秘術の所業だとされた。また天狗を調伏、使役して超絶な法力を獲得する高僧もいた。天狗草紙などに描かれる烏(鳶とも)の姿の天狗の源流は、迦楼羅や有翼の鬼神に求められるが、荼吉尼天、飯縄権現、秋葉権現などといった修験の尊格とも共通する。また今日、誰もが思い浮かべる赤い顔に鼻が高い山伏装束の天狗のイメージは、いつの時代に定着したのか。その成り立ちを「王舞」「鼻高」「猿田彦」などの芸能面との造形的類似などから探った。
　各地の天狗を祀る霊山の信仰遺物や芸能、伝承などを紹介し、様々な資料をとおして、人々にとって天狗とはいかなる存在であったのかを探る展示。なお、本展覧会は神奈川県立歴史博物館総合研究「『異形』イメージの形成と展開 ― 歴史学・民俗学・美術史学による共同研究 ― 」(平成21～22年度)の研究成果の一部である。

○関連行事
①特別展記念講演会(無料、ただし特別展観覧券が必要)
日　時：10月11日(月・祝) 14:00～16:00

演　題：「天狗はどこから来たか」
講　師：早稲田大学 講師　杉原 たく哉 氏
応募者：141 名
受講者：64 名

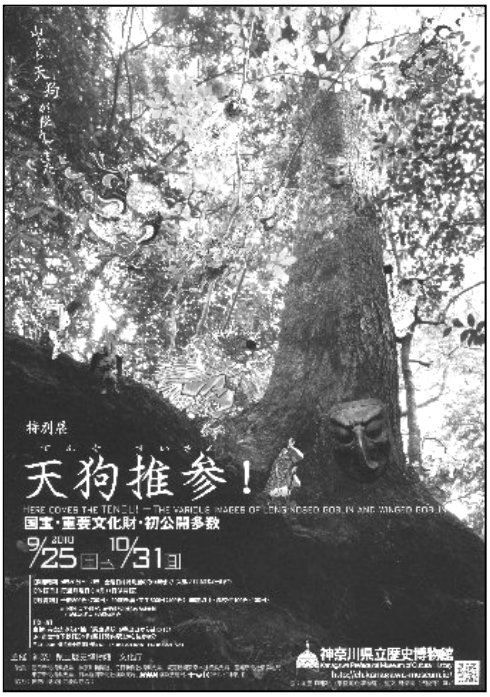
②県博講座（当館の学芸員による連続講座、無料、ただし特別展観覧券が必要）
全体テーマ：「天狗のふしぎ・テングの魅力」（全 4 回・応募者：97 名）

・第 1 回
日　時：10 月 2 日（土）14:00～16:00
演　題：「天狗イメージの変遷と江戸時代の天狗」
講　師：専門学芸員　古宮 雅明
受講者：63 名

・第 2 回
日　時：10 月 9 日（土）14:00～16:00
演　題：「仏教美術における鬼神のイメージ」
講　師：学芸員　梅沢 恵
受講者：61 名

・第 3 回
日　時：10 月 16 日（土）14:00～16:00
演　題：「鼻高天狗の誕生」
講　師：主任学芸員　古川 元也
受講者：57 名

・第 4 回
日　時：10 月 23 日（土）14:00～16:00
演　題：「天狗と民俗信仰」
講　師：専門員　鈴木 通大
受講者：58 名



③特別展記念民俗芸能鑑賞会（自由鑑賞、無料）
日　時：10 月 17 日（日）14:00～15:00
演　題：神奈川県指定無形民俗文化財「初山の獅子舞」
実　演：初山獅子舞保存会
観覧者：162 名

④展示解説

・第 1 回
日　時：10 月 3 日（日）14:00～
講　師：学芸員　梅沢 恵
参加者：52 名

・第 2 回
日　時：10 月 10 日（日）14:00～
講　師：専門学芸員　古宮 雅明
参加者：32 名

・第 3 回
日　時：10 月 17 日（日）14:00～
講　師：主任学芸員　古川 元也
参加者：45 名

・第 4 回
日　時：10 月 24 日（日）14:00～
講　師：専門員　鈴木 通大

参加者：77 名

○出品目録

（凡例） No.、指定、資料名　作・編著者、員数、技法・材質、制作年代、所蔵、展示期間

（指定記号　●＝国宝、◎＝重要文化財、○＝重要美術品、□＝県指定重要文化財）

第１章　天狗推参！　－中国から天狗がやってきた!?－

1 ● 辟邪絵（毘沙門天）　１幅　紙本著色　平安～鎌倉時代（12～13 世紀）　奈良国立博物館　9/25～10/12，10/19～～10/31

2 伽耶城毘沙門天像　玄証　１幅　紙本墨画　平安～鎌倉時代（12～13 世紀）　個人

3 □ 兜跋毘沙門天立像　１軀　木造　平安時代（12 世紀）　朝日観音堂（神奈川）

4 兜跋毘沙門天像　１幅　絹本著色　中国・元時代（14 世紀）　大念佛寺（大阪）

5 ● 金銅毘沙門天像懸仏　１面　銅造　平安～鎌倉時代（12～13 世紀）　鞍馬寺（京都）

6 ● 金銅毘沙門天像　１軀　銅造　平安時代（12 世紀）　鞍馬寺（京都）

7 ● 金銅毘沙門天像　２軀　銅造　鎌倉時代（13 世紀）　鞍馬寺（京都）

8 ◎ 諸尊図像集（天等部）　１巻　紙本墨書・著色　鎌倉時代（14 世紀）　称名寺（神奈川）

9 ◎ 覚禅鈔（毘沙門天法）　１紙　紙本墨書・著色　鎌倉時代（14 世紀）　称名寺（神奈川）

10 ◎ 別尊雑記（毘沙門天）　１巻　紙本墨書・墨画　鎌倉時代（14 世紀）　称名寺（神奈川）

11 ◎ 図像抄（天等）　１巻　紙本墨書・著色　鎌倉時代（14 世紀）　称名寺（神奈川）

12 迦楼羅立像　１軀　木造　室町時代（15 世紀）　長谷寺（神奈川）

13 迦楼羅立像　１軀　木造　明応７年（1497）修理銘　光明寺（神奈川）

14 聖僧像　１幅　絹本著色　室町時代（15 世紀）　奈良国立博物館　9/25～10/24

15 十六羅漢図　２幅　絹本著色　中国・明時代（16 世紀）　大念佛寺（大阪）

16 荒神曼荼羅　１幅　絹本著色　室町時代（15 世紀）　個人

17 日本書紀　舎人親王等撰述　１冊　版本　慶長 15 年（1610）　国立公文書館

18 史記　司馬遷　１冊　版本　中国・明・崇禎 14 年（1641）　国立公文書館

19 山海経　郭璞注釈／蒋応鎬画　１冊　版本　中国・明時代（17 世紀）　国立公文書館

20 今昔物語　１冊　写本　江戸時代　国立公文書館（東京）

21 沙石集　無住　１冊　版本　貞享３年（1686）　神奈川県立金沢文庫

22 台記　藤原頼長　１冊　写本　江戸時代（18 世紀）　国立公文書館

23 宇津保物語　１冊　写本　江戸時代初（17 世紀）　国立公文書館

24 大鏡　１冊　版本　慶長頃（16 世紀末～17 世紀初）　国立公文書館

25 源平盛衰記　１冊　版本　慶長頃（16 世紀末～17 世紀初）　国立公文書館

26 平家物語図屏風　六曲一隻　紙本著色　江戸時代（18 世紀）　大阪市立美術館

27 弘法大師修禅図　１幅　紙本彩色　江戸時代（19 世紀）　称名寺（神奈川）

28 大山寺縁起絵巻　１巻　紙本著色　江戸時代（17 世紀）　神奈川県立歴史博物館

29 二月堂縁起絵巻　１巻　紙本著色　天文 14 年（1545）　東大寺（奈良）　9/25～10/24

30 天狗の内裏　１帖　紙本墨書　室町時代（16 世紀）　慶應義塾図書館　9/28～10/10

31 天狗の内裏　１冊　紙本墨書　室町時代（16 世紀）　慶應義塾図書館　10/13～10/28

32 是害坊絵巻　１巻　紙本著色　室町時代・16 世紀　慶應義塾図書館　9/25～10/3，10/26～10/31

33 是害坊絵巻　１巻　紙本著色　寛文 11 年（1671）　慶應義塾図書館　10/5～10/19

34 てんくのたいり　２冊　版本（丹緑本）　江戸時代（17 世紀）　慶應義塾図書館　9/28～10/10，10/16～10/31

35 天狗の内裏　１冊　版本　明暦４年（1658）　西尾市岩瀬文庫（愛知）

36 慈恵大師像　神田宗庭　１幅　絹本著色　嘉永５年（1852）　金藏寺（神奈川）

37 元三大師像　１幅　紙本版画著色　江戸時代（19 世紀）　金藏寺（神奈川）

38 摩多羅神像　１幅　紙本著色　寛文６年（1666）　神武寺（神奈川）

39 ◎ 天狗草紙（延暦寺巻）　１巻　紙本著色　永仁４年（1296）頃　東京国立博物館

40 ◎ 天狗草紙（伝 三井寺巻）　１巻　紙本著色　永仁４年（1296）頃　根津美術館（東京）

41 ◎ 天狗草紙絵詞　９冊　紙本墨書　鎌倉時代（14 世紀）　称名寺（神奈川）

42 壒嚢鈔　行譽　１冊　版本　正保３年（1646）　西尾市岩瀬文庫（愛知）

43 ○ 魔佛一如絵詞　１巻　紙本著色　南北朝時代（14 世紀）　日本大学総合学術情報センター（埼玉）

44 比良山古人霊託　１巻　紙本墨書　南北朝時代(14世紀)　宮内庁書陵部　10/2～10/31

第２章　魔界転生　－外法と習合する天狗たち－

45 太平記絵巻(巻二)　１巻　紙本著色　江戸時代(17世紀)　埼玉県立歴史と民俗の博物館

46 太平記　４冊　版本　江戸時代(18世紀)　埼玉県立歴史と民俗の博物館

47 絵本和漢誉　葛飾北斎　１冊　版本　天保７年(1836)　神奈川県立歴史博物館

48 太平記大全　４冊　版本　万治２年(1659)　埼玉県立歴史と民俗の博物館

49 保元物語　１冊　版本　江戸時代(17世紀)　神奈川県立金沢文庫

50 ◎ 六字　成蓮房　１冊　紙本墨書　鎌倉時代(14世紀)　称名寺(神奈川)

51 ◎ 六字経法　１冊　紙本墨書　鎌倉時代(14世紀)　称名寺(神奈川)

52 ◎ 六字法口伝并支度巻数　１冊　紙本墨書　鎌倉時代(14世紀)　称名寺(神奈川)

53◎ 六字経(野月)　１冊　紙本墨書　鎌倉時代(14世紀)　称名寺(神奈川)

54 ◎ 六字法　１巻　紙本墨書　鎌倉時代(14世紀)　称名寺(神奈川)

55 ◎ 別尊雑記(六字天)　１巻　紙本墨書　鎌倉時代(14世紀)　称名寺(神奈川)

56 ◎ 吒枳尼法　１帖　紙本墨書　鎌倉時代(14世紀)　称名寺(神奈川)

57 鎌倉絵図　１紙　紙本木版　元禄４年(1691)　神奈川県立歴史博物館

58 荼吉尼天曼荼羅　１幅　絹本著色　室町時代(15世紀)　大阪市立美術館　9/25～10/12

59 荼吉尼天像(厨子入)　１基　絹本著色　江戸時代(19世紀)　金蔵寺(神奈川)

60 荼吉尼天像　１幅　絹本著色　江戸時代(18世紀)　金蔵院(大阪)

61 晨狐王曼荼羅　１幅　紙本淡彩　明治時代(19世紀)　個人

62 晨狐王像　１幅　絹本著色　室町時代(16世紀)　個人　10/13～10/31

63 晨狐王曼荼羅図　１幅　絹本著色　室町時代(16世紀)　個人

64 愛宕曼荼羅　１幅　紙本著色　江戸時代(18世紀)　南市町(奈良)

65 鞍馬山曼荼羅　１幅　紙本著色　江戸時代(18世紀)　鞍馬寺(京都)

66 鞍馬蓋寺漢文縁起　１巻　紙本墨書　大永４年(1524)　鞍馬寺(京都)

67 足利直義禁制　１通　紙本墨書　建武３年(1336)　鞍馬寺(京都)

68 ◎ 青蓮院門跡令旨　１通　紙本墨書　嘉元２年(1304)　鞍馬寺(京都)

69 鞍馬蓋寺仮名縁起　１巻　紙本墨書　宝暦３年(1753)　鞍馬寺(京都)

70 大岡春卜画　画本手鑑　１冊　版本　享保５年(1720)　国立国会図書館　10/5～10/31

71 飯綱権現像　１幅　紙本著色　室町時代(16世紀)　熊野神社(山梨)

72 刀八毘沙門天像　１幅　紙本著色　室町時代(16世紀)　熊野神社(山梨)

73 太郎坊権現像　１幅　絹本著色　室町時代(16世紀)　村山浅間神社(静岡)　10/5～10/31

74 飯綱頓早成就法　１帖　紙本墨書　安永元年(1772)　個人

75 飯綱権現像(厨子入)　１基　絹本著色　江戸時代(19世紀)　大綱金刀比羅神社(神奈川)

76 野狐放秘法　１冊　紙本墨書　明治７年(1874)　個人

77 上杉家印譜(模本)　１紙　紙本墨書　原本は室町時代(16世紀)　個人

78 役行者倚像并前鬼・後鬼像　３軀　木造　室町時代(16世紀)　八菅神社(神奈川)

79 役行者像　１幅　絹本著色　室町時代(16世紀)　八菅神社(神奈川)

80 役行者倚像　１軀　木造　文化14年(1817)　横浜市立桜岡小学校

第３章　天狗のかたち　－鼻高天狗の登場－

81 神武寺境内絵図　１幅　紙本著色　江戸時代(19世紀)　神武寺(神奈川)

82 ◎ 舞楽面(胡徳楽)　１面　木造　平安時代(10世紀前半)　法隆寺(奈良)

83 ◎ 舞楽面(胡徳楽)　１面　木造　平安時代(10世紀)　法隆寺(奈良)

84 ◎ 舞楽面(崑崙八仙)　２面　木造　鎌倉時代(13～14世紀)　法隆寺(奈良)

85 ◎ 舞楽面(崑崙八仙)　１面　木造　平安時代(12世紀前半)　奈良国立博物館

86 ◎ 舞楽面(胡徳楽)　２面　木造　永暦元年(1160)　手向山八幡宮(奈良)

87 ◎ 舞楽面(胡徳楽)　２面　木造　永暦元年(1160)　手向山八幡宮(奈良)

88 ◎（附）　王舞面　１面　木造彩色　室町時代(14世紀)　手向山八幡宮(奈良)

89 年中行事絵巻　１巻　紙本墨画　明治時代(20世紀)　京都市立芸術大学芸術資料館

90 天狗面　１面　木造　室町時代(16世紀)　個人

91 天狗面　１面　木造　桃山時代(16世紀)　個人

92 北野天神縁起絵巻　１巻　紙本著色　室町時代(16世紀)　神奈川県立歴史博物館

93 上瀬宮毎年祭礼御神事次第　１巻　紙本墨書　大永２年（1522）　宇波西神社(福井)
94 上瀬宮毎年祭礼御神事次第　１通　紙本墨書　大永２年（1522）　宇波西神社(福井)
95 上瀬宮御神事次第　１紙　紙本墨書　室町時代(16 世紀)　宇波西神社(福井)
96 王舞面　１面　木造　江戸時代　海士坂天満宮(福井)
97 王舞鉾　１振　木造　江戸時代　海士坂天満宮(福井)
98 王舞面　１面　木造　江戸時代　田上八幡神社(福井)
99 獅子頭　１頭　木造　江戸時代　田上八幡神社(福井)
100 吉野拾遺　１冊　写本　江戸時代　国立公文書館
101 幸神秘訣(巻之上・下)　２冊　紙本木版　明和５年（1768）　個人
102 猿田彦像　１紙　紙本木版　江戸時代(19 世紀)　個人
103 天狗面　１面　木造　明和５年(1768)　御霊神社(神奈川)
104 獅子頭　２頭　木造　明和５年(1768)　御霊神社(神奈川)
(105) 爺面　１面　木造　御霊神社(神奈川)　参考写真のみ展示
(106) 鬼面　１面　木造　御霊神社(神奈川)　参考写真のみ展示
107 異形面　１面　木造　明和５年(1768)　御霊神社(神奈川)
108 鼻長面　１面　木造　明和５年(1768)　御霊神社(神奈川)
109 烏天狗面　１面　木造　明和５年(1768)　御霊神社(神奈川)
(110) 翁面　１面　木造　御霊神社(神奈川)　参考写真のみ展示
(111) 火吹男面　１面　木造　御霊神社(神奈川)　参考写真のみ展示
112 福禄寿面　１面　木造　明和５年(1768)　御霊神社(神奈川)
113 能面(大癋見)　１面　木造　江戸時代(17 世紀)　彦根城博物館(滋賀)　9/25～10/17
114 能面(野干)　１面　木造　江戸時代(17 世紀)　彦根城博物館(滋賀)　9/25～10/12
115 能面(野干)　１面　木造　江戸時代(17 世紀)　彦根城博物館(滋賀)　10/13～10/31

第４章　江戸時代の天狗　－天狗への眼差し－
116 雲中天狗図　大原呑舟　１幅　紙本墨画淡彩　江戸時代(19 世紀)　個人
117 天狗集会図　青木蒲堂　１幅　紙本墨画淡彩　江戸時代(19 世紀)　個人
118 烹襍乃記　曲亭馬琴　２冊　版本　文化８年(1811)　西尾市岩瀬文庫(愛知)
119 本朝神社考　林羅山　１冊　版本　寛永頃(1624-43)　刈谷市中央図書館(愛知)
120 古今百物語評判　山岡元鄰　１冊　版本　貞享３年（1686）　刈谷市中央図書館(愛知)
121 寂照堂谷響集　雲敞　１冊　版本　元禄２年(1689)　刈谷市中央図書館(愛知)
122 秉燭或問珍　児島不求　１冊　版本　宝永７年(1710)　刈谷市中央図書館(愛知)
123 天狗名義考(諦忍著)　１冊　版本　宝暦４年(1754)　刈谷市中央図書館(愛知)
124 珍説女天狗(市場通笑作／鳥居清長画)　１冊　版本　安永９年(1780)　西尾市岩瀬文庫(愛知)
125 桂林漫録　桂川中良　１冊　版本　享和３年(1803)　刈谷市中央図書館(愛知)
126 松乃落葉　藤井高尚　１冊　版本　文政 12 年(1829)　刈谷市中央図書館(愛知)
127 筠庭雑録上巻　喜多村筠庭　１冊　自筆稿本　天保 14 年(1843)　西尾市岩瀬文庫(愛知)
128 善庵随筆　朝川鼎　１冊　版本　嘉永３年(1850)　刈谷市中央図書館(愛知)
129 天狗考　村上忠順　１冊　自筆稿本　江戸時代(19 世紀)　刈谷市中央図書館(愛知)
130 牛若丸天狗図絵馬　１面　板絵著色　嘉永３年(1850)　鞍馬寺(京都)
131 飯綱古武道絵巻　１巻　紙本著色　貞享２年(1685)　個人
132 秋葉権現図　月僊　１幅　紙本墨画淡彩　江戸時代(19 世紀)　個人
133 秋葉権現図　１幅　紙本木版　江戸時代(19 世紀)　個人
134 平家の驕奢悪逆を憎み鞍馬山の僧正坊を始め諸山の八天狗御曹子牛若丸の影身に添ひ源家再興を企るに随従の英雄を伏さしむる図　一勇斎国芳　大判錦絵三枚続　嘉永初（1848～49）　神奈川県立歴史博物館　9/25～10/12
135 舎那王於鞍馬山学武術之図　芳年　大判錦絵二枚続　明治 21 年(1888)　神奈川県立歴史博物館　9/25～10/12
136 経一代図会二回 鞍馬山僧正ヵ谷におゐて牛若丸異人に剣法を学ぶ　歌川広重　大判錦絵　天保８～９年(1837～38)　神奈川県立歴史博物館　10/13～10/31
137 平清盛怪異を見る図　歌川広重　大判錦絵三枚続　弘化１～２年(1844～45)　神奈川県立歴史博物館　10/13～10/31
138 百人一首之内　一勇斎国芳　崇徳院　大判錦絵　天保期(1830～44)中頃　神奈川県立歴史博物館
139 讃岐院眷属をして為朝をすくふ図　一勇斎国芳　大判錦絵三枚続　嘉永２～３年(1849～50)　神奈川県立歴史博物館　9/25～10/12
140 讃岐院の冥加により高間ふうふの一念鮫に乗り移りて舜天丸紀平次をすくふ　一勇斎国芳　大判錦絵三枚続　天保 10 年(1839)頃　神奈川県立歴史博物館　10/13～10/31

141 海を望む山中に鶏と烏天狗の蹴合い　勝川春章　大判錦絵　寛政期(1789～1801)　神奈川県立歴史博物館　9/25～10/12
142 御誂座敷幟　金時稚遊　香蝶楼国貞　大判錦絵　天保期(1830～44)末　神奈川県立歴史博物館　10/13～10/31
143 本朝高名鑑　坂田怪童丸　一勇斎国芳　大判錦絵　安政2年(1855)　神奈川県立歴史博物館　10/13～10/31
144 足柄山得金時図　五渡亭国貞　大判錦絵三枚続　文政期(1818～30)中頃　神奈川県立歴史博物館　9/25～10/12
145 木曾街道六十九次之内　望月　怪童丸　一勇斎国芳　大判錦絵　嘉永5年(1852)　神奈川県立歴史博物館　10/13～10/31
146 金太郎尽　相撲之図　一勇斎国芳　大判錦絵　天保期(1830～44)　神奈川県立歴史博物館　9/25～10/12
147 金太郎尽　三月　桜　一英斎芳艶　大判錦絵　嘉永頃(1848～54)　神奈川県立歴史博物館　10/13～10/31
148 金時おさな遊び　蘭斎　大短冊墨摺　文化年間(1804～18)　神奈川県立歴史博物館　9/25～10/12
149 新板金太郎尽　金時六図　豊丸　大短冊錦絵　文化年間(1804～18)初期　神奈川県立歴史博物館　10/13～10/31
150 狂戯天狗之日待　歌川広重　中判錦絵　天保6～10年(1835～39)　神奈川県立歴史博物館　9/25～10/12
151 保永堂版東海道五拾三次之内、沼津 黄昏図　歌川広重　大判錦絵　天保4年(1833)頃　神奈川県立歴史博物館　10/13～10/31
152 東海道名所之内　秋葉山周麿(河鍋暁斎)　大判錦絵　文久3年(1863)　江戸東京博物館

第5章　天狗信仰の広がり　－天狗の民俗的世界－
153-1 高尾山薬王院明細書付　一通　紙本墨書　寛政12年(1800)　高尾山薬王院(東京)
153-2 新宿太宗寺境内において開帳願一件　一冊　紙本墨書　文政3年(1820)　高尾山薬王院(東京)
154 高尾山飯縄権現像掛軸　1幅　紙本木版　明治42年(1909)　八王子市郷土資料館(東京)
155 飯縄権現像および大天狗小天狗像　3軀　木造　昭和58年(1983)　高尾山薬王院(東京)
156 飯縄大権現三十六童子像　3幅　絹本著色　江戸時代(19世紀)　高尾山薬王院(東京)
157 御札(高尾山)　1枚　紙本木版　明治時代(19世紀)　武蔵野美術大学美術館・図書館(東京)
158 高尾山の神札　1枚　紙本木版　明治時代(19世紀)　神奈川県立歴史博物館
159 高尾山魔除天狗面　1面　木造　明治時代(19世紀)　八王子市郷土資料館(東京)
160 高尾山魔除天狗団扇　1本　木・紙　明治時代(19世紀)　八王子市郷土資料館(東京)
161 高尾山開運団扇　1本　竹・紙　明治時代(19世紀)　武蔵野美術大学美術館・図書館(東京)
162 下駄(一本歯)　1足　木製　昭和時代(20世紀)　高尾山薬王院(東京)
163 天狗囃子図　1面　紙本著色　江戸時代(19世紀)　高尾山薬王院(東京)
164 大杉大明神縁起　1帖　紙本墨書　享和3年(1803)　大杉神社(茨城)
165 寺院所有物明細帳　1冊　紙本墨書　明治37年(1904)　安穏寺(茨城)
166 海存上人坐像および大杉神立像　2軀　木造　江戸時代(19世紀)　安穏寺(茨城)
167 海存上人立像　1軀　木造　江戸時代(19世紀)　安穏寺(茨城)
168 海存像　1幅　紙本木版　江戸時代(19世紀)　大杉神社(茨城)
169 大杉神八天狗図像　1幅　紙本木版　江戸時代(19世紀)　大杉神社(茨城)
170 大杉神立像　1軀　木造　江戸時代(19世紀)　大杉神社(茨城)
171 大杉神像　1幅　紙本木版　江戸時代(19世紀)　大杉神社(茨城)
172 大杉神像版木　1枚　木製　江戸時代(19世紀)　大杉神社(茨城)
173 天狗面(厨子入り烏天狗)　1面　木造　江戸時代(19世紀)　大杉神社(茨城)
174 天狗面(烏天狗)　1面　木造　江戸時代(19世紀)　大杉神社(茨城)
175 笈と天狗面　1面　木造　江戸時代(19世紀)　大杉神社(茨城)
176 両天狗面絵馬　1面　木造　文化13年(1816)　大杉神社(茨城)
177 両天狗面絵馬　1面　木造　明治13年(1880)　大杉神社(茨城)
178 難船救済図絵馬　1面　板絵著色　文久元年(1861)　大杉神社(茨城)
179 大杉神社境内図絵馬　勝川春慶　1面　板絵著色　慶応2年(1866)　大杉神社(茨城)
180 天狗爪縁起　1面　紙本墨書　明治43年(1910)　弘聖寺(神奈川)
181 天狗の爪　2点　化石　不詳　弘聖寺(神奈川)
182 天狗の爪　1点　化石　不詳　清浄光寺(神奈川)
183 テングジャクシ　2点　キノコ　不詳　神奈川県立歴史博物館
184 視聴草　宮崎成身　1冊　自筆本　江戸時代後期(19世紀)　国立公文書館(東京)
185 雲根志　木内重暁　1冊　版本　安永2年(1773)　刈谷市中央図書館(愛知)
186 相州小田原道了宮明治四年両国回向院ニテ開帳参詣乃図　三代 歌川広重　大判錦絵三枚続　明治4年(1871)頃　神奈川県立歴史博物館

187 御札(蛸薬師)　1枚　紙本木版　昭和時代(20世紀)　個人
188 奥山半僧房像　1幅　紙本木版　明治3年(1870)　個人
189 御札(鎌倉半僧坊)　1枚　紙本木版　明治時代(19世紀)　武蔵野美術大学美術館・図書館(東京)
190 御札(大雄山)　1幅　紙本木版　江戸時代(19世紀)　神奈川県立公文書館
191 大雄山の講札　1枚　木製　江戸時代(19世紀)　神奈川県立歴史博物館
192 御札(大雄山)　1枚　紙本木版　昭和時代(20世紀)　個人
193 御札(城山飯縄権現)　1幅　紙本木版　江戸時代(19世紀)　神奈川県立公文書館
194 御札(岩船山)　1幅　紙本木版　江戸時代(19世紀)　個人
195 御札(秋葉山)　1枚　紙本木版　昭和時代(20世紀)　個人
196 御札(豊川稲荷)　1枚　紙本木版　昭和時代(20世紀)　個人
197 御札(穴守稲荷)　1枚　紙本木版　昭和時代(20世紀)　個人
198 天狗面　1面　木造　江戸時代(19世紀)　個人
199 迦葉山天狗面(烏帽子付き)　1面　木造　昭和時代(20世紀)　武蔵野美術大学美術館・図書館(東京)
200 迦葉山天狗面　1面　紙製　昭和時代(20世紀)　武蔵野美術大学美術館・図書館(東京)
201 迦葉山開運招福団扇　1本　木･紙　昭和時代(20世紀)　武蔵野美術大学美術館・図書館(東京)
202 小絵馬(古峯神社)　1面　木製　昭和時代(20世紀)　武蔵野美術大学美術館・図書館(東京)
203 小絵馬(大杉神社)　1面　木製　江戸時代(20世紀)　武蔵野美術大学美術館・図書館(東京)
204 天狗論　1冊　活字本　明治36年(1903)　成城大学民俗学研究所(東京)
205 遠野物語　2冊　活字本　明治42年(1909)　成城大学民俗学研究所(東京)
206 山の人生　1冊　活字本　大正15年(1926)　成城大学民俗学研究所(東京)
207 妖怪談義　1冊　活字本　昭和31年(1956)　成城大学民俗学研究所(東京)
208 相州内郷村話　1冊　活字本　大正13年(1924)　個人

ウ　「浮世絵☆忠臣蔵　ー描かれたヒーローたち!?ー」

○会　期：平成22年11月20日(土)～12月19日(日)
○主　催：神奈川県立歴史博物館
○後　援：朝日新聞横浜総局、神奈川新聞社、毎日新聞社横浜支局、読売新聞東京本社横浜支局、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、NHK横浜放送局、tvk(テレビ神奈川)
○展示資料件数：153件
○入場者数：6,613名(有料2,998名、無料3,615名)
○担　当：主任学芸員　桑山 童奈
○概　要：　主君の仇を討つ四十七士の物語は、史実とその後に成立した物語の双方が、300年の時を越えて愛され続けてきた。「忠臣蔵」の物語は、さまざまに趣を変えて浮世絵版画の世界に取り入れられ、数多くの作品が出版された。この展覧会では、物語そのものや、上演された歌舞伎芝居を題材とした浮世絵だけではなく、美人画に仕立てたり、パロディー化することで、物語の魅力をさらに増す「忠臣蔵」の浮世絵の面白さを、当館丹波コレクション所蔵の作品を中心に紹介した。また、史実の他、物語中に登場した「忠臣蔵」にゆかりのあるかながわの地に関する資料も紹介した。

○関連行事
①県博セミナー(生涯学習課主管の県立機関活用講座、連続講座、有料5,000円)
全体テーマ：「浮世絵の魅力　徹底解剖!!」(全5回・応募者：63名)
・第1回
日　時：11月20日(土) 14:00～16:00
演　題：「忠臣蔵の浮世絵」
講　師：大和文華館 館長　浅野 秀剛 氏
受講者：50名

・第２回
日　時：11 月 27 日（土）14:00～16:00
演　題：「江戸の華ー美人画様式の展開と美」
講　師：千葉市美術館 学芸課長代理　田辺 昌子 氏
受講者：49 名
・第３回
日　時：12 月 4 日（土）14:00～16:00
演　題：「武者絵から広がる楽しみ」
講　師：浮世絵研究家・元 平木浮世絵美術館 研究員　岩切 友里子 氏
受講者：43 名
・第４回
日　時：12 月 11 日（土）14:00～16:00
演　題：「名所絵に見る忠臣蔵」
講　師：当館 主任学芸員　桑山 童奈
受講者：45 名
・第５回
日　時：12 月 18 日（土）14:00～16:00
演　題：「忠臣蔵の名場面と役者絵」
講　師：学習院大学 非常勤講師・国際浮世絵学会 常任理事　藤澤 茜 氏
受講者：45 名

②特別展記念落語会（無料、ただし特別展観覧券が必要）
日　時：12 月 14 日（火）14:00～15:30
演　題：「落語〈中村仲蔵〉を聴いて、浮世絵を見る」
出　演：落語家　桂 歌助 氏
応募者：421 名
参加者：79 名

③展示解説
・第１回
日　時：11 月 21 日（日）13:30～
講　師：主任学芸員　桑山 童奈
参加者：55 名
・第２回
日　時：12 月 12 日（日）13:30～
講　師：主任学芸員　桑山 童奈
参加者：52 名

○出品目録
（凡例）No.、作品名、作者名、制作年代、版元、判型、所蔵
（参考資料は、資料名、製作者、時代、形態・技法、素材、所蔵）
＊所蔵の記載がないものは当館蔵、他の所蔵先の略表記は次のとおり。
歴民博＝国立歴史民俗博物館、江戸博＝東京都江戸東京博物館、版画美＝町田市立国際版画美術館、
川崎市＝川崎市市民ミュージアム

---

1 忠臣蔵　大序　初代 歌川広重　天保（1830～44）中期　和泉屋市兵衛　大判錦絵横
2 忠臣蔵　二段目　初代 歌川広重　天保（1830～44）中期　和泉屋市兵衛　大判錦絵横
3 忠臣蔵　三段目　初代 歌川広重　天保（1830～44）中期　和泉屋市兵衛　大判錦絵横
4 忠臣蔵　四段目　初代 歌川広重　天保（1830～44）中期　和泉屋市兵衛　大判錦絵横
5 忠臣蔵　五段目　初代 歌川広重　天保（1830～44）中期　和泉屋市兵衛　大判錦絵横

6 忠臣蔵　六段目　初代 歌川広重　天保(1830～44)中期　和泉屋市兵衛　大判錦絵横
7 忠臣蔵　七段目　初代 歌川広重　天保(1830～44)中期　和泉屋市兵衛　大判錦絵横
8 忠臣蔵　八段目　初代 歌川広重　天保(1830～44)中期　和泉屋市兵衛　大判錦絵横
9 忠臣蔵　九段目　初代 歌川広重　天保(1830～44)中期　和泉屋市兵衛　大判錦絵横
10 忠臣蔵　十段目　初代 歌川広重　天保(1830～44)中期　和泉屋市兵衛　大判錦絵横
11 忠臣蔵　十一段目　一夜打押寄　初代 歌川広重　天保(1830～44)中期　和泉屋市兵衛　大判錦絵横
12 忠臣蔵夜打二　乱入　初代 歌川広重　天保(1830～44)中期　和泉屋市兵衛　大判錦絵横
13 忠臣蔵夜打三　本望　初代 歌川広重　天保(1830～44)中期　和泉屋市兵衛　大判錦絵横
14 忠臣蔵夜打四　引取　初代 歌川広重　天保(1830～44)中期　和泉屋市兵衛　大判錦絵横
15 忠臣蔵夜打四　両国引取　初代 歌川広重　天保(1830～44)中期　和泉屋市兵衛　大判錦絵横
16 忠臣蔵夜打六　焼香場　初代 歌川広重　天保(1830～44)中期　和泉屋市兵衛　大判錦絵横
17 忠孝義臣伝　三代 歌川豊国　弘化元年(1844)頃　古賀屋勝五郎　中判錦絵三枚続
18 忠雄義臣録　第壱　三代 歌川豊国　弘化 3～嘉永元年(1846～48)　山本屋平吉(栄久堂)　大判錦絵横
19 忠臣蔵　大序　二代 歌川国清　安政 4 年(1857)　丸屋甚八　大判錦絵横
20 忠雄義臣録　第三　三代 歌川豊国　弘化 3～嘉永元年(1846～48)　山本屋平吉(栄久堂)　大判錦絵横
21 忠臣蔵　三段目　二代 歌川広重　安政 2 年(1855)　藤岡屋慶次郎　大判錦絵横
22 忠臣蔵　五段目　二代 歌川国清　安政 4 年(1857)　丸屋甚八　大判錦絵横
23 忠雄義臣録　第七　三代 歌川豊国　弘化 3～嘉永元年(1846～48)　山本屋平吉(栄久堂)　大判錦絵横
24 仮名手本忠臣蔵　八段目　五雲亭貞秀　天保年間(1830～44)　川口屋宇兵衛(福川堂)　大判錦絵横
25 仮名手本忠臣蔵　八段目　初代 歌川国輝　嘉永 4～5 年(1851～52)　和泉屋市兵衛　大判錦絵横
26 忠臣蔵　八段目　二代 歌川広重　安政 2 年(1855)　藤岡屋慶次郎　大判錦絵横
27 仮名手本忠臣蔵　九段目　葛飾北斎　文化 3 年(1806)以降　鶴屋金助　大判錦絵横
28 浮絵忠臣蔵　九段目之図　初代 歌川豊国　寛政(1789～1801)後期　和泉屋市兵衛　大判錦絵横
29 浮絵忠臣蔵　九段目之図　初代 歌川豊国　寛政(1789～1801)後期　榎本吉兵衛　間版錦絵
30 仮名手本忠臣蔵　九段目　三代 歌川豊国　天保(1830～44)後期　江崎屋吉兵衛　大判錦絵三枚続
31 忠雄義臣録　第九　三代 歌川豊国　弘化 3～嘉永元年(1846～48)　山本屋平吉(栄久堂)　大判錦絵横
32 仮名手本忠臣蔵　九段目　五雲亭貞秀　天保年間(1830～44)　川口屋宇兵衛(福川堂)　大判錦絵横
33 忠臣蔵　十段目　初代 歌川広重　天保 14～弘化 4 年(1843～47)　有田屋長右衛門　大判錦絵横
34 忠雄義臣録　第十　三代 歌川豊国　弘化 3～嘉永元年(1846～48)　山本屋平吉(栄久堂)　大判錦絵横
35 忠臣蔵　十段目　二代 歌川広重　安政 2 年(1855)　藤岡屋慶次郎　大判錦絵横
36 仮名手本忠臣蔵　十段目　落合芳幾　明治元年(1868)　広岡屋幸助　大判錦絵横
37 浮絵忠臣蔵　十一段目　二代 勝川春好　文化(1804～18)～文政(1818～30)初期　若狭屋与市　大判錦絵横
38 仮名手本忠臣蔵　十一段目　前　三代 歌川豊国　天保年間(1830～44)　万屋吉兵衛　大判錦絵横
39 忠雄義臣録　第十一　三代 歌川豊国　弘化 3～嘉永元年(1846～48)　山本屋平吉(栄久堂)　大判錦絵横
40 忠雄義臣録　第十二　三代 歌川豊国　弘化 3～嘉永元年(1846～48)　山本屋平吉(栄久堂)　大判錦絵横
41 忠雄義臣伝　巻之十一　三代 歌川豊国　弘化 4～嘉永 3 年(1847～50)　山田屋庄次郎　間判錦絵
42 忠雄義臣伝　巻之十二　三代 歌川豊国　弘化 4～嘉永 3 年(1847～50)　山田屋庄次郎　間判錦絵
43 新版浮絵忠臣蔵十一段目夜討之図　渓斎英泉　天保年間(1830～44)　川口屋宇兵衛　大判錦絵横
44 仮名手本忠臣蔵　十一段目　五雲亭貞秀　天保年間(1830～44)　川口屋宇兵衛(福川堂)　大判錦絵横
45 仮名手本忠臣蔵　十二段目　歌川国芳　安政元年(1854)　佐野屋喜兵衛　大判錦絵横
46 忠臣蔵　十一段目　二代 歌川広重　安政 2 年(1855)　藤岡屋慶次郎　大判錦絵横
47 忠臣蔵　大尾　二代 歌川広重　安政 2 年(1855)　藤岡屋慶次郎　大判錦絵横
48 表忠臣蔵　歌川国芳　安政元年(1854)　山本屋平吉　大判錦絵三枚続
49 誠忠義士肖像　大星由良之助良雄　歌川国芳　嘉永 5 年(1852)　住吉屋政五郎　大判錦絵　歴民博
50 誠忠義士肖像　富之森祐右エ門正固　歌川国芳　嘉永 5 年(1852)　住吉屋政五郎　大判錦絵　歴民博
51 忠臣義士高名競　三十八　徳田唯右ェ門行高　歌川国芳　弘化 4～嘉永 3 年(1847～50)　小林泰治郎(文正堂)　大判錦絵
52 誠忠義臣名々鏡　礒合重郎右衛門正久　歌川国芳　安政 4 年(1857)　堀越　大判錦絵
53 誠忠義臣名々鏡　芦尾田又之烝光時　歌川国芳　安政 4 年(1857)　堀越　大判錦絵
54 誠忠義臣名々鏡　吉田河右衛門兼貞　歌川国芳　安政 4 年(1857)　堀越　大判錦絵
55 義士英名伝之内　早野勘平　四代 歌川豊国　文久 3 年

(1863)　相卜　大判錦絵
56 教導立志基　大石義雄　水野年方　明治 23 年(1890)　松木平吉　大判錦絵　江戸博
57 忠臣蔵夜討大手ノ義士廿四人搦手ノ義士廿三人弐国橋会合図　三代 歌川豊国　天保(1830～44)　森屋治兵衛　大判錦絵三枚続
58 忠臣蔵焼香ノ図　三代 歌川豊国　天保年間(1830～44)　川口屋宇兵衛　大判錦絵三枚続
59 義士仇討之図　初代 歌川広重　天保年間(1830～44)　有田屋清右衛門　大判錦絵三枚続
60 忠臣蔵義士本望の図　五雲亭貞秀　天保年間(1830～44)　山口屋藤兵衛　大判錦絵三枚続
61 義士本望遂酒店会賀引取図　五雲亭貞秀　天保年間(1830～44)　江崎屋　大判錦絵三枚続
62 (義士双国橋引上げ)　五雲亭貞秀　弘化4～嘉永3年(1847～50)　山口屋藤兵衛　大判錦絵三枚続
63 義士本望を達して仙国寺へ引取固の図　歌川国芳　弘化4～嘉永3年(1847～50)　万屋吉兵衛　大判錦絵三枚続
64 忠臣蔵十一段目夜討之義士追手組四十七人勢揃ひの図　歌川芳虎　弘化4～嘉永3年(1847～50)　版元印なし　大判錦絵三枚続
65 義士四十八之像　歌川芳虎　嘉永 2～5 年(1849～52)　山城屋甚兵衛　大判錦絵
66 誠忠義士討入姓名　歌川芳員　安政 6 年(1859)　加賀屋吉右衛門・吉兵衛　大判錦絵三枚続
67『東海道名所図会』　秋里籬島　寛政9年(1797)　版本
68『江戸名所図会』　斎藤幸雄・幸孝・幸成(月岑)　天保5・7年(1834・36)　版本
69『江の島まうで浜のさざ波』　平亭銀鶏　天保 4 年(1833)あるいは10年　版本　神奈川県立金沢文庫
70 江戸の華名勝会　三番組　汐　三代 歌川豊国・五雲亭貞秀・鳥居清国　元治元年(1864)　加藤屋清兵衛　大判錦絵
71 東都芝万松山泉岳禅寺略図　江戸時代末期　泉岳寺　墨摺　個人
72 播州赤穂城下台雲山華岳禅寺全図　長安周得　江戸時代末期　墨摺　慶應義塾図書館
73 忠臣蔵　十一段続　七たん目　勝川春章　天明年間(1781～89)　不明　中判錦絵
74 忠臣蔵　弐たんめ　勝川春好　安永年間(1772～81)　不明　細判錦絵
75 江都大芝居櫓下図　続内序　勝川春英　天明年間(1781～89)後期　伊賀屋　大判錦絵
76 忠臣蔵　六だんめ　栄松斎長喜　享和元年(1801)頃　不明　細判錦絵
77 初代沢村源之助の判官　忠臣蔵　四段目之図　初代 歌川豊国　文化8年(1811)　山口屋藤兵衛　大判錦絵
78 七代目市川団十郎の十太郎と三代目市川門之助のお里ゑ　初代 歌川豊国　文政 3 年(1820)　山本屋平吉　大判錦絵二枚続
79 二代目中村芝翫の矢間重太郎と五代目瀬川菊之烝の女房おりへ　歌川国安　文政 11 年(1828)　伊場屋仙三郎　団扇絵
80 二代目中村芝翫の矢間重太郎と岩井杜若女房おりへ　歌川国芳　天保4年(1833)　伊場屋仙三郎　団扇絵
81 二代目関三十郎のゑんや判官　三代 歌川豊国　天保元年(1830)　伊場屋仙三郎　団扇絵
82 七ツ伊呂波　ゆ　東都賦紫尽　歌川国芳　嘉永 5 年(1852)　海老屋林之助　大判錦絵
83 忠臣蔵八景　九段目の暮雪　三代 歌川豊国　慶応元年(1865)　具足屋嘉兵衛　大判錦絵
84 忠臣蔵拾二段続　五綜亭広貞　嘉永年間(1848～54)　金花堂小西　大判錦絵四枚続のうち三枚
85 梅幸百種之内　赤垣源蔵　豊原国周　明治 26 年(1883)　福田熊次郎　大判錦絵　版画美
86 市川団十郎演芸百番　斧定九郎　豊原国周　明治 31 年(1898)　福田熊次郎　大判錦絵　版画美
87 仮手本忠臣蔵　四段目　歌川国芳　天保 6 年(1835)　江戸屋松五郎　大判錦絵横
88 仮手本忠臣蔵　八段目　歌川国芳　天保 6 年(1835)　江戸屋松五郎　大判錦絵横
89 仮手本忠臣蔵　九段目　歌川国芳　天保 6 年(1835)　江戸屋松五郎　大判錦絵横
90 忠臣蔵　九段目　三代 歌川豊国　安政元年(1854)　蔦屋吉蔵　大判錦絵横
91 忠臣蔵　十段目　三代 歌川豊国　安政元年(1854)　蔦屋吉蔵　大判錦絵横
92 忠臣蔵　十一段目　三代 歌川豊国　安政元年(1854)　蔦屋吉蔵　大判錦絵横
93 忠臣蔵　十二段大尾　三代 歌川豊国　安政元年(1854)　蔦屋吉蔵　大判錦絵横
94 忠臣蔵の内　五段目・六段目　歌川貞房　天保年間(1830～44)　上村与兵衛　大判錦絵
95 忠臣蔵の内　九段目・十段目　歌川貞房　天保年間(1830～44)　上村与兵衛　大判錦絵
96 とうせい女忠臣蔵　五段目　鉄砲の段　勝川春山　寛政(1789～1801)前期　山田屋三四郎　中判錦絵
97 高名美人見たて忠臣蔵　初だん　初代 喜多川歌麿　寛政6～7年(1794～95)頃　近江屋権九郎　大判錦絵
98 忠臣蔵　二段目　初代 喜多川歌麿　享和元～2年(1801～02)頃　西村屋与八(永寿堂)　大判錦絵
99 忠臣蔵稚遊　二段目　初代 喜多川歌麿　享和年間(1801～04)　鶴屋金助　大判錦絵
100 見立忠臣蔵七段目　鳥文斎栄之　寛政4・5年(1792・93)頃　岩戸屋喜三郎　大判錦絵　千葉市美術館
101 (由良之助の釣狐遊び)　鳥文斎栄之　寛政8・9年(1796・97)頃　西村屋与八(永寿堂)　大判錦絵三枚続のうち中央
102 御座敷人形　忠臣蔵　五段目　歌川豊広　享和年間(1801～04)　山田屋三四郎　中判錦絵
103 絵兄弟忠臣蔵　七段目　三代 歌川豊国　天保年間(1830～44)　佐野屋喜兵衛　大判錦絵　江戸博

104 絵兄弟忠臣蔵　九段目　三代 歌川豊国　天保年間(1830～44)　佐野屋喜兵衛　大判錦絵
105 絵兄弟忠臣蔵　十一段目　三代 歌川豊国　天保年間(1830～44)　佐野屋喜兵衛　大判錦絵
106 当盛忠臣蔵　十段目　中万字屋内八ツ橋　歌川国安　文政(1818～30)後期～天保(1830～44)前期　蔦屋吉蔵　大判錦絵
107 見立てうちん蔵　七段目　歌川国芳　弘化 3～嘉永元年(1846～48)　山本屋平吉　大判錦絵
108 見立てうちん蔵　十段目　歌川国芳　弘化 3～嘉永元年(1846～48)　山本屋平吉　大判錦絵
109 忠臣蔵　初代 歌川広重　天保年間(1830～44)　佐野屋喜兵衛　四ツ切判錦絵十二枚
110 見立滑稽忠臣蔵　初代 歌川広重　天保(1830～44)前期　西村屋与八(永寿堂)　山本屋平吉　大判錦絵　五枚続
111 古今浄瑠理尽　忠臣講釈雪降の段　初代 歌川広重　弘化 4～嘉永元年(1847～48)　佐野屋喜兵衛　大判錦絵
112 交張浄留理鑑　忠臣蔵他　初代 歌川広重　安政元年(1854)　三田屋喜八　大判錦絵
113 小倉擬百人一首　九十二　二条院讃岐　三代 歌川豊国　弘化 4～嘉永 3 年(1847～50)　伊場屋仙三郎　大判錦絵
114 七伊呂波拾遺　万の場　大星親子　三代 歌川豊国　安政 3 年(1856)　藤岡屋慶次郎　大判錦絵　版画美
115 道外忠臣蔵　初段め　歌川国芳　天保 13 年(1842)　山本屋平吉　団扇絵
116 源氏雲浮世絵画合　夕顔　歌川国芳　天保 14～弘化 4 年(1843～47)　伊勢屋市兵衛　大判錦絵
117 風流人形之図　歌川国芳　安政 3 年(1856)　三河屋利兵衛　大判錦絵二枚続
118『東海道写真五十三次勝景』　五雲亭貞秀　明治 2 年(1869)　丸屋徳造　版本
119 都幾百姿　垣間見の月　かほよ　月岡芳年　明治 19 年(1886)　秋山武右衛門　大判錦絵
120 つき乃百姿　雪後の暁月　小林平八郎　月岡芳年　明治 22 年(1889)　秋山武右衛門　大判錦絵
121 忠臣蔵敵討の段　中・下　江戸時代末期　和泉屋市兵衛　大判錦絵三枚組のうち二枚　川崎市
122 忠臣蔵四段目城渡シ組上三枚続　明治 29 年(1896)　牧金之助　大判錦絵三枚組　歴民博
123 義士両国橋引上組上五枚つゝき　大正 5 年(1916)　牧金之助　大判錦絵五枚組　歴民博
124 四十七士像(川崎市重要歴史記念物)　延享元年(1744)　紙本著色　称名寺(川崎)
125 預置候金銀請払帳　元禄 15 年(1702)　冊子　箱根神社
126 仮名手本忠臣蔵　大序　三代 歌川豊国　天保(1830～44)後期　鶴屋喜右衛門　大判錦絵三枚続
127 忠臣蔵　大序　二代 歌川広重　安政 2 年(1855)　藤岡屋慶次郎　大判錦絵横
128 東海道五十三対　戸塚　初代 歌川広重　天保 14～弘化 4 年(1843～47)　伊場屋仙三郎　大判錦絵
129 東海道五十三次の内　程ヶ谷駅　はしため　おかる　三代 歌川豊国　嘉永 5 年(1852)　伊勢屋兼吉　大判錦絵
130 東海道五十三次の内　戸塚駅　早野勘平　三代 歌川豊国　嘉永 5 年(1852)　辻岡屋文助　大判錦絵
131 清書七伊路波　をちうど　腰元おかる　早野勘平　三代 歌川豊国　安政3年(1856)　若狭屋与市　大判錦絵　版画美
132 東海道五拾三駅　名画之書分　程ヶ谷　戸塚　三代 歌川豊国・河鍋暁斎　元治元年(1864)　太田屋多吉　大判錦絵
133 五十三次内五　程ヶ谷　豊原国周　明治 4 年(1871)　辻岡屋文助　四つ切判錦絵　横浜市中央図書館
134 五十三次内六　戸塚　豊原国周　明治 4 年(1871)　辻岡屋文助　四つ切判錦絵　横浜市中央図書館
135 東海道一ト眼千両　戸塚　早野勘平　豊原国周・二代 歌川広重　慶応3年(1867)　海老屋林之助　大判錦絵　神奈川県金沢文庫
136 書画五拾三駅　相模　戸塚　落人之追手　歌川芳虎　明治 5 年(1872)　沢村屋清吉　大判錦絵
137 浮絵忠臣蔵　八段目　勝川春扇　文化年間(1804～18)～文政年間(1818～30)初期　若狭屋与市　大判錦絵横
138 仮名手本忠臣蔵　八段目　三代 歌川豊国　天保年間(1830～44)　森屋治兵衛　大判錦絵三枚続
139 東海道一ト眼千両　箱根　高師直　豊原国周・二代 歌川広重　慶応 3 年(1867)　伊勢屋兼吉　大判錦絵

参考 大君の都　Sir Rutherford Alcock　ラザフォード・オールコック　文久 2 年(1862)　刊本　紙
参考 泉岳寺　不詳　明治(1868～1912)中期　アルビューメンプリント　紙
参考【写真】泉岳寺　平成 22 年(2010)11 月撮影　パネル　紙
参考 【写真】本所松坂町公園(吉良上野介邸跡)　平成 22 年(2010)11 月撮影　パネル　紙
参考 【写真】ザ カブキ　討入り場面　演出・振付：モーリス・ベジャール　昭和 61 年(1986)年 4 月初演　パネル　紙　提供：チャイコフスキー記念東京バレエ団
参考 【写真】ザ カブキ　顔世　演出・振付：モーリス・ベジャール　昭和 61 年(1986)年 4 月初演　パネル　紙　提供：チャイコフスキー記念東京バレエ団
参考 上絵金彩忠臣蔵図ティーセット　横浜　嶋田　明治年間(1868～1912)　皿・カップ・ソーサー・シュガーポット・クリーマー・ポット　磁器　個人
参考 【立版古】義士両国橋引上組上五枚つゝき　牧金之助　大正 5 年(1916)　大判錦絵五枚組　紙　歴民博
参考 【立版古】忠臣蔵大序ヨリ十二段マデ組上九枚続　牧金之助　明治 25 年(1892)　大判錦絵九枚組　紙　赤穂市立歴史博物館
参考 【立版古】忠臣蔵敵討の段　中・下　和泉屋市兵衛　江戸時代末期　大判錦絵三枚組のうち二枚　紙　川崎市
参考 【立版古】忠臣蔵四段目城渡シ組上三枚続　牧金之助　明治 29 年(1896)　大判錦絵三枚組　紙　歴民博

(3) コレクション展

１階フリーゾーンにあるコレクション展示室において、常設展示では紹介しきれない館のコレクションの一部を、2～3ヶ月ごとに展示している。観覧料無料。

ア 「奇妙奇天烈!? 明治の版画あれこれ」

○会 期：【前期】平成22年6月5日(土)～6月27日(日)
【後期】平成22年6月30日(水)～7月19日(月・祝)

○担 当：学芸員 角田 拓朗

○概 要： 江戸時代の浮世絵版画は世界的に有名だが、明治以後の日本でも版画は盛んだった。石版画や木口木版画、銅版画、さらに明治後半になると網版・写真版など、西洋から新しい技術が続々と導入され、また、西洋絵画技術がもたらされたこともあり、近代の版画の新しい世界が開拓されていった。

平成21年度、個人所蔵家よりまとめて近代の版画コレクションが寄贈された。それを加えることによって、当館の明治以後の近代版画コレクションは300点を超えた。このことを記念して、その中の中核を形成する明治期の版画、特に石版画作品を、前後期に分けて展示した。

展示では、明治時代の新奇な風俗などを鮮明に描いた石版画と、生誕150周年を迎えたフランス人画家ジョルジュ・ビゴーの版画、そして、現在に通じる印刷技術の一端に迫る多種多様な版表現の版画を展示した。

○展示解説 各回13:30～(担当：学芸員 角田 拓朗)
①6月19日(土) 参加者：22名、②7月10日(土) 参加者：15名

○出品目録

(凡例) No.、作品名、製作者ほか、制作年代、備考(〈 〉は推定、□は欠字)
参考出品はすべて個人蔵、その他は神奈川県立歴史博物館所蔵

1-1 詞 川上冬崖他(画)/津田信全(版) 明治2年(1869) 単色木版

1-2 西画指南 前編 上下 川上冬崖 明治4年(1871) 単色木版

1-3 Japan Punch チャールズ・ワーグマン(画・発行) 明治7年(1874) 単色木版

1-4 絵新聞日本地 第一・二号 惺々暁斎(画) 神奈垣魯文(出版編集) 明治7年(1874) 単色木版 和綴

1-5 石版刷り 五姓田義松 明治8年(1875) 紙・ペン・鉛筆

1-6 士官 五姓田義松(画) 不詳 石版・紙

1-7 佐賀征討戦記 五姓田義松(写) 陸軍文庫(発行) 明治8年(1875) 石版筆彩・製本

1-8 輿地誌略 第一～三編 川上冬崖(画)/玄々堂(刻) 大学南校・文部省・修静館(発行) 明治12～13年(1879～80) 単色木版・銅版・刊本

1-9 団団珍聞 101～125号合冊 彫刻会社(鉛製)/団団社(発行) 明治12年(1879) 活版・製本

1-10 大日本帝国古今風俗 寸陰漫稿 渡辺幽香(画・発行) 明治19年2月8日版権免許 単色石版・製本

1-11 画学類纂 本多錦吉郎(編)/彰技堂(出版) 明治23～24年(1890～1891) 単色木版カ・製本

参考 大日本風俗漫画 渡辺幽香(画・発行) 明治20年(1887)7月16日御届 石版・銅版・製本

参考 A Pictorial Museum of Japanese Matters & Customs 浅井忠・柳源吉(原画)小柴英(印刷発行) 明治20年(1887) 和紙・石版・和綴

参考 増補三刷 屑屋之籠 全 K.Y(款)/東京博文堂(蔵版) 明治26年(1893)4月8日発行 単色石版・製本

1-12 馬上の明治天皇 平野政吉/(画作印刷兼発行) 明治30年(1897)4月15日印刷同18日発行 石版多色刷

1-13 帝国貴顕御肖像 有山定次郎/(画作印刷兼発行) 明治23年(1890)6月26日 印刷出版 石版筆彩

1-14 鹿児島英名肖像 誠協堂渡辺忠久/(画工兼出版) 明治20年(1887)10月7日御届 石版多色刷

1-15 獨逸国宰相ビスマルク氏肖像 桑田正三郎(画作兼発行)清新社喜多山龍夫(印刷) 明治21年(1888)11月22日印刷 同25日出版 単色石版

1-16 貴顕御肖像 和田勉(発行兼印刷) 明治25年(1892)7月1日印刷出版 単色石版

1-17 馬上の明治天皇と皇太子 不明 明治28年(1895)以後 単色石版

1-18 大日本神皇乃皇御真影 不明 明治30年(1897)前後 単色石版・金刷

1-19 皇国貴顕肖像 野村銀次郎(画工兼発行)小泉市太郎(印刷) 明治21年(1888)7月5日印刷/同13日出版 石版筆彩

1-20 帝国貴顕御肖像 有山定次郎(画作印刷発行) 明治24年(1891)4月13日印刷出版 単色石版・金刷

1-21 西丸皇居御出門之図 清水市郎(画工兼出版) 明治20年(1887)6月4日御届 石版筆彩

1-22 内閣総理大臣 黒田清隆君肖像 渡辺忠久(画作兼発行)誠協堂(発行) 明治22年(1889)6月14日印刷/同15日出版 石版多色刷

1-23 明治天皇皇后　皇太子肖像　不明〈明治30年前後〉　三幅対・単色石版
1-24 教訓画第123号　護良親王遇害図　渡辺忠久(画作兼印刷発行)　誠協堂(製版)　明治23年(1890)9月16日　印刷/同23日出版　単色石版
1-25 教訓画常磐雪中携三児潜行図　渡辺忠久(画作兼印刷発行)　明治25年(1892)2月1日印刷/同3日出版　石版筆彩
1-26 壮士遺志ヲ桜田ニ達スル図　清水市郎(印刷発行兼画作)　明治21年(1888)9月2日印刷/同8日出版　石版多色刷
1-27 教訓愛国心　勝山繁太郎(画作兼印刷発行)　明治25年(1892)8月9日　印刷/同10日出版　石版多色刷
1-28 広島大本営　波々伯部繁(画)　不明　石版筆彩
1-29 枢密院会議之図(『改新新聞』第1622号附録)　水野昌幸(印刷兼発行)三益社(発行所)　明治21年(1888)8月1日出版　33.1×56.3　単色石版
1-30 会場式　矢島智三郎(発行兼印刷)　明治23年(1890)4月2日印刷/同3日出版　26.6×35.4　石版多色刷
1-31 帝国議会開院之式之図　有山定次郎(画作印刷発行)　明治24年(1891)4月13日　印刷出版　石版筆彩
1-32 大元帥陛下凱旋門御通輦之図　有山定次郎(画作印刷発行)　明治27年(1894)9月25日印刷/同28日出版　石版多色刷
1-33 駿州吉原之景　香山秀吉(印刷兼発行)/盛廣堂(製造)　明治21(1888)年7月25日印刷/同26日出版　石版筆彩
1-34 東京上野大仏前全景　藪崎芳次郎(画工兼発行)小島幸作(印刷)　明治22年(1889)9月8日印刷/同9日出版　石版筆彩
1-35 日本三景之内陸前之松嶋真景　矢島藤吉(発行兼印刷)　明治23年(1890)4月8日印刷出版　石版多色刷
1-36 東京向島桜花満開之図　藪崎芳次郎(画工兼出版)　明治20年(1887)1月12日届　石版多色刷
1-37 箱根山上湖水之景　清水市郎(印刷発行兼画作)　明治21年(1888)4月5日印刷/同22日出版　石版多色刷
1-38 近江八景之内石山寺　渡辺忠久(画作兼印刷発行)　明治21年(1888)11月4日印刷/同5日出版　石版筆彩
1-39 名古屋城　星野茂□郎(画作印刷兼発行)　明治24年(1891)3月20日印刷出版　27×36.3　石版筆彩
1-40 深窓之貴嬢　矢島智三郎(発行兼印刷)　明治23年(1890)6月12日印刷/同28日出版　石版筆彩
1-41 美人之音楽　藪崎芳次郎(画工兼発行)小島幸作(印刷)　明治24年(1891)9月17日　印刷出版　石版筆彩
1-42 明治婦人風俗画　羽根築　ははかべ(款)　有山定次郎(画作印刷発行)　明治24年(1891)12月24日印刷出版　38.8×27.4　単色石版/台紙貼
1-43 美人愛児童　深瀬亀次郎(画作印刷発行)　明治27年(1894)1月21日印刷出版　石版筆彩
1-44 月夜之美人　有山定次郎(画作印刷発行)　明治22年(1889)10月10日印刷出版　単色石版
1-45 東京名妓　深瀬亀次郎(画作印刷発行)　明治22年(1889)■月20日印刷出版　石版筆彩
1-46 三人上戸之図　石嶋八重(画作発行兼印刷)　明治22年(1889)10月30日印刷/同31日届　石版筆彩
1-47 五月遊　有山定次郎(画作印刷発行)間野駒吉(印刷)　明治24年(1891)4月13日印刷出版　石版筆彩
1-48 当世十二ヶ月之内　小児稲荷祭之図　熊澤喜太郎(画作印刷兼発行)　明治24年(1891)4月29日印刷出版　石版筆彩
1-49 角力遊　太田節次(画作印刷兼発行)　明治25年(1892)5月20日印刷出版　単色石版
1-50 童児愛犬之図　吉原秀雄(画工兼出版)小泉市太郎(印刷)　明治21年(1888)9月28日印刷/同29日出版　石版筆彩
1-51 子供の学校遊び　田中良三(画作兼発行印刷)尚美堂(発行所)　明治40年(1907)4月5日印刷/同8日出版　石版多色刷
1-52 東京瓦斯株式会社引き札　不明　不明　活版多色刷
1-53 東京名所　新吉原ノ真景　有山定次郎(画作印刷発行)　明治30年(1897)8月9日印刷/同12日発行　石版多色刷
1-54 故星亨君遭難之図　東洋彩巧館藤山種芳(画作印刷兼発行)　明治34年(1901)8月24日印刷/同27日発行　木版筆彩
1-55 十二支之内 牛　藪崎芳次郎(画作印刷兼発行)　明治25年(1892)9月12日印刷発行　石版筆彩
1-56 愛嬌の芸競　有山定次郎(画作印刷発行)　明治24年(1891)4月13日印刷出版　石版筆彩
1-57 手習子供　田代田三郎(画作印刷兼発行)　明治27年(1894)3月18日印刷　石版筆彩
1-58 子供角力　田代田三郎(画作印刷兼発行)　明治25年(1892)11月18日印刷出版　石版筆彩
1-59 五人子　田代田三郎(画作印刷兼発行)　明治27年(1894)□月□日印刷　石版筆彩
2-1 ビゴー肖像　〈五姓田義松〉　明治20年代後半頃　紙・鉛筆
2-2 O-HA-YO　ジョルジュ・ビゴー　明治16年(1883)　洋紙・銅版
2-3 Une Chasse　ジョルジュ・ビゴー　明治16年(1883)　洋紙・木版
2-4 MATA　ジョルジュ・ビゴー　明治17年(1884)　洋紙・銅版・和綴
2-5 CROQUIS JAPONAIS　ジョルジュ・ビゴー　明治19年(1886)　洋紙・銅版・和綴
2-6 Le Jour de L'AN au Japon　ジョルジュ・ビゴー　明治19年(1886)　48×33.2　洋紙・木版・和綴
2-7 ボツカス翁十日物語　想夫恋ジョルジュ・ビゴー(挿画)　臨池書院(蔵版)　明治19年(1886)　洋紙銅版・和綴
2-8 La Journée du Soldat　ジョルジュ・ビゴー　明治29年(1896)　洋紙・石版・和綴
2-9 Yokohama Ballads　ジョルジュ・ビゴー　明治32年(1899)　洋紙・銅版
2-10 門　ジョルジュ・ビゴー　明治18年(1885)　紙・水彩
3-1 東京下谷藝妓小幾　亀井至一(画工兼印刷)至誠堂(製)　明治16年(1883)3月7日届　石版多色刷
3-2 於摂州兵庫楠公奉迎鳳駕之図　亀井至一(画版)欽木鑑太

郎(画工)　明治16年(1883)5月23日御届　石版筆彩
3-3 日光勝景シリーズ　亀井至一(画)鬼平金四郎(発行兼印刷)　明治26年(1893)5月15日印刷出版　木版多色刷13点
3-4 山吹之里賤女　岡村政子(画作)/酒井鈴子(石画)/中村甚三(印刷・信陽堂石版生徒)/岡村竹四郎(発行)/信陽堂(発行所)　明治22年(1889)4月5日印刷　単色石版
3-5 なよたけ　岡村政子(画作)/酒井鈴子(石画)/荒井金之丞(印刷)/岡村竹四郎(発行)/信陽堂(発行)　明治22年(1889)4月25日印刷/同□日出版　石版筆彩
3-6 楠公父子訣別之図　岡村政子(画作)/酒井鈴子(石画)/浦野芳次郎(印刷・信陽堂石版生徒)/岡村竹四郎(発行)/信陽堂(発行所)　明治22年(1889)11月20日印刷　単色石版
3-7 板垣伯之肖像(『時事新報』第3044号附録)　信陽堂(石印)　明治24年(1891)6月8日発行　単色石版
参考 十二ヶ月之内　杜若(『時事新報』第3980号附録)　二世五姓田芳柳(画)信陽堂(石印)　明治27年(1894)6月8日出版　単色石版
3-8 楳嶺百鳥画譜　幸野楳嶺(筆者)大倉孫兵衛(出版)　明治14年(1881)10月18日版権免許　多色木版・和綴
3-9 芳文画譜　菊池芳文(著画)田中治兵衛(出版兼印刷)　明治23年(1890)7月20日印刷/同25日出版　多色木版・和綴
3-10 貴顕御肖像(『大阪朝日新聞』第3870号附録)　Naojiro. H(款)東京生巧館(刻)　明治25年(1892)1月3日出版　単色木口木版
参考 高等小学読本　一・二　山本芳翠ほか(原画)/生巧館合田清ほか(刀)/文部省大臣官房図書課(蔵版)　一:明治21年(1888)11月28日再版／二:明治21年9月25日出版　単色木口木版ほか・製本
参考 磐梯山噴火真図　山本芳翠(画)/合田清(刻)明治21年(1888)　単色木口木版
3-11 帝国至尊御影　葛西虎次郎(画作兼発行)/長栄舎中川(印刷所)/青雲堂(発売所)　明治34年(1901)6月13日印刷/同17日出版　石版多色刷
3-12 歩兵第二十五連隊兵営図　大野友吉(著作兼印刷発行)明治40年(1907)9月1日印刷/同10日出版　石版多色刷
3-13 迪宮殿下肖像(『東京朝日新聞』第5499号附録)　小川一真(撮影)小川写真製版所(印刷)　明治34年(1901)11月3日出版　網版
3-14 高貴肖像(『東京朝日新聞』第4969号附録)　東京印刷株式会社(印刷)　明治33年(1900)5月10日出版　網版
3-15 絵はがき集其四　愛児くらべ　黒木半之助(画作印刷兼発行)博画館(発行所)　明治43年(1910)1月25日印刷/同2月1日出版　石版多色刷
3-16 美子皇后肖像(『東京日々新聞』第12669号附録)　岡田三郎助(画)大江印刷所(製版印刷)　明治45年(1912)3月3日発行　(オフセット印刷)
3-17 やまとひめとブリタニヤ(『時事新報』第6689号附録)北沢画(款)/秦石画(款)/東京印刷株式会社(印行)　明治35年(1902)6月26日出版　石版多色刷
3-18 こだま(『時事新報』第7243号附録)　和田英作(画)/K.Hada(款)/東京印刷株式会社(印行)　明治37年(1904)1月1日出版　石版多色刷
3-19 節子皇太子妃ほか肖像(『報知新聞』第9955号附録)　中村政雄(発行印刷)　明治38(1905)年1月2日発行　網版
3-20 大元帥陛下御尊影　田中良三(画作兼発行印刷)尚美堂(発行所)　明治38年(1905)6月1日印刷/同4日発行　石版多色刷
3-21 大日本帝室御尊像　桃華堂久保栄七(画作兼印刷発行)明治38年(1905)12月26日印刷　同29日出版　石版多色刷
3-22 聖上陛下崩御　小川吉五郎(発行)天沼米三(印刷)　大正元年(1912)8月2日印刷/同6日発行　活版単色刷
3-23 探偵実話　真土村騒動　前後編　鈴木金輔(編)聚栄堂大川書店(発行)　前編:明治34年(1901)4月13日発行/後編:同43年(1910)1月22日発行　活版多色刷・製本
参考 世界歴史譚　第七編　漢高祖・第八編　寧耳遜　北蓮蔵(挿画)/文館(発行)　七編:明治32年(1899)11月6日発行/八編:同10日発行　活版多色刷・製本

イ　「江戸時代の貨幣」

○会　期:平成23年2月19日(土)～4月10日(日)

○担　当:専門学芸員　寺崎 弘康、古宮 雅明、主任学芸員　古川 元也

○概　要:　当館の貨幣コレクションには、常設展用資料のほか、博物館として建物を活用している横浜正金銀行以来の由緒を持つ貨幣コレクション(国内外貨幣紙幣コレクション)と、平成19年に駒澤大学名誉教授中村璋八氏から寄贈をうけた貨幣コレクション(中村璋八貨幣コレクション)がある。江戸時代に発行された全ての貨幣が網羅されたわけではないが、両者は保存の良さという点でも非常に良質なコレクションである。これらコレクションは、これまでまとまった形では展示に用いられたことはなかった。

本展では、当館コレクションの中から、貨幣の美しさにも意を払いつつ、江戸時代(17世紀～19世紀)に流通した貨幣を中心に、関連する時代の貨幣や参考資料をあわせて展示した。

○展示解説:各回13:30～

①2月27日(日)　参加者:21名(担当:主任学芸員　古川 元也)

②3月20日(日)　参加者:21名(担当:専門学芸員　古宮 雅明)

③4月 3 日(日)　参加者:12名(担当:専門学芸員　寺嵜 弘康)

○出品目録及び解説

（凡例）　貨幣の名称は複数の通称がある場合もあるが、日本銀行金融研究所貨幣博物館での呼称に準拠

（コレクション名は横浜正金銀行と東京銀行から引き継いだ貨幣コレクションを「正金」、中村璋八貨幣コレクションを「中村」、通常館蔵資料を「通常」とした。）

No.　名称(コレクション名)

1 金銀図録　全六巻付録一巻(通常正金)　近藤守重　文化5年(1808)
2 譲葉大判(正金)
3 菊極印丸小判(正金)
4 大黒五両判(正金)
5 慶長大判(正金)　慶長8年(1603)
6 慶長一分金(正金)　慶長5年(1600)～元文3年(1738)
7 宝永一分金(正金)　元禄8年(1695)
8 享保大判(正金)
9 享保小判(正金通常)
10 享保一分金(正金通常)
11 元文小判(正金中村)
12 元文一分金(正金中村)
13 文政草文二分金(正金)　文政元年(1816)
14 文政真文二分金(正金)　文政元年(1816)
15 文政小判(正金中村)
16 文政一分金(正金)
17 文政一朱金(通常)　文政7年(1824)
18 天保大判(正金)
19 天保五両判(正金)　天保5年(1837)
20 天保小判(正金通常中村)　天保8年(1837)
21 天保一分金(正金中村)　天保8年(1837)
22 天保二朱金(中村)
23 安政小判(正金)　安政元年(1854)
24 安政一分金(通常)　安政元年(1854)
25 安政二分金(正金中村)
26 万延大判(正金)　万延元年(1850)
27 万延二分金(通常中村)　万延元年(1850)
28 万延二朱金(中村)　万延元年(1850)
29 天保丁銀(通常中村)
30 切銀(中村)
31 元文豆板銀(中村)
32 文政豆板銀(通常)
33 天保豆板銀(中村)
34 安政豆板銀(通常中村)
35 携帯用天秤(通常)
36 明和五匁銀(通常)
37 明和南鐐二朱銀(通常)
38 寛政南鐐二朱銀(通常)　明和9年(1772)～文政7年(1824)
39 文政南鐐二朱銀(通常正金)　文政7年(1824)
40 文政南鐐一朱銀(中村)
41 天保一分銀(正金通常中村)　天保8年(1837)
42 嘉永一朱銀(中村)　嘉永7年(1854)
43 安政一分銀(正金通常中村)　安政6年(1859)
44 安政二朱銀(通常)　安政6年(1859)
45 安政一朱銀(中村)　安政6年(1859)
46 改三分定銀(正金)　安政5年(1958)年
47 銭枡(通常)
48 寛永通宝(中村)
49 寛永通宝[四文銭](通常)　明和5年(1708)
50 寶永通宝[当十銭](通常)　宝永5年(1708)
51 文久永寶(通常)　文久3年(1863)
52 天保通宝(通常中村)　天保6年(1835)
53 銭百文緡と早道(通常)
54 東海道中膝栗毛(通常)
55 明治二分金(中村)
56 明治一分銀(中村)
57 明治一朱銀(中村)

(4)　その他の展示

ア　夏の特別企画「まつり　ー人々のつどい、にぎわいー」

○会　期：前期 平成22年6月30日(水)～7月25日(日)、後期 7月28日(水)～8月29日(日)

○概　要：　夏の特別企画として、まつりに関する様々な資料、作品を、古代から現代まで、考古、民俗、歴史、美術と横断的に集め展示した。特別の会場を設けず、通常の常設展示室内の各所で展示することで、常設展示本体にも新しい魅力を感じてもらうことを企図した。

○出品目録

（凡例）　No.、資料/作品名、制作者ほか、制作年代、材質・技法

（目録中の年号および月日は原資料の表記に拠り、一部旧暦で表記）

【テーマ1　考古】

1 注口土器　横浜市三殿台遺跡出土　縄文時代後期
2 注口土器　横浜市帷子神社遺跡出土　縄文時代後期
3 注口土器　横浜市帷子神社遺跡出土　縄文時代後期

4 注口土器　横浜市荒立貝塚出土　縄文時代後期
5 注口土器　横浜市別所貝塚出土　縄文時代後期

【テーマ2　中世】
1 鶴岡八幡宮相撲職文書(旧金子家文書)　源頼朝袖判下文　寿永3年(1184)6月3日　紙本墨書
2 鶴岡八幡宮相撲職文書(旧金子家文書)　関東御教書案　建長2年(1250)7月25日　紙本墨書
3 鶴岡八幡宮相撲職文書(旧金子家文書)　鶴岡八幡宮相撲奉行和与状　嘉暦元年(1326)8月20日　紙本墨書
4 鶴岡八幡宮相撲職文書(旧金子家文書)　関東下知状　嘉暦元年(1326)10月12日　紙本墨書
5 鶴岡八幡宮相撲職文書(旧金子家文書)　鶴岡八幡宮寺相撲職補任状　文明12年(1480)2月13日　紙本墨書
6 鶴岡八幡宮古神宝類 沃懸地杏葉螺鈿平胡籙(模造)　原品：鎌倉時代(13世紀)　木製漆塗　蒔絵螺鈿
7 平家物語図屏　六曲一隻　室町時代(16世紀)　紙本著色
8 『平家物語』(奈良絵本)第2冊　御こしふり　江戸時代(18世紀)　紙本著色
9 『平家物語』(奈良絵本)第3冊　座主流　江戸時代(18世紀)　紙本著色
10 商山四皓・竹林七賢図屏　六曲一双　江戸時代(17世紀)　紙本墨画
11 狛犬　鎌倉時代(14世紀)　木造彩色
12 金銅水瓶　鎌倉時代(14世紀)　銅鋳造
13 金銅孔雀文磬　鎌倉時代(14世紀)　銅鋳造
14 銅造蓮華文磬　応永8年(1401)　銅鋳造
15 金銅幡　文明17年(1485)延徳4年(1492)　銅鋳造鍍金
16 白磁水注　北宋時代(11～12世紀)　白磁
17 堆朱花鳥文食籠　明時代(16世紀)　木製漆塗彫漆
18 螺鈿楼閣人物文卓　明時代(17世紀)　木製漆塗螺鈿
19 螺鈿楼閣人物文卓　明時代(17世紀)　木製漆塗螺鈿
20 箔絵楼閣山水文八角合子　明時代(17世紀)　木製漆塗箔絵
21 色絵草花桃図合子　明時代(17世紀)　磁器色絵
22 沈金牡丹唐草文食籠　清時代(18世紀)　木製漆塗沈金
23 瀬戸鉄釉陰刻花文瓶子　鎌倉時代(13世紀)　陶器鉄釉
24 瀬戸灰釉瓶子　鎌倉時代(13世紀)　陶器灰釉
25 朝鮮唐津徳利　桃山時代(16世紀)　陶器黒・白釉
26 朱漆塗湯桶　桃山時代(16世紀)　木製漆塗
27 古九谷様式色絵蝶牡丹文大皿　江戸時代(17世紀)

【テーマ3　近世】
1 祭礼練物の図　作者不詳　18世紀前半　大判漆絵
2 相州江ノ島弁才天巌屋祭礼之図　歌川国安　天保初期　大判錦絵3枚続
3 江戸名所図会　巻五　神田明神祭礼　齋藤幸雄・幸孝・幸成編／長谷川雪旦画　天保5～7年(1834～36)　版本
4 江戸名所図会　巻一　両国橋　齋藤幸雄・幸孝・幸成編／長谷川雪旦画　天保5～7年(1834～36)　版本
5 江戸名所図会　巻一　山王祭　齋藤幸雄・幸孝・幸成編／長谷川雪旦画　天保5～7年(1834～36)　版本
6 東都名所高輪廿六夜待遊興之図　初代 歌川広重　天保年間(1830～44)　大判錦絵3枚続
7 東都両国すゞみ船　初代 歌川広重　弘化4～嘉永3年(1847～50)　大判錦絵3枚続
8 江の島弁才天開帳参詣群集之図　歌川国郷　安政3年(1856)　大判錦絵3枚続
9 名所江戸百景　市中繁栄七夕祭　初代 歌川広重　安政4年(1857)　大判錦絵
10 名所江戸百景　両国花火　初代 歌川広重　安政5年(1858)　大判錦絵
11 月百姿　神事残月　歌川芳年　明治19年(1886)　大判錦絵

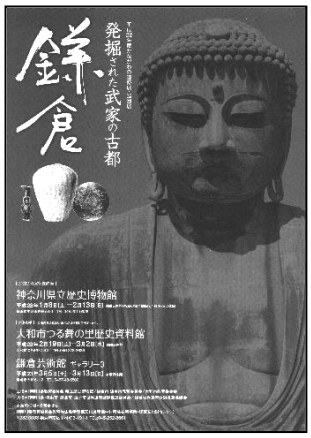
【テーマ4　近代】
1 『ペリー提督日本遠征記』　久里浜への最初上陸　Wilhelm Heine, First Landing at Gorahama from Narrative of the Expedition of an American Squadron to China Seas and Japan, in the year of 1852, 53 and 54 compiled　by F. L. Hawks, 1856, Senate.　ホークス編　ウィルヘルム・ハイネ画　1856年　紙・多色刷石版画
2 『ペリー提督日本遠征記』　ポーハタン号上で日本の委員を招いての正餐　Wilhelm Heine, Diner Given to the Japanese Commissioners on Board U. S. S. F. Powhatan from Narrative of the Expedition of an American Squadron to China Seas and Japan, in the year of 1852, 53 and 54 compiled by F. L. Hawks, 1856, Senate.　ホークス編　ウィルヘルム・ハイネ画　1856年　紙・多色刷石版画
3 横浜鈍宅之図　歌川貞秀　文久元年(1861)　大判錦絵3枚続
4 嘉永七年寅歳二月十日大日本帝国於武州横浜日本人亜墨利駕人応接之図　鮮斎永興　明治年間(1868～1912)　紙・多色刷木版
5 ジャパン・パンチ　チャールズ・ワーグマン　1866・1869・1882・1884年　木版・石版／紙
6 第二回勧業博覧会図　歌川国松　明治14年(1881)　大判錦絵3枚続
7 大日本帝国国会仮議事堂之図　井上探景　明治21年(1888)　大判錦絵3枚続
8 憲法御発布式祝祭之景況並ニ弐重橋御成行列之図　楳樹国利　明治22年(1889)　大判錦絵3枚続
9 勧業博覧会館内一覧之図　楊洲周延　明治23年(1890)　大判錦絵3枚続
10 横浜夜景　清水登之　大正10年(1921)　油彩・キャンバス

【テーマ5　現代・民俗】
1 絵葉書　鎌倉の海水浴場　大正年間(1912～26)～昭和10年(1935)頃　紙・単色印刷

2 アサヒグラフ　第17巻第7号　東京朝日新聞社　昭和6年(1931)8月12日　紙・単色印刷
3 絵葉書　逗子の海水浴場　鎌倉邦栄堂　昭和9年(1934)頃　紙・カラー印刷
4 海へ　湘南電鉄　昭和10年(1935)　紙・カラー印刷
5 海水浴の風景　高野捨吉　昭和10年(1935)頃　写真パネル(ガラス乾板より複写)
6 海へ　京浜・湘南電鉄　昭和11年(1936)　紙・カラー印刷
7 片瀬江之島　小田急電車　昭和12年(1937)頃　紙・カラー印刷
8 七夕人形　中郡二宮町山西　昭和30年(1955)頃
9 盆棚(複製)　横浜市旭区善部

イ　平成22年度かながわの遺跡展　「発掘された武家の古都・鎌倉」

○会　期：平成23年1月20日(土)～2月13日(日)
○概　要：　神奈川県内の発掘調査により出土した資料を、テーマに沿って展示することで、県民がじかに発掘資料に接し、郷土・神奈川の歴史に関心をもってもらうとともに、埋蔵文化財に親しみ、その保護についての理解を深めるために行なう展示である。
　平成22年度は、鎌倉について、発掘調査の成果を中心に展示した。
○会　場：神奈川県立歴史博物館　特別展示室
○入場者数：4,946名
○展示資料点数：327点
○主　催：神奈川県教育委員会、神奈川県立歴史博物館、鎌倉市、鎌倉市教育委員会、大和市教育委員会
○共　催：神奈川県・横浜市・鎌倉市・逗子市世界遺産登録推進委員会、鎌倉世界遺産登録推進協議会
○当館担当：主任学芸員　古川 元也、学芸員　千葉 毅



○関連行事
①かながわの遺跡展講演会(無料、ただし常設展観覧券が必要。)
・第1回
　日　時：1月16日(日) 14:00～16:00
　演　題：「武家の古都・鎌倉の発掘調査成果」
　講　師：鎌倉市世界遺産登録推進担当　玉林 美男 氏
　応募者：182名
　受講者：71名
・第2回
　日　時：2月6日(日) 14:00～16:00
　演　題：「中世鎌倉の実像に迫る」
　講　師：東京大学史料編纂所准教授　高橋 慎一朗 氏
　応募者：311名
　受講者：66名

②展示解説(各回13:30～14:30、担当：埋蔵文化財センター　副主幹　宍戸信悟)
　第1回：1月10日(月・祝)50名、第2回：1月22日(土)50名、第3回：2月12日(土)50名

○出品目録
(凡例)　No.、遺跡名、種別、所蔵・保管者、指定

1 国指定史跡永福寺跡　渥美片口鉢、渥美甕、銅製経筒、白磁小壺　鎌倉市教育委員会　県指定重要文化財　鬼瓦、蓮華文軒丸瓦、永福寺銘軒丸瓦、唐草文軒平瓦、永福寺銘軒平瓦　鎌倉市教育委員会
2 国指定史跡鶴岡八幡宮境内　板碑形五輪塔、灰釉水注、金銅製飾具(6点)　鶴岡八幡宮　漆器椀(複製)(4点)、漆器皿(複製)(4点)　神奈川県立歴史博物館
3 国指定史跡建長寺境内　青磁碗、褐釉香炉、福山方丈銘漆

器皿、福山方丈銘漆器復元品(1セット)、建長寺銘軒丸瓦、剣頭文軒平瓦　建長寺
4 建長寺玉雲庵　黒釉壺、天目茶碗　鎌倉市教育委員会
5 建長寺　「建長寺伽藍指図」(複製)　神奈川県立歴史博物館(原本：建長寺蔵)
6 国指定史跡鎌倉大仏殿跡　銅滓(9点)　鎌倉市教育委員会
7 国指定史跡仏法寺跡　柿経(15点、2箱)　鎌倉市教育委員会
8 極楽寺旧境内遺跡極楽寺3丁目298番1地点　連珠文軒平瓦、巴文鐙瓦、蓮華文鐙瓦　鎌倉市教育委員会
9 国指定史跡北条義時法華堂跡　青磁碗、青白磁梅瓶、高麗青磁瓶、白磁皿、軒平瓦　鎌倉市教育委員会
10 国指定史跡称名寺伽藍旧境内　青磁碗、青磁香炉、かわらけ(7点)、巴文軒丸瓦、永福寺銘軒丸瓦、巴文軒丸瓦、剣頭文軒平瓦、橋脚　横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター
11 清浄光寺　国宝「一遍聖絵」絵巻(複製)　神奈川県立歴史博物館(原本：清浄光寺蔵・東京国立博物館保管)
12 国指定史跡北条氏常盤邸跡　金銅製水滴　鎌倉市教育委員会
13 国指定史跡大町釈迦堂口遺跡　常滑壺　鎌倉市教育委員会
14 国指定史跡東勝寺跡　かわらけ(3点)、石鍋、常滑盤　鎌倉市教育委員会
15 浄光明寺　国指定重要文化財「浄光明寺敷地絵図」写真パネル　浄光明寺鎌倉国宝館寄託
16 東勝寺　「北条時房六波羅施行状 延慶二年」　神奈川県立歴史博物館
17 北条時房・顕時邸跡雪ノ下1丁目264番4地点　墨壺　鎌倉市教育委員会　鎌倉市指定文化財　呪符木簡　鎌倉市教育委員会
18 今小路西遺跡御成小学校地点　白磁壺、青白磁梅瓶、青磁酒会壺・同蓋、青磁碗、三彩大盤、白磁印花文皿、白磁口禿皿、青白磁小壺(3点)・同蓋(3点)　鎌倉市教育委員会　県指定重要文化財
19 今小路西遺跡御成町171番1地点　墨書木札、墨書笹塔婆(5点)、墨書絵馬、漆塗用ヘラ・同刷毛(2点)、物差、刷毛、あやつり人形、木製硯、刀形(2点)、鳥形、鉄鏃(2点)、鉄鋏(2点)、毛抜き、鉄剃刀、常滑鳶口壺、銅鏡、子持ち器台、鉄水注、漆器大皿・同椀　鎌倉市教育委員会
20 称名寺　国指定重要文化財「金沢貞顕書状　嘉暦三年」(複製)　神奈川県立歴史博物館(原本：称名寺蔵・神奈川県立金沢文庫保管)
21 円覚寺国指定重要文化財「仏日庵公物目録　貞治二年」(複製)　神奈川県立歴史博物館(原本：円覚寺蔵・鎌倉国宝館保管)
22 今小路西遺跡御成町200番2地点　青磁碗(2点)、青磁双魚文鉢、吉州窯系碗、高麗青磁梅瓶、常滑三筋壺　鎌倉市教育委員会
23 今小路西遺跡由比ガ浜141番5地点　陶器壺　鎌倉市教育委員会
24 大倉幕府周辺遺跡雪ノ下4丁目581番5地点　瀬戸小壺(2点)、鹿角製品　鎌倉市教育委員会
25 杉本寺周辺遺跡二階堂912番1地点　白磁皿、折りまげられたかわらけ　鎌倉市教育委員会
26 若宮大路周辺遺跡群小町1丁目276番18地点　銅杓子　鎌倉市教育委員会
27 若宮大路周辺遺跡群小町1丁目333番2地点　青磁碗(6点)　鎌倉市教育委員会
28 若宮大路周辺遺跡群御成町884番6地点　青磁露胎双魚文鉢　鎌倉市教育委員会
29 若宮大路周辺遺跡群御成町783番1地点　瀬戸仏花瓶(2点)　鎌倉市教育委員会
30 由比ガ浜中世集団墓地遺跡由比ガ浜四丁目1171-3地点　褐釉瓶　鎌倉市教育委員会
31 由比ヶ浜中世集団墓地遺跡由比ヶ浜2丁目1015番23地点　青磁碗、青白磁梅瓶蓋(8点)、無釉壺、骨角製笄、骨角製柄、骨角製刷毛軸、骨角製品(4点)　鎌倉市教育委員会
32 米町遺跡大町2丁目2320番1地点　銅兜金、鉄磐、人形、鮫皮鞘(箱入)　鎌倉市教育委員会
33 米町遺跡大町2丁目2338番1地点　石硯、常滑突帯付壺　鎌倉市教育委員会
34 大倉幕府周辺遺跡二階堂字荏柄38-1　青磁碗(3点)　鎌倉市教育委員会
35 名越ヶ谷遺跡大町4丁目1901-16地点　白磁印花文碗(2点)　鎌倉市教育委員会
36 千葉地東遺跡　青白磁蓋(2点)、白磁水注、瀬戸三耳壺、常滑壺、瓦質燭台、土器壺、墨書かわらけ、火鉢、人形(5点)、舟形、陽物、鉄紡錘車、柄付き錐・柄付きヤリガンナ・鉄刀子、銅笄(2点)、銅仏華瓶、分銅、六器鋺、金敲、銅金具(2点)、滑石製品、角製馬具、刷毛軸(2点)、漆器椀(複製)、漆器皿(複製)　神奈川県教育委員会
37 由比ガ浜中世集団墓地遺跡由比ガ浜二丁目1034-1地点　青白磁龍文香炉　鎌倉市教育委員会
38 北条時房・顕時邸跡雪ノ下1丁目273番ロ地点　吉州窯天目碗　鎌倉市教育委員会
39 浄光明寺稲荷小路遺跡(天皇館跡)　大町二丁目933地点　青白磁魚文皿　鎌倉市教育委員会
40 米町遺跡大町2丁目933地点　青磁皿(2点)　鎌倉市教育委員会
41 藤内定員邸跡　青磁魚文皿　鎌倉市教育委員会
42 称名寺　国指定重要文化財「金沢貞顕書状　元応元年」(複製)　神奈川県立歴史博物館(原本：称名寺蔵・神奈川県立金沢文庫保管)
43 由比ヶ浜中世集団墓地遺跡由比ヶ浜4丁目1136番地点　鹿角製ヤス(5点)、瀬戸脚付鉢、火鉢　鎌倉市教育委員会
44 由比ガ浜南遺跡　骨角製釣針(9点)、土錘(14点)　神奈川県教育委員会
45 長谷小路周辺遺跡　由比ガ浜三丁目228・229地点　火鉢　鎌倉市教育委員会

46 蔵屋敷遺跡　褐釉壺、常滑鳶口壺(2 点)、常滑鉢　神奈川県教育委員会
47 若宮大路周辺遺跡群小町 2 丁目 4 - 6 地点　瀬戸水注　鎌倉市教育委員会
48 若宮大路周辺遺跡群小町 1 丁目 106 番 1 地点　瀬戸水注、瀬戸卸皿、矢形(4 点)、刀形　鎌倉市教育委員会
49 若宮大路周辺遺跡群小町 1 丁目 210 番地点　木製面、女雛・女雛、漆器蓋、漆器盆、陽刻板(3 点)　鎌倉市教育委員会
50 大倉幕府跡雪ノ下 3 丁目 637 番 4 地点　丸木弓　鎌倉市教育委員会
51 円覚寺門前遺跡山ノ内字松岡 1344 番地点　山猫形木偶、水晶製五輪塔　鎌倉市教育委員会
52 円覚寺　国指定重要文化財「円覚寺境内絵図」(複製)　神奈川県立歴史博物館(原本：円覚寺蔵)
53 山王堂東谷やぐら群　凝灰岩製五輪塔、瀬戸壺、瀬戸仏花瓶、瀬戸天目碗、写経石(6 点)、銅懸仏(3 点)、銅釘、鉄釘(2 点)　神奈川県教育委員会
54 五合桝遺跡極楽寺 1 丁目 23 地点　常滑壺　神奈川県教育委員会
55 松葉ヶ谷奥やぐら群　瀬戸瓶子、瀬戸仏花瓶、板碑、凝灰岩製五輪塔　神奈川県教育委員会
56 極楽寺旧境内遺跡馬場ヶ谷やぐら群　瀬戸灰釉鉢(3 点)、瓦質火鉢(2 点)・香炉　神奈川県教育委員会
57 西御門東やぐら群　瓦質香炉、六器鋺、六器台　神奈川県教育委員会
58 新善光寺跡内やぐら　白磁壺　鎌倉市指定文化財、鎌倉市指定文化財　写経石(2 点)　鎌倉市教育委員会
59 極楽寺　「極楽寺境内絵図」(複製)　神奈川県立歴史博物館(原本：極楽寺蔵・鎌倉国宝館保管)
60 称名寺　「忍性菩薩像」(複製)　神奈川県立歴史博物館(原本：称名寺蔵・神奈川県立金沢文庫保管)
61 円覚寺旧境内遺跡　安山岩製五輪塔、安山岩製宝篋印塔　神奈川県教育委員会
62 弁ヶ谷東やぐら群　常滑甕　神奈川県教育委員会

ウ　フリーゾーンにおける「馬車道を描く日曜画家展 歴代金賞作品」展示

○概　要：　昭和55(1980)年から始められ31回目となった「馬車道を描く日曜画家展」の歴代金賞受賞作品を、当館フリーゾーンに展示した。なお、当館角田学芸員が審査員の一人として協力した。

○会　期：平成22年12月11日(土)～19日(日)

○会　場：神奈川県立歴史博物館　フリーゾーン　廊下

○共　催：馬車道商店街協同組合

○展示場所及び点数：合計30点

馬車道側廊下(3ヶ所・9点)、弁天通側廊下(4ヶ所・12点)、
正面玄関受付前(1ヶ所・1点)、正面玄関ショップ前壁面(1ヶ所・8点)

エ　フリーゾーンにおけるパネル展示

○概　要：　馬車道。本町4丁目の交差点から吉田橋までのわずか500メートルほどの通りであるが、歌謡曲でも歌われたヨコハマを代表する道路のひとつである。幕末横浜開港とともに生まれ、港と市街地を結ぶ往来として発展し、明治4(1871)年の地図には「馬車道」の名前が記されている。

輸出入の品々を運んだ荷馬車や外国人などが乗った馬車が通行していたことから「馬車道」とよばれ、多くの人たちが往来し、さまざまな商店が建ち並ぶ一方、貿易商社や金融機関が軒を並べる通りでもあった。馬車道150年の歩みを写真パネルで紹介した。

○会　期：平成23年3月30日(水)～

○会　場：神奈川県立歴史博物館　フリーゾーン　廊下

○展示資料点数：11点

○出品目録(いずれも写真パネル)

(凡例) №. 名称(作者)　時代　所蔵・写真提供者

1 浜一覧之真景色(部分)　橋本玉蘭斎(五雲亭)貞秀　明治4年(1871)　所蔵 神奈川県立歴史博物館

2 横浜吉田橋通繁盛之図　国輝　山本兵吉版　明治3年(1871)　所蔵 神奈川県立歴史博物館

3 (絵葉書)横浜正金銀行　明治末　所蔵 神奈川県立歴史博物館

4 (絵葉書)明治時代の馬車道　明治末　所蔵 神奈川県立歴史博物館

5 (絵葉書)横浜震災実況　横浜正金銀行付近の惨状　大正12年(1923)　所蔵 神奈川県立歴史博物館

6 空襲で焼け野原になった馬車道　昭和20年(1945)　写真提供 アメリカ国立公文書館

7 オート三輪が走る馬車道　昭和35年(1960)　写真提供 神奈川新聞社

8 東宝会館(現リッチモンドホテル)　昭和34年(1959)　写真提供 神奈川新聞社

9 国際仮装行列の仮面ライダー　昭和48年(1973)　写真提供 神奈川新聞社

10 馬車道まつりパレード　昭和51年(1976)　写真提供 馬車道商店街協同組合

11 馬車道で歌うピンクレディ　昭和52年(1977)　写真提供 馬車道商店街協同組合

⑸　学習支援事業

県民の学習ニーズに応えるべく学習の機会を提供し、博物館で行われる講座・講演会や各種行事などへの参加を通して、神奈川の歴史・文化や文化財についての知識関心を深めることを目的として実施した(一部再掲)。

ア　講座

県民に展示内容や文化財への興味関心を持ってもらい、より深い理解を図るため、県博講座をはじめとした次の講座を実施した。

(ｱ)　県博セミナー(生涯学習課主管の県立機関活用講座、5回連続、有料(5,000円)、14:00～16:00)
○テーマ:「浮世絵の魅力　徹底解剖 !!」(応募者63名)
○概　要:　美人画、武者絵、名所絵、役者絵など、浮世絵の各ジャンルについて、その歴史や、より楽しめる見方と魅力を紹介するとともに、特別展「浮世絵☆忠臣蔵 ― 描かれたヒーローたち!? ―」の見どころを解説した。
○内　容
・第1回　11月20日(土)(受講者50名)
「忠臣蔵の浮世絵」大和文華館 館長　浅野 秀剛 氏
・第2回　11月27日(土)(受講者49名)
「江戸の華ー美人画様式の展開と美」千葉市美術館 学芸課長代理　田辺 昌子 氏
・第3回　12月4日(土)(受講者43名)
「武者絵から広がる楽しみ」浮世絵研究家・元平木浮世絵美術館 研究員　岩切 友里子 氏
・第4回　12月11日(土)(受講者45名)
「名所絵に見る忠臣蔵」当館 主任学芸員　桑山 童奈
・第5回　12月18日(土)(受講者45名)
「忠臣蔵の名場面と役者絵」学習院大学 非常勤講師・国際浮世絵学会 常務理事　藤澤 茜 氏

(ｲ)　県博講座(当館の学芸員による連続講座、無料、ただし 特別展観覧券必要14:00～16:00)
○テーマ:「天狗のふしぎ・テングの魅力」(応募者97名)
○概　要:　特別展「天狗推参！」にちなむ連続講座。「天狗」に対するイメージの変遷を、歴史・美術・民俗の各分野から紹介した。
○内　容
・第1回　10月2日(土)(受講者63名)
「天狗イメージの変遷と江戸時代の天狗」専門学芸員　古宮 雅明
・第2回　10月9日(土)(受講者61名)
「仏教美術における鬼神のイメージ」学芸員　梅沢 恵
・第3回　10月16日(土)(受講者57名)
「鼻高天狗の誕生」主任学芸員　古川 元也
・第4回　10月23日(土)(受講者58名)
「天狗と民俗信仰」専門員　鈴木 通大

イ　特別展記念講演会等行事(特別展のテーマに沿った内容の講演会等の実施。無料、ただし(イ)②を除き特別展観覧券が必要、(エ)は常設展観覧券が必要)

(ｱ)　特別展「彩色立面図に見る日本の近代建築 ―銀行・オフィスビルから邸宅まで― 後期 銀行建築編」関連講演会等
①記念講演会(応募者168名・受講者67名)
日　時:4月25日(日) 14:00～16:00
演　題:「明治・大正の銀行建築と保存活用」

講　師：清水建設株式会社技術研究所　上席研究員　松波 秀子 氏

②記念建物見学会（応募者 159 名）
・第 1 回：4 月 30 日（金）14:00～15:30
見学先：日本銀行本店本館（参加者 28 名）
講　師：日本銀行文書局　技師　中村 茂樹 氏
・第 2 回：5 月 4 日（火・祝）14:00～15:30
見学先：当館旧横浜正金銀行本店本館（参加者 29 名）
講　師：当館 主任学芸員　丹治 雄一

(ｲ)　特別展「天狗推参！」関連講演会等
①記念講演会（応募者 141 名・受講者 64 名）
日　時：10 月 11 日（月・祝）14:00～16:00
演　題：「天狗はどこから来たか」
講　師：早稲田大学　講師　杉原 たく哉 氏

②記念民俗芸能鑑賞会（観覧者 162 名）
日　時：10 月 17 日（日）14:00～15:00
内　容：神奈川県指定無形民俗文化財「初山の獅子舞」
実　演：初山獅子舞保存会

(ｳ)　特別展「浮世絵☆忠臣蔵 － 描かれたヒーローたち!? －」関連行事
記念落語会（応募者 421 名・参加者 79 名）
日　時：12 月 14 日（火）14:00～15:30
演　題：「落語〈中村仲蔵〉を聴いて、浮世絵を見る」
出　演：落語家　桂 歌助 氏

(ｴ)　その他の展示「平成 22 年度かながわの遺跡展 －発掘された武家の古都・鎌倉－」記念講演会
・第 1 回（応募者 182 名・受講者 71 名）
日　時：1 月 16 日（日）14:00～16:00
演　題：「武家の古都・鎌倉の発掘調査成果」
講　師：鎌倉市世界遺産登録推進担当　玉林 美男 氏
・第 2 回（応募者 311 名・受講者 66 名）
日　時：2 月 6 日（日）14:00～16:00
演　題：「中世鎌倉の実像に迫る」
講　師：東京大学史料編纂所　准教授　高橋 慎一朗 氏

ウ　学芸員による展示解説（特別展・コレクション展示の担当学芸員による展示解説、13:30～14:30、ただし④のみ 14:00～15:00、自由参加）
①特別展「彩色立面図に見る日本の近代建築 －銀行・オフィスビルから邸宅まで－ 後期 銀行建築編」
・4 月 18 日（日）：担当　主任学芸員　丹治 雄一、参加者 19 名
・4 月 29 日（木・祝）：担当　主任学芸員　丹治 雄一、参加者 25 名
②コレクション展「奇妙奇天烈!?　明治の版画あれこれ」
・6 月 19 日（土）：担当　学芸員　角田 拓朗、参加者 22 名
・7 月 10 日（土）：担当　学芸員　角田 拓朗、参加者 15 名
③夏の特別企画「まつり －人々のつどい、にぎわい－」学芸員によるミュージアムツアー（テーマごとに当館学芸員を配し、参加者はそれぞれの解説を異なる学芸員から聞きながら常設展示室を巡る）
・7 月 18 日（日）　参加者 18 名
テーマ 1：学芸部長 薄井 和男→ テーマ 4：主任学芸員 嶋村 元宏 → テーマ 5：専門員 長田 平
・7 月 25 日（日）　参加者 11 名

テーマ2：学芸員 小井川 理 → テーマ3：専門学芸員 古宮 雅明 → テーマ4：学芸員 角田 拓朗
・8月1日(日)　参加者12名
テーマ2：主任学芸員 古川 元也 → テーマ3：主任学芸員 桑山 童奈 → テーマ4：専門学芸員 寺嵜 弘康
・8月8日(日)　参加者15名
テーマ1：学芸員 千葉 毅 → テーマ2：学芸員 梅沢 恵 → テーマ4：主任学芸員 丹治 雄一
・8月15日(日)　参加者12名
テーマ2：主任学芸員 古川 元也 → テーマ3：主任学芸員 桑山 童奈 → テーマ5：専門員 長田 平
・8月22日(日)　参加者43名
テーマ1：学芸員 千葉 毅 → テーマ4：学芸員 角田 拓朗 → テーマ5：専門員 鈴木 通大

④特別展「天狗推参！」
・10月 3 日(日)　担当：学芸員　梅沢 恵、参加者52名
・10月10日(日)　担当：専門学芸員　古宮 雅明、参加者32名
・10月17日(日)　担当：主任学芸員　古川 元也、参加者45名
・10月24日(日)　担当：専門員　鈴木 通大、参加者77名

⑤特別展「浮世絵☆忠臣蔵 ― 描かれたヒーローたち!? ―」
・11月21日(日)　担当：主任学芸員　桑山 童奈、参加者55名
・12月12日(日)　担当：主任学芸員　桑山 童奈、参加者52名

⑥その他の展示「平成22年度かながわの遺跡展 ―発掘された武家の古都・鎌倉―」
・1月10日(月・祝)　担当：神奈川県教育局生涯学習部 文化遺産課　副主幹 宍戸 信悟、参加者50名
・1月22日(土)　担当：神奈川県教育局生涯学習部 文化遺産課　副主幹 宍戸 信悟、参加者50名
・2月12日(土)　担当：神奈川県教育局生涯学習部 文化遺産課　副主幹 宍戸 信悟、参加者50名

⑦コレクション展「江戸時代の貨幣」
・2月27日(日)　担当：主任学芸員　古川 元也、参加者21名
・3月20日(日)　担当：専門学芸員　古宮 雅明、参加者21名
・4月 3 日(日)　担当：専門学芸員　寺嵜 弘康、参加者12名

エ　ミュージアムトーク(常設展示室で展示資料を解説、自由参加)
① 9月12日(日)
テーマ：「戦国時代文書の形と折り方」
担　当：企画普及課長　鳥居 和郎
参加者：20名
②12月19日(日)
テーマ：「餅はなぜ丸いか」
担　当：専門員　鈴木 通大
参加者：17名

オ　その他の行事(無料、ただし常設展観覧券が必要)
(ｱ)　「旧横浜正金銀行本店本館建物公開」
概　要：　国の重要文化財、史跡に指定されている当館建物について、通常は見ることのできない地下金庫扉や屋上ドームの公開を行なった。
日　時：10月24日(日)　第1回10:30～12:00、第2回14:00～15:30
講　師：主任学芸員　丹治 雄一
応募者：126名
参加者：第1回 23名、第2回 21名

(ｲ)　ミュージアムコンサート

a　「夏の特別企画　まつり　ー人々のつどい、にぎわいー」関連吹奏楽コンサート

日　時：7月18日(日) 14:00～14:40

内　容：　「夏の特別企画　まつり　ー人々のつどい、にぎわいー」に関連して、民謡メドレーなどを交えて吹奏楽の演奏を行なった。

演奏者：浦賀ウインドオーケストラ

会　場：当館講堂

応募者：60名

参加者：42名

b　「クラシック・ヨコハマ2010　ミュージアムコンサート　in　神奈川県立歴史博物館」

日　時：11月21日(日)14:00～15:00

内　容：「横浜市民広間演奏会」会員によるクラシック演奏

（ソプラノ　渡海 千津子 氏、フルート　池田 雪花 氏、キーボード　高橋 理恵 氏）

会　場：当館講堂

応募者：86名

参加者：54名

c　「EARTH&YOKO」によるオカリナ･フルート＆ギター＆バイオリンの演奏会

日　時：3月6日(日) 14:00～15:00

内　容：オカリナ・フルート、ギター、バイオリンの組み合わせによる演奏会

演奏者：オカリナ・フルート　石渡 晃子 氏、ギター　武内 勝則 氏、バイオリン　石渡 洋子 氏

会　場：当館講堂

応募者：101名

参加者：88名

カ　子ども・青少年向け教育普及事業

(ｱ)　学校週５日制対応行事

a　ミュージアムクイズ(自由参加)

内　容：常設展展示資料から出題したクイズシートを配布。

開催日：毎週土・日、祝日

参加者：295名

担　当：非常勤学芸員　片柳 圭輔

(ｲ)　子ども・青少年向け行事

a　博物館で遊ぼう!!2010（自由参加）

内　容：　子どもの日にちなんだ行事。常設展展示資料から出題したクイズを解きながら、展示室を回るクイズラリー。

開催日：5月2日(日)～5月5日(水・祝)

参加者：366名

担　当：非常勤学芸員　片柳 圭輔

b　ミュージアム・クイズラリー よこはま 2010

内　容：　夏休み期間に、近隣の博物館施設と共同で開催するクイズラリー。当館主催で参加館との連絡会を作り実施。参加者はクイズを解きながら各館をまわり、クイズノートに館ごとのスタンプを押してもらう。スタンプ数に応じた賞品あり。

なお今年度は、「昭和30年代・横浜大発見」をメインテーマに設定した。

開催期間：7月17日(土)～8月31日(火)

参加館園：合計16館

横浜みなと博物館・JICA 横浜 海外移住資料館・横浜市技能文化会館展示室匠プラ

ザ・日本郵船歴史博物館・横浜税関資料展示室・横浜開港資料館・シルク博物館・日本新聞博物館・放送ライブラリー・横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館・横浜人形の家・岩崎ミュージアム・大佛次郎記念館・神奈川県立神奈川近代文学館

参加者：全体 4,558 名（自由参加）

担　当：非常勤学芸員　片柳 圭輔

c　子ども博物館教室

名　称：「土器」を作ろう！（全 3 回）

概　要：　「子ども博物館教室」は、子どもたちに当館の存在を知らせるとともに、体験型行事を通して、楽しみながら学習し、博物館に興味を持ってもらうことを目的に、毎年、夏休み期間中に開催している学習支援事業の一つである。

平成 22 年度は、「『土器』を作ろう！」と題し、講師の指導のもとで土器の製作を体験することで、縄文土器や弥生土器についての知識をはじめ、当時の生活や歴史について興味を持ってもらうことを企図した。

内　容：① 7 月 24 日（土）9:30～16:30

縄文土器や弥生土器の概要や当時の生活などについて解説の後、土器の製作にあたった。

② 7 月 25 日（日）9:30～12:00

製作した土器の成形を行い、完成させた。

③ 8 月 28 日（土）9:30～12:00

完成した土器を返却し、焼成の様子などを説明した。

※焼成は小田原市郷土文化館の協力により 8 月 21 日（日）に実施した。

参加者：応募者　45 名、受講者 19 名

講　師：小田原市郷土文化館 学芸員　岡 潔 氏

担　当：非常勤学芸員　片柳 圭輔

キ　学校連携事業の状況

(ｱ)　展示見学学習等、小中高等学校の当館利用状況

	県　内							
	小学校		中学校		高等学校		県内合計	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
4 月	3	303	0	0	5	225	8	528
5 月	0	0	32	1, 228	3	83	35	1, 311
6 月	1	18	23	647	1	4	25	669
7 月	4	313	0	0	3	29	7	342
8 月	0	0	0	0	0	0	0	0
9 月	3	218	1	114	2	17	6	349
10 月	16	1, 101	5	82	7	298	28	1, 481
11 月	8	453	4	333	2	17	14	803
12 月	13	1, 164	3	93	1	10	17	1267
1 月	6	397	5	267	1	4	12	668
2 月	5	302	9	320	1	33	15	655
3 月	2	100	1	46	0	0	3	146
合計	61	4, 369	83	3, 130	26	720	170	8, 219

	県　外							
	小学校		中学校		高等学校		県外合計	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
4 月	1	59	29	333	12	523	42	915
5 月	7	103	42	650	9	945	58	1, 698
6 月	0	0	14	357	2	257	16	614
7 月	0	0	4	82	2	117	6	199
8 月	0	0	0	0	0	0	0	0
9 月	0	0	6	167	1	219	7	386
10 月	4	152	6	124	1	27	11	303
11 月	1	49	9	411	3	184	13	644
12 月	0	0	6	149	1	1	7	150
1 月	0	0	2	37	1	10	3	47
2 月	0	0	24	1, 013	2	46	26	1, 059
3 月	0	0	6	271	0	0	6	271
合計	13	363	148	3, 594	34	2, 329	195	6, 286

	平成 22 年度総計		平成 21 年度総計		平成 20 年度総計	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数
4 月	50	1, 443	53	1, 276	45	773
5 月	93	3, 009	123	3, 238	153	4, 297
6 月	41	1, 283	60	2, 987	59	1, 985
7 月	13	541	28	1, 191	15	379
8 月	0	0	1	162	5	120
9 月	13	735	47	2, 710	17	830
10 月	39	1, 784	42	1, 784	51	2, 706
11 月	27	1, 447	26	1, 232	41	1, 587
12 月	24	1, 417	16	542	18	881
1 月	15	715	19	872	15	447
2 月	41	1, 714	46	1, 657	34	933
3 月	9	417	19	527	24	775
合計	365	14, 505	480	18, 178	477	15, 713

(ｲ)　当館の利用目的

（単位：校数）

	利用目的	小学校	中学校	高校	合計
県内	社会科(歴史学習)	29(47.5%)	6(16.2%)	4(28.6%)	39(34.9%)
	総合的な学習の時間	14(23.0%)	26(70.3%)	6(42.8%)	46(41.1%)
	学校行事(遠足、社会見学等)	18(29.5%)	5(13.5%)	4(28.6%)	27(24.1%)
県外	社会科(歴史学習)	0　(0%)	9(18.8%)	5(23.8%)	14(18.7%)
	総合的な学習の時間	0　(0%)	16(33.3%)	5(23.8%)	21(28.0%)
	学校行事(遠足、社会見学等)	6 (100%)	23(47.9%)	11(52.4%)	40(53.3%)

※事前連絡校のみの統計、学校により重複目的あり。

(ｳ)　学校の博物館利用の状況

（単位：校数）

校種	事前準備				歴博活用			利用形態			付帯施設利用			利用目的		
	下見来館	学校訪問	電話打合	資料提供	課題持参	ボラ活用	特別依頼	全員一斉	グループ	個人	駐車場	講堂	その他	歴史学習	総合学習	社会見学
小学校	32	0	54	26	28	8	1	37	22	0	6	18	3	29	14	24
中学校	33	0	76	26	31	11	2	10	67	0	0	1	5	15	42	28
高等学校	9	0	34	11	12	3	2	10	26	0	1	0	2	9	11	15
合計	74	0	164	63	71	22	5	57	115	0	7	19	10	53	67	67

※課題持参＝学校がワークシートなどを用意して見学。質問などにボランティアが対応。
※ボラ活用＝ボランティアによる展示解説や質問への対応要請が事前にあったもの。
※特別依頼＝学芸員による館の概要説明や建物の解説など。
※付帯施設利用＝展示室等の一般利用施設以外に、駐車場(バス等)や講堂等の利用があったもの。

(ｴ)　見学学習(社会科の歴史学習、総合的な学習の時間等)への対応状況

a　見学に際し当館の概要などを説明
小学校 0 校、中学校 2 校、高等学校 2 校、大学 4 校

b　見学に際し、学習を支援していくためのワークシート(素材)を提供
小学校　26 校、中学校　26 校、高等学校　11 校

c　解説ボランテイアが展示資料を解説
小学校 8 校、中学校 11 校、高等学校 3 校

(ｵ)　社会科の歴史学習、総合的な学習の時間(調べ学習)への対応状況

上記(ｴ)の見学学習において、特定テーマの解説などの求めに対応したもの。

○5 月 27 日(木)　座間市立相模中学校　2 年　36 名
ボランティアによるテーマ 4(横浜開港と近代化)の解説

○5 月 28 日(金)　湘南白百合学園中学校　2 年　183 名
同校の「総合的な学習の時間　博物館の資料を通して歴史の見方を学ぶ」へのサポート。学芸員が中学校で博物館の入門的な内容の授業を実施。その後ワークシートを活用した見学学習で来館し、学芸員が事前説明。

○6 月 3 日(木)　相模原市立谷口中学校　2 年　6 名
グループで展示物、建物の概要などの解説を聞き、質問にボランティアが対応。

○6 月 4 日(金)　相模原市立共和中学校　2 年　19 名
グループで展示物、建物の概要などの解説を聞き、質問にボランティアが対応。

○7 月 30 日(金)　千葉・渋谷教育学園幕張中学校　2 年　62 名

ボランティアによるテーマ4(横浜開港と近代化)の解説
○9月16日(木)　横須賀市立走水小学校　4・5年　40名
ボランティアによるテーマ5(現代の神奈川と伝統文化)の解説
○10月1日(金)　ハートフルルーム十日市場中学校　2・3年　16名
ボランティアによるテーマ4(横浜開港と近代化)の解説
○11月10日(水)　横浜市立新羽小学校　6年　89名
ボランティアによるテーマ4(横浜開港と近代化)5(現代の神奈川と伝統文化)の解説
○11月12日(金)　千葉県立木更津高等学校　1年　120名
学芸員が3グループに分けて、建物について解説
○1月19日(水)　横浜・本町小学校　5年　30名
学芸員が「横浜初めて物語」について解説と質疑応答
○2月1日(火)・2月4日(金)　横浜・英和小学校　3年　60名
ボランティアによるテーマ5(現代の神奈川と伝統文化)の解説
○2月4日(金)　東京・世田谷区立舟橋中学校　1年　23名
ボランティアによるテーマ4(横浜開港と近代化)の解説
○2月17日(木)　鎌倉市立第二小学校　4年　77名
ボランティアによるテーマ4(横浜開港と近代化)、5(現代の神奈川と伝統文化)の解説

(カ)　インターンシップ(就業体験・職場訪問等)への対応状況

目的：　インターンシップは、生徒が学校に在学している期間中に、「勤労体験」「職業体験」活動を通じて、生徒が自主的に望ましい勤労観、職業観及び職業に関する知識や技術に触れ自己の個性を理解して、進路選択ができる能力及び態度を身につけることを目的とする。

当館のインターンシップは、簡略化した講座と見学を中心とした職場訪問的なものと、複数日にわたり、博物館という職場の役割や学芸員の仕事について紹介し、また、実際に資料を扱うことで、博物館の仕事をより具体的に知ることを目的とする就業体験的なものとがある。

対応状況：

a　就業体験的なもの(複数日にわたり博物館の業務・学芸員の仕事についての概要説明、施設の見学、就業体験等を実施)

○県立上矢部高校、県立平塚農業高校、白鵬女子高校、関東学院六浦高校(合計6名)
・日時：8月19日(木)～22日(日)　9：30～17:00
・内容：8月19日(木)：ガイダンス、ミュージアム・クイズラリー他館状況調査
20日(金)：民俗資料の整理作業
21日(土)：ライブラリーレファレンス業務、庶務事務
22日(日)：県博フレンズ会議準備作業

b　職場訪問的なもの(博物館の業務・学芸員の仕事についての概要説明を行い、施設見学を実施した。2～3時間程度。)

○7月15日(木)　神奈川県立大磯高等学校　1年 8名
○2月 3 日(木)　横浜市立本宿中学校　2年 4名

(キ)　横浜市立戸部小学校のクラブ活動支援

5月26日(学校との打ち合わせ)、6月8日、22日、7月6日、10月19日、26日、11月30日、12月14日の7回実施。戸部小学校が実施している地域の諸施設との連携のクラブ活動(4・5・6年生 18人)に対し支援を行った。

1回目は「博物館とはどんなところ」をテーマに「博物館とは何か」を学んだ。2～7回は、自分の気に入った資料について調べ、それについてのクイズを考え、また、他の児童の作ったクイズに答えながらその資料について知るなどの活動を行った。

(ク)　『歴史博物館の展示(常設)目録 ー学習指導要領・教科書との対照表ー』の更新

学校連携検討会議等での検討を受けて作成した『歴史博物館の展示(常設)目録 ー学習指導要領・教科書との対照表ー』(当館の常設展示資料と学習指導要領、教科書の主な単元項目が対照でき、さらに

学芸員が適宜見学のポイントを記したもの)について、平成17年度で小・中・高等学校の3種類の校種別目録が揃った。平成23年度からの小学校を初めとして中学校、高等学校と順次予定されている新学習指導要領の全面実施に向けて、今後随時改訂を検討。なお、この資料を基に、学校独自のワークシート作りを行なう学校が増えてきている。

(ｹ) 『常設展示品キャプション』の更新

学校連携検討会議等での検討を受けて作成した『常設展示品キャプション』について、展示替えなどによる情報の更新を適宜行った。

(ｺ) ワークシートの作成と更新

学校の見学学習の参考として活用するためにに作成した『ワークシート』について、実際の活用場面の調査をするとともに、広く現場の教員からも意見を聞くなどして内容の改訂を行っている。

(ｻ) 教員向け研修会の実施

a 「教員のための博物館講座」の開催

日 時：8月11日(水) 9:50～17:00
受講者：35名
概 要：「博物館と学校連携の実際」、「考古学からどう歴史を描くか ― 考古学入門、そして授業への活用」について講義。

b 10年経験者研修社会体験実習の受入

日 時：7月23日(金)・24日(土)・25日(日) 9:00～17:45
受講者：県立平塚盲学校高等部 溝渕 基嘉 教諭

c 初任者研修社会体験実習の受入

日 時：7月24日(土)・25日(日)・8月3日(火)・4日(水)・11日(水) 9:00～17:45
受講者：県立麻生高校 宇薄 仁 教諭

(ｼ) 博物館利用についての学校向けアンケート調査の実施

学校連携の充実に向けて今後の取組みの強化を図るため、県内の公立学校の協力を得て学校の博物館利用、教員研修の参加状況並びにニーズについてアンケートを行った。

a 調査時期：平成23年2月15日(火)～2月28日(月)
b 調査対象：過去6年間に当館を利用した県内の公立小・中学校、県立高等学校・特別支援学校を中心に、各学校1通のアンケートを送付。
○公立小・中学校にあっては、利用した学校が所在する市区町村の全学校
→小学校621校、中学校287校
○県立高等学校・特別支援学校にあっては全学校
→高等学校145校、特別支援学校25校
c 回 答 率：58.3%
d 調査項目

・当館の「利用状況」
・当館の「利用目的」
・当館利用の「理由」
・当館利用の「満足度」
・当館への「改善の声」
・博物館への「期待」
・博物館についての「学び」
・当館での「教員研修」
・当館の教員研修への「参加」
・教員研修への「期待」

(ｽ) ホームページ上で「こどものページ」の公開

ホームページに、新たに小学生・中学生向けの「こどものページ」を設け、当館で見学学習を行なった小・中学生から、作文や絵画などを募り、ホームページ上で公開している。

掲出期間	学校名	内容
平成22年8月1日～31日	茅ヶ崎市立今宿小学校 6年 三重県桑名市立陽和中学校 3年	作文 6名・絵画 8名 礼状 2名
平成22年9月11日～30日	横浜市立日野南小学校 4年	作文 5名
平成22年10月26日～ 11月28日	横須賀市立走水小学校 4,5年 横浜市立南吉田小学校 6年	作文 6名 礼状 7名
平成22年12月21日～ 平成23年1月31日	横浜市立戸塚小学校 6年	作文 9名
平成23年1月6日～2月7日	横浜市立並木第四小学校 6年	作文 7名
平成23年3月1日～31日	清泉小学校 3年	作文 15名
	横浜英和小学校 3年	作文 10名
	横浜市立戸部小学校 4～6年 「歴史博物館クラブ」	展示資料をスケッチしたカード 4年 4名、5年 9名、6年 3名

(6) ミュージアムライブラリー

県民の学習活動を支援する場として、１階フリーゾーンにミュージアムライブラリーを設置している。図書、映像、情報システムなどがあり、展示を中心とした神奈川の歴史や文化について学ぶことが出来る。

職員が１名以上常駐し、質問等を受け付けるなど、生涯学習の場として広く利用されるように運営している(図書、映像、情報システムの内容についてはそれぞれの項目に記載)。平成 22 年度の利用者総数は8,660名、フリーゾーンを含めた入館者に対する比率は8%である。

ア　閲覧用座席数：14席、映像ブース：3ヶ所7名分、来館者用情報システム端末：3台

イ　利用者数　(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
小学生	48	33	21	181	46	10	80	47	45	93	10	33	647
中学生	32	166	51	16	51	29	8	44	3	21	116	9	546
高校生	22	28	8	2	18	2	5	15	0	1	4	0	105
大学生	1	9	67	18	8	21	12	6	2	6	0	0	150
一般成人	542	631	460	540	531	402	488	383	359	412	413	277	5,438
65歳以上	131	174	106	111	117	137	187	196	133	177	169	124	1,762
その他	0	0	0	2	0	0	1	0	2	5	2	0	12
合計	776	1,041	713	870	771	601	781	691	544	715	714	443	8,660
開館日数	26	26	25	27	25	27	28	24	22	23	23	26	302
1日平均	29.8	40.0	28.5	32.2	30.8	22.3	27.9	28.8	24.7	31.1	31.0	17.0	28.7

ウ　利用形態

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
映像利用		2	5	6	13	16	7	15	6	16	5	8	1	100
情報システム		84	122	50	111	112	39	54	57	23	56	68	20	796
図　書		375	579	447	644	480	394	327	297	273	359	368	239	4,782
コピー・サービス	(件数)	36	42	27	39	42	35	56	43	27	88	46	24	505
	(枚数)	294	377	206	343	326	319	438	294	366	453	430	377	4,223

(7)　普及印刷物

ア　図録

「天狗推参！」　平成22年9月24日

「浮世絵☆忠臣蔵 ― 描かれたヒーローたち!? ―」　平成22年11月19日

イ　広報印刷物

「天狗推参！」　ポスター・チラシ

「浮世絵☆忠臣蔵 ― 描かれたヒーローたち!? ―」　ポスター・チラシ

「これからの催しもの(2011年4月～2012年3月)」　平成23年2月発行

ウ　神奈川県立歴史博物館だより

『神奈川県立歴史博物館だより』　VOL.16　№1　通巻184号　平成22年 9 月14日(2,000部)

『神奈川県立歴史博物館だより』　VOL.16　№2　通巻185号　平成22年11月20日(2,000部)

『神奈川県立歴史博物館だより』　VOL.16　№3　通巻186号　平成23年 3 月10日(2,000部)

(8)　ボランティアの活動

平成9年度から登録を行った博物館ボランティアは、平成21年度中の入門講座及び面接の結果、新たに27名の登録を行い、登録更新者76名を含めて103名となった。その内訳は、展示解説ボランティアが97名、情報処理ボランティアが3名(展示解説との兼任2名を含む)、行事補助ボランティアが5名である。

また平成14年度から活動期間を5年間とし、平成23年3月31日での任期満了者は28名である。

ア　活動状況及び実績

展示解説ボランティアは、常設展展示解説のほか、特別展開催中には1日2回の定時解説(11時、15時)を行っている。

情報処理ボランティアは、所蔵資料のフィルムデータから電子データへの画像入力作業を行っている。

行事補助ボランティアは、子ども向け行事の指導補助をはじめ、受付や案内など、学習支援事業の補助を行なっている。

また、ボランティア会は、幹事会(各曜日ごとの班から２名選出)を組織し、月１回、館側の担当者と様々な調整や、情報の交換を行なっている。また、『ボランティアニュース』を年3回、編集・発行している。

(ｱ)　活動日数及び人数

月	活動日数(日)	活動人数(人)	累計(日)
4	20	344	344
5	26	372	716
6	26	340	1,056
7	27	343	1,399
8	25	295	1,694
9	27	394	2,080
10	28	350	2,438
11	24	288	2,726
12	18	285	3,011
1	23	302	3,313
2	23	309	3,622
3	27	225	3,847

(ｲ)　年代別・男女別人数等

年代	男	女	計
20	0	2	2
30	2	2	4
40	1	8	9
50	1	9	10
60	43	19	62
70	14	2	16
合計	61	42	103
平均年齢	65.4	55.8	61.4

(ｳ)　曜日別ボランティア数(展示解説ボランティアのみ)
火曜班：16 名、水曜班：16 名、木曜班：16 名、金曜班：18 名、土曜班：15 名、日曜班：17 名

(ｴ)　情報処理ボランティア
水曜班：1 名(兼務)、金曜班：1 名、土曜班：1 名(兼務)

(ｵ)　行事補助ボランティア
5 名

(ｶ)　画像入力実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	136	91	76	85	115	150	89	85	219	93	68	47	1,254

イ　入門講座
平成 23 年度から博物館ボランティアとして活動を希望する方々を対象に開催している講座。当館の概要や常設展示の概略、研究活動等について説明を受けたのち、具体的な活動のイメージを持ってもらうため、活動中のボランティアから展示解説を受けた。終了後、希望者はボランティア登録の申し込みを行なう。

日　時：平成 23 年 2 月 5・12・19 日(土) 10:00～15:00

ウ　専門研修
展示解説に必要な当館の常設展示に関する知識や、資料の保存、教育普及活動について、その内容を知ってもらうために実施する。なお実地研修として、現役のボランティアとともに解説の演習を行なう。

日　時：平成 22 年 4 月 10・17・24、5 月 8・15・22・29 日(土) 10:00～15:00

エ　その他の研修
(ｱ)　特別展研修
特別展の展示解説に資する研修として、解説に必要な図録や資料を配布するとともに、展示された資料について、担当学芸員から解説の実地研修を行なった。

(ｲ)　フォローアップ研修

平成21年度より、常設展示解説のフォローアップとして、個々のテーマで研修講座を実施した。

実施日	テ　ー　マ
5月20日（木）	手話について
6月8日（火）	手話について
12月4日（土）	近年の発掘調査成果について　ー先史時代を中心としてー
1月22日（土）	鎌倉の発掘調査の成果について
2月20日（日）	博物館における展示解説と接遇について
3月26日（土）	ペーパークラフト製作指導について

(9)　博物館実習生の受け入れ

「神奈川県立歴史博物館　博物館実習生受け入れ要領」に基づき、見学実習と実務実習を受け入れた。

ア　見学実習

当館の概要(歴史・施設・組織・展示や事業概要など)について説明した後、展示室、バックヤード等の見学を行なう。

〇受入数　10大学　231名

〇受入校(来館日・大学名・人数)

来館日	大学名	人数
平成22年 6 月25日	防衛大学校	25名
平成22年 6 月27日	大正大学	22名
平成22年 7 月 3 日	京都造形美術大学	21名
平成22年 7 月 7 日	自治大学校	15名
平成22年 7 月 23日	駒澤大学	12名
平成22年 9 月 5 日	日本女子大学	23名
平成22年 9 月15日	龍谷大学	59名
平成22年10月14日	関東学院大学	20名
平成22年11月12日	日本大学	11名
平成22年12月11日	鶴見大学	23名

イ　実務実習

前期3日間と後期4日間にわたって行なわれる。前期は企画情報部が担当し、受講者全体で博物館運営に関わる業務及び教育普及事業などについて学ぶ。後期は学芸部の各分野に分かれ、資料の取り扱いや整理の方法などについて学ぶ。

○受入数　24 大学、32 名
○受入校(大学名・受入人数)

大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数
立教大学	1 名	首都大学東京	1 名	聖徳大学	1 名
清泉女子大学	2 名	学習院大学	2 名	大妻女子大学	1 名
東洋英和女学院大学	1 名	関東学院大学	2 名	法政大学	1 名
神戸夙川学院大学	1 名	鎌倉女子大学	1 名	目白大学	2 名
桜美林大学	2 名	駒澤大学	1 名	共立女子大学	1 名
国士舘大学	2 名	筑波大学	1 名	山口大学	1 名
昭和女子大学	1 名	お茶の水女子大学	1 名	東海大学	1 名
日本女子大学	2 名	大東文化大学	1 名	日本大学	2 名

(ｱ)　実務実習(前期実習)　　担当：企画情報部(全員参加、日程、内容)

a　1 日目：6 月 4 日(金) 10:00～17:00
・前期実習のガイダンス
・当館の概要について(施設の概要、当館の活動について)
・教育普及活動の実践①(全体説明)
・教育普及活動の概要(当館の教育普及事業、学校連携事業、子ども向け事業)
・館内見学(常設展示室)
・博物館と図書資料について(収集方針、所蔵資料、書庫・ミュージアムライブラリー見学)

b　2 日目：6 月 5 日(土) 10:00～17:00
・博物館情報システムについて
(収蔵品管理システム、デジタル・ミュージアム、セキュリティ、情報バリアフリー)
・博物館と写真資料について(博物館における写真とは、撮影対象について、撮影後のこと)
・写場、情報システム見学
・館内見学(バックヤード、収蔵庫周辺、設備・防災・防犯関係、屋上ドームなど)
・広報活動について(博物館における広報、広報担当の役割、広報活動の現状)
・教育普及活動の実践②(展示解説実習、ミュージアムツアー、作成指導、作業)

c　3 日目：6 月 6 日(日) 10:00～17:00
・教育普及活動の実践③(展示解説実習、ミュージアムツアー、作業)
・当館のボランティア制度について(沿革、現在の活動)
・教育普及活動の実践④(発表、講評)

(ｲ)　実務実習(後期実習)　　担当：学芸部(実習分野・グループ別参加者数、日程、内容)

a　近世 7 名、6 月 22 日(火)～25 日(金) 10:00～17:00
・展示の基礎知識と技術Ⅰ(夏の特別企画「まつり」の準備＝展示資料の調書の取り方、キャプション作製等)
・資料整理と保存処理の基礎知識と実務
・資料の特性と脱酸素処理について
・地方文書(久崎家文書)の整理と目録作製
・近世美術資料の取扱い(正文堂版木の整理、調査作製、保存処理)
・展示の基礎知識と技術Ⅱ(夏の特別企画「まつり」の準備＝キャプション・パネル作製の実際)

b　近現代 9 名、7 月 6 日(火)～9 日(金) 10:00～17:00

・展示の解説演習(1)(常設展示の解説手法を学ぶ)、博物館資料の保管(脱酸素方法を実践する)
・展示の解説演習(2)(常設展示の解説手法を考案する)
・展示の解説演習(3)(常設展示の解説手法を実践する)
・博物館資料の取扱い(1)(近現代資料の梱包と保管方法を学ぶ)
・博物館資料の取扱い(2)(近現代資料の整理方法と調書作成を学ぶ)

c　民俗 7名、10月12日(火)～15日(金) 10:00～17:00
・民俗資料の収集法について、民俗資料の調査法について
・民俗資料カードの整理法について、民俗資料の整理法について
・民俗資料の取扱いについてⅠ・Ⅱ、民俗資料の入力法について、
・民俗資料の調査作成法について

d　中世 9名、10月19日(火)～22日(金) 10:00～17:00
・歴史資料の取扱いⅠ(書跡・典籍作品の取扱いと梱包〈掛幅・巻子〉)、作品の点検と調書の作成)
・歴史資料の取扱いⅡ(中世古文書の形態と分類、中世古文書の保管、形態と扱い〈掛幅・巻子〉)
・美術史料の取扱いⅠ(梱包材の作成、彫刻・工芸作品の取扱い[点検・梱包])
・美術史料の取扱いⅡ(作品の点検・梱包、絵画作品の鑑賞と取扱い〈掛幅・絵巻〉)、絵画資料の展示と保管環境について

６　資料

(1)　条例・規則

ア　神奈川県立の博物館条例

（昭和41年10月7日
条例第43号）
最終改正 平成21年3月27日条例第25号

(趣旨)

第1条　この条例は、神奈川県立の博物館の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条　博物館法(昭和26年法律第 285号)に基づき、次のとおり神奈川県立の博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

名　　称	位　　置	目　　的
神奈川県立歴史博物館	横浜市中区南仲通5丁目60番地	神奈川の文化及び歴史に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。
神奈川県立生命の星・地球博物館	小田原市入生田499 番地	地球及び生命の営みに関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。

(職員)

第3条　博物館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(観覧料の納付)

第4条　博物館に展示している博物館資料を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している博物館資料の観覧については、この限りでない。

2　前項本文の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会(以下「教育委員会」という。)がその都度定めることができる。

3　前2項の観覧料は、前納とする。

(観覧料の減免)

第5条　前条第1項本文及び第2項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

(1) 教育委員会が開催する行事に参加する者

(2) 教育課程に基づく教育活動として入館する高校生(学校教育法 (昭和22年法律第26号。別表備考において「法」という。) 第 1 条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者をいう。別表において同じ。)並びに児童及び生徒の引率者

(3) その他教育委員会が適当と認めた者

(観覧料の不還付)

第6条　既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りでない。

(資料の特別利用)

第7条　博物館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(利用の制限)

第8条　教育委員会は、博物館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

(1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

(2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。

(3) 施設、博物館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。

(4) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(委任)

第9条　この条例に定めるもののほか、博物館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附　則

この条例は、公布の日から起算して 6 月をこえない範囲内で教育委員会規則で定める日から施行する。(昭和41年11月18日教育委員会規則第8号で、同41年11月21日から施行。ただし、第4条から第9条までの規定

の施行期日にあつては昭和42年3月22日とし、第10条の規定の施行期日にあつては昭和42年4月1日とする。)
(略)

附　則(平成21年3月27日条例第25号)

この条例は、平成21年7月1日から施行する。

別表(第4条関係)(抄)

区　　分		個　　人	20人以上の団体
神奈川県立歴史博物館	20歳以上65歳未満の者 (学生及び高校生を除く。)	1人につき　300円	1人につき　250円
	20歳未満の者(高校生を除く。)	同　200円	同　150円
	学生(65歳以上の者を除く。)		
	65歳以上の者	同　100円	同　100円
	高　校　生		

備考　1　学生とは、法第1条に規定する大学及び高等専門学校、法第124条に規定する専修学校並びに法第134条第1項に規定する各種学校に在学する者をいう。

2　学齢に達しない者、並びに法第1条に規定する小学校、中学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

イ　神奈川県立の博物館組織規則

(昭和41年11月18日 教育委員会規則第10号)

最終改正　平成18年3月31日教育委員会規則第13号

(趣旨)

第1条　この規則は、神奈川県立の博物館の組織に関し必要な事項を定めるものとする。

(部等の設置)

第2条　神奈川県立の博物館に、次の部及び課を置く。

管理課

企画情報部

企画普及課

情報資料課

学芸部

(管理課の事務)

第3条　管理課においては、次の事務を分掌する。

(1) 公印に関すること。
(2) 文書の収受、発送、保存、閲覧等に関すること。
(3) 個人情報の開示、訂正、利用停止等に関すること。
(4) 人事に関すること。
(5) 財産の管理及び館内の秩序の維持に関すること。
(6) 予算の経理に関すること。
(7) 観覧料の徴収に関すること。
(8) 物品の調達及び処分に関すること。
(9) 寄贈品の受納並びに寄託品の受納及び返納に関すること。
(10) その他他部課の主管に属しないこと。

第4条　削除

(企画普及課の事務)

第5条　企画普及課においては、次の事務を分掌する。

(1) 博物館活動の企画及び調整に関すること。
(2) 博物館活動の普及及び広報に関すること。
(3) 博物館活動に関する講演会、講習会、研究会等の開催に関すること。
(4) 他の博物館その他教育、学術又は文化に関する施設、団体等との連絡、協力及び情報の交換に関すること。

(情報資料課の事務)
第6条　神奈川県立歴史博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。
(1) 人文科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
(2) 博物館情報システムの運用に関すること。
2　神奈川県立生命の星・地球博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。
(1) 自然科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
(2) 博物館情報システムの総合的企画及び調整並びに運用に関すること。
(学芸部の事務)
第7条　学芸部においては、次の事務を分掌する。
(1) 博物館資料の収集、製作、整理、保管、展示、解説及び指導に関すること。
(2) 博物館資料の専門的及び技術的な調査研究に関すること。
(委任)
第8条　この規則の施行に関し必要な事項は、神奈川県教育委員会教育長が定める。
附　則
この規則は、昭和41年11月21日から施行する。
(略)
附　則(平成18年3月31日教育委員会規則第13号)
この規則は、平成18年4月1日から施行する。

ウ　神奈川県立の博物館の利用等に関する規則

(昭和41年11月18日 教育委員会規則第9号)
最終改正 平成12年12月15日教育委員会規則第25号

(趣旨)
第1条　この規則は、神奈川県立の博物館の利用等に関し必要な事項を定めるものとする。
(権限の委任)
第2条　次に掲げる神奈川県教育委員会の権限は、神奈川県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)に委任する。
(1) 神奈川県立の博物館条例(昭和41年神奈川県条例第43号。以下「条例」という。)第4条第2項の規定により観覧料を定めること。
(2) 条例第5条の規定により観覧料を減免すること。
(3) 条例第6条ただし書の規定により観覧料の還付を認めること。
(4) 条例第7条の規定により利用を承認すること。
(5) 条例第8条の規定により利用を制限すること。
(休館日等)
第3条　神奈川県立歴史博物館及び神奈川県立生命の星・地球博物館(以下「博物館」という。)の休館日は、次のとおりとする。
(1) 月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「国民の祝日等」という。)に当たるときを除く。)
(2) 国民の祝日等の翌日(土曜日、日曜日又は国民の祝日等に当たるときを除く。)
(3) 12月28日から翌年の1月4日まで
(4) その他教育長が定める日
2　前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、臨時に博物館を開館することができる。
(開館時間等)
第4条　開館時間は、次のとおりとする。

名　　称	開　　館　　時　　間
神奈川県立歴史博物館	午前9時30分から午後5時まで。ただし、午後4時30分以降は、入館することができない。
神奈川県立生命の星・地球博物館	午前9時から午後4時30分まで。ただし、午後4時以降は、入館することができない。

2　前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、これを変更することができる。
(観覧券の交付)
第5条　教育長は、博物館に展示している博物館資料を観覧するため、条例第4条の規定により観覧料を納めた者に観覧券を交付するものとする。
(観覧料の減免申請)
第6条　観覧料の減免を受けようとする者は、あらかじめ、観覧料減免申請書を教育長に提出し、観覧料減免承認書の交付を受けなければならない。
(観覧料の還付申請)
第7条　観覧料の還付を受けようとする者は、観覧料還付申請書に観覧券を添えて教育長に提出し、観覧料還付承認書の交付を受けなければならない。
(資料の特別利用)
第8条　条例第7条の規定により博物館資料の特別利用の承認を受けようとする者は、特別利用承認申請書を教育長に提出し、特別利用承認書の交付を受けなければならない。
(利用の方法)
第9条　博物館を利用する者は、博物館の管理上必要な事項を守り、職員の指示に従わなければならない。
(資料の館外貸出し)
第10条　次に掲げるものは、教育長の承認を受けて博物館資料の館外貸出しを受けることができる。
(1)　国立の博物館、博物館法(昭和26年法律第 285 号)第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文部科学大臣の指定した博物館に相当する施設
(2)　社会教育法(昭和24年法律第 207 号)第21条に規定する公民館
(3)　国立の図書館及び図書館法(昭和25年法律第 118 号)第2条第1項に規定する図書館
(4)　学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する学校
(5)　その他教育長が適当と認めるもの
2　前項の規定による承認を受けようとするものは、館外貸出承認申請書を教育長に提出し、館外貸出承認書の交付を受けなければならない。
(館外貸出しの期間)
第11条　博物館資料の館外貸出しの期間は、30日以内とする。ただし、教育長は、特に必要があると認めるときは、これを延長することができる。
2　前項の館外貸出しの期間は、博物館が当該博物館資料を引き渡した日から起算してその返還を受ける日までの日数により算定するものとする。
3　教育長は、館務の都合により必要があるときは、博物館資料の館外貸出しの期間中であつても、当該博物館資料の返還を求めることができる。
(館外貸出しをした資料の利用方法)
第12条　博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所で、利用してはならない。
(資料滅失等の届出)
第13条　博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちに資料滅失(損傷)届出書を教育長に提出しなければならない。
(寄託を受けた資料の利用の制限)
第14条　寄託を受けた博物館資料の館外展示及び館外貸出しは、寄託者の承諾がある場合のほかは、行なうことができない。
(委任)
第15条　この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附　則

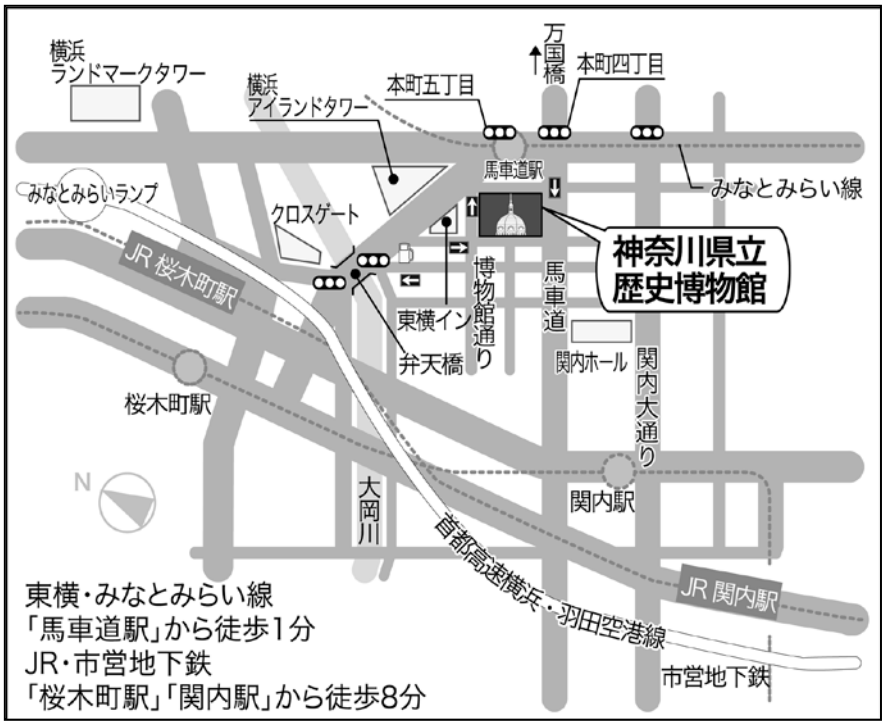
この規則は、昭和41年11月21日から施行する。ただし、第2条から第9条までの規定は、昭和42年3月22日から施行する。
(略)

附　則(平成12年12月15日教育委員会規則第25号)

この規則は、平成13年1月6日から施行する。

(2) 利用案内

1 名　　称 ： 神奈川県立歴史博物館 (Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History)
2 所 在 地 ： 横浜市中区南仲通5-60　　〒231-0006
3 電　　話 ： 045-201-0926(代表)
4 ＦＡＸ ： 045-201-7364
5 ホームページ ： http://ch.kanagawa-museum.jp/
6 交　　通 ： 東横・みなとみらい線「馬車道」駅5番出口より徒歩1分、
JR京浜東北・根岸線、横浜市営地下鉄ブルーライン「桜木町」駅または「関内」駅より徒歩8分
7 休 館 日 ： 月曜日(ただし、祝日の場合は開館)、資料整理休館日、年末年始
8 観 覧 料 ： ○常設展
・20歳以上(学生を除く)：300円(250円)　(　)内は20名以上の団体
・20歳未満及び学生：200円(150円)
・高校生及び65歳以上：100円(100円)
・中学生以下及び障がい者手帳をお持ちの方は無料
○特別展
・常設展とは別料金となり、金額は展示ごとに別途定める。
○コレクション展
・無料
9 団体見学 ： 事前にご連絡ください。
10 地　　図



神奈川県立歴史博物館年報　平成22年度

2011年10月4日

編集・発行　〒231-0006
横浜市中区南仲通5-60
神奈川県立歴史博物館

本書の無断転載を禁ず

この冊子は、再生紙を使用しています。

ISSN 1346-6127

Kanagawa Kenritsu Rekishi Hakubutsu-kan

Nen-po

Annual Report of the Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

(2010.4～2011.3)

Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

Naka-ku, Yokohama-shi, Kanagawa, JAPAN

2011